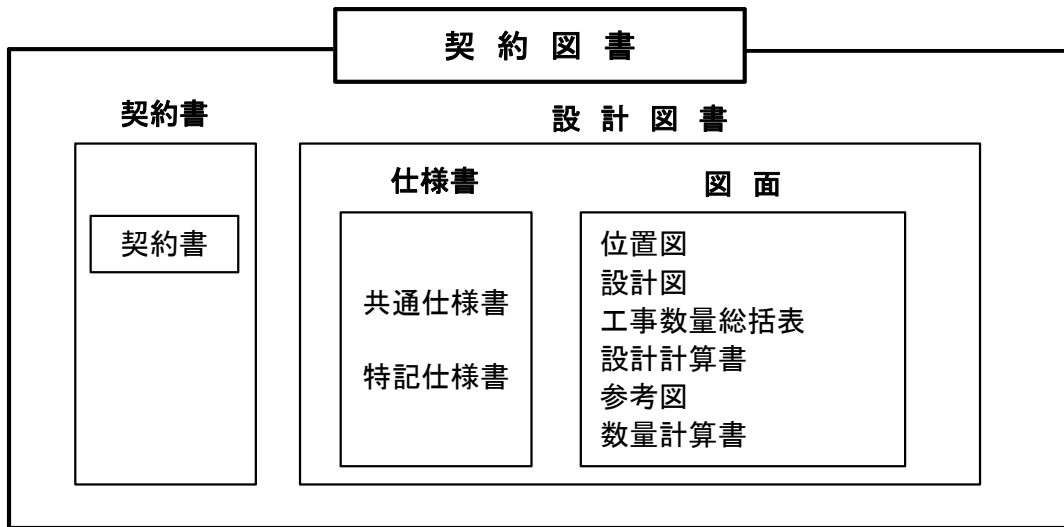


特記仕様書

工事番号 第 301 号

工事名 森林管理道大津長節線開設工事



北海道十勝総合振興局

◎ 各種積算内容等一覧表

1 現場環境改善費

①現場環境改善費の採否 採 適用

2 施工地域・工事場所による補正

①一般交通影響有り(1)

②一般交通影響有り(2)

③市街地

④山間僻地 採 適用

④上記以外

3 山林砂防工の適否

①山林砂防工の採否 否

4 冬期労務・現場管理費の補正

①労務歩掛の補正 無

②現場管理費の補正 有 適用

③参考工期日数等

全工期日数 206 日

冬期日数 20 日

※現場管理費の補正は11月1日～

5 建設物価・積算資料

①適用号 無

6 土木コスト情報・土木施工単価

①適用号 有 冬号

特記仕様書

工事名： 森林管理道大津長節線開設工事

1、一般事項

1) 共通仕様書の適用

- 1 本工事は、本特記仕様書によるほか、北海道水産林務部制定の「森林土木工事共通仕様書（令和6年4月改訂版、以下、「共通仕様書」）」及び関係法規・規則を遵守して実施すること。
なお、共通仕様書は下記のwebページを参照すること。
[http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/sum/03kanrig/R06_4koujishiyousyo.htm]

2) 工事に使用する材料

- 1 本工事施工の為、使用する材料は、森林土木共通仕様書「第2章 材料」に記載されたもの他、別冊の「使用資材一覧表」による。
- 2 受注者は、本工事で使用する資材の種別等について施工計画書に表記するほか、使用以前に工事監督員に承諾願を提出し、承諾を受けてから使用すること。

3) 標準図

- 1 標準図は標準的な施工図、又は出来型を示すものであり、現地の状況に応じて受注者は十分照査の上、工事を施工するものとする。なお、施工内容で変更の必要が生じた場合は、発注者と受注者が協議の上、設計変更を行う。

4) 概数の適用

- 1 工事数量総括表の工事内訳書等の「適用」又は「備考」欄に（概）又は「概数」と記して示した数量は、概数であり、現地の状況に応じて設計変更をする。
なお、設計上過大な出来高に対して変更するものではないので留意すること。
- 2 この工事においては、設計変更に係る図書（設計変更図面の作成及び工事数量の算出）を受注者に行わせることがある。この場合、発注者と受注者は協議するものとする。
- 3 概数に係る工事の施工に当たっては、施工図等を作成の上、工事監督員と協議すること。
- 4 土工量の精査に伴い、新たに必要となる項目についても概数とする。
- 5 工法の変更、主要構造物等の構造・規格・品質の変更、新工種は概数として扱わない。
- 6 視線誘導標、道路反射鏡、標識、取付道路、路面排水工、溝渠工（暗渠）、側溝工（トラフ）、路床排水工、集水枘、防護柵の施工位置については、監督員と協議し決定すること。
- 7 概数に係る標準図は、標準的な施工図、又は出来形を示すものであり、現地の状況に応じて受注者は十分照査の上、工事を施工するものとする。なお、施工内容で変更の必要が生じた場合は、発注者と受注者が協議の上設計変更を行う。

2、工程関係

1) 跡請保証

- 1 植生工（種子散布工・有機材種子散布工）については、令和6年8月31日までに施工すること。
なお、施工できない場合は、別途協議することとする。
植生工に跡請保証が付された場合、跡請保証期間終了時には以下の品質を満足すること。
「植生状態は植生面から1.0m離れると、法面全体が「緑」に見え、植被率が70～80%以上であること。植生面に1m四方以上の裸地が無いこと。」
- 2 本工事の有機材種子散布工・種子散布工は、別紙適応条件表の施工適期までに施工すること。
施工できない場合は、別途協議することとする。
なお、施工適期は8月31日を限度に設計をしているが、現場の外気温を測定し、平年値の平均気温と比較し施工適期を決定すること。
- 3 本工事の伏工（張芝）については、令和6年12月11日までに施工すること。
なお、施工できない場合は、別途協議することとする。
なお、検査時点において、芝が生育しておらず、根の活着が確認できない事に施工することとする。

3、公害対策関係

1) 工事公害防止のための制限

- 1 本工事のうち資材運搬路通行において、飛散砂利及び粉塵等により周辺農地に影響を与えないよう注意しなければならない。
- 2 本工事において使用する一般公道において、路面汚損等の恐れがある場合は、防止のための措置を講ずること。
- 3 本工事のうち資材運搬路通行において、騒音、振動等により周辺の家畜に影響を与えないよう注意しなければならない。

4、安全対策関係

1) その他安全対策等

- 1 チェンソーで伐倒する場合は胸高直径によらず、全ての伐倒木に受け口をつけること。
- 2 刈払機・チェンソーの取扱については、共通仕様書を参考とすること。

5、建設副産物関係

1) 他流用土処理の指定等

- 1 本工事で発生する他流用土は、S P331.54～350.00 (L) に運搬し林業作業用施設として整地すること。
- 2 すき取り土内の不良土壌や有害な雑物（ゴミ等）を取り除かなければならない。また、草刈後の草、枯れ葉、木の枝根、その他（空き缶やビニールくず等）はあらかじめ除去しなければならないが、すき取り土にこれらが混入し分離等が不可能な場合は監督員と協議を行い、適正に処理を行うこと。

2) 産業廃棄物の指定等

- 1 この工事は建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（平成12年法律第104号以下「建設リサイクル法」）に基づき、分別解体等及び特定建設資材廃棄物の再資源化の実施が義務付けられた工事である。
- 2 分別解体等によって発生する特定建設資材廃棄物（コンクリート塊、発生木材、アスファルトコンクリート塊）は、次のとおり再資源化等を実施することとするが、受注者において適正な処理施設を選定し、施工計画書に建設廃棄物における蔽影処理計画について記載すること。また処分場所については、積算上の条件明示であり、処分場所を指定するものではない。なお、受注者の提示する処理施設と積算上想定している処理施設が異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の堰によるものではない事項についてはこの限りではない。また、変更が生じた場合は、必要な資料を提出の上、工事監督員と協議すること。

コンクリート塊（有筋）

- (1) 処分方法 : 十勝総合振興局管内（受入可能な施設うち、積算上運搬費等も含めて一番安価な処理施設を想定）
- (2) 運搬方法 : 片道運搬距離20.0km
- (3) 処理方法 : 再資源化
- (4) 受入条件 : 30cm以下に破砕したもの

コンクリート塊（無筋）

- (1) 処分方法 : 十勝総合振興局管内（受入可能な施設うち、積算上運搬費等も含めて一番安価な処理施設を想定）
- (2) 運搬方法 : 片道運搬距離20.0km
- (3) 処理方法 : 再資源化
- (4) 受入条件 : 30cm以下に破砕したもの

3 本工事で発生する特定建設資材廃棄物以外の廃棄物の処理については、次のとおりとするが、処理場所については、積算上の条件明示であり、処分場所を指定するものではない。なお、受注者の提示する処理施設と積算上想定している処理施設が異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものではない事項についてはこの限りではない。また、変更が生じた場合は必要な資料を提出の上、工事監督員と協議すること。

廃棄物の種類	処理施設	処分方法	運搬距離
伐根・枝条	十勝総合振興局管内	中間処理	片道運搬距離20.0km
コンクリート塊	十勝総合振興局管内		片道運搬距離20.0km

※処分場所は、受入れ可能な施設のうち、積算上運搬費等を含めて一番安価な処理施設を想定。

4 この工事における分別解体等の方法については次のとおりである。
 なお、積算上の条件明示であるため、分別解体等の方法を指定するものではない。

工程	作業内容	分別解体等の方法
②本体、基礎及び基礎ぐいの取り壊し		
特定建設資材廃棄物	作業内容	分別解体等の方法
コンクリート塊	解体工事	手作業・機械作業の併用

- 5 産業廃棄物の処理を委託する場合は、許可内容を確認し、収集運搬業者及び処分業者などと事前に書面により委託契約を行うとともに、建設廃棄物管理票（マニフェスト）を提出すること。
- 6 廃棄物を仮置き（一時保管）する場合は、放置、不法投棄とみなされないよう、廃棄物の名称、保管管理者の氏名連絡先等を記載した掲示板（縦、横60cm以上）及び囲いを設置し、適正に保管すること。
- 7 当該工事受注後速やかに再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書の必要事項を記載し工事監督員に提出すること。
 また、実施状況を把握し、再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書を作成し、工事完成後工事監督員に提出するとともに、1年間保存すること。

3) 伐開物の処理の指定等

- 1 本工事において伐採することとして指定された立木以外の立木について、伐採の必要が生じた場合は工事監督員と協議すること。
- 2 本工事区域内の支障木の伐採は受注者が行うものとし、伐採の仕様については、枝払いを行う。また、丸太の長さ・集積箇所については、森林所有者を交えて3者で協議した後決定すること。伐採区間はSP0～SP480であり、伐採に当たっては工事監督員に確認を行った上、実施すること。

4) 循環税について

- 1 当該工事では循環税相当額を計上していないが、適正な工程管理において産業廃棄物が最終処分場または中間処分場に搬入されて、循環税相当額が必要となる場合は別途協議すること。

6, 品質管理試験等

1) 基礎地盤支持力試験の指定等

- 1 本工事において、基礎地盤支持力の確認のためにスウェーデン式サウンディング試験を行うものとする。ただし、基礎地盤において岩盤が確認された場合は、その時点で工事監督員を協議すること。
 また、スウェーデン式サウンディング試験は、基礎面から1m以上土砂を残した状態で行うこと。
- 2 試験箇所及び設計地盤支持力については、次のとおり。

測点	試験位置	設計地盤支持力	備考
溝渠工(SP56)	h1	139.2kN/m2	
溝渠工(SP56)	h2	125.2kN/m2	

- 3 試験結果については、所定の様式に整理した後、速やかに工事監督員と協議し、了解を得てから施工に着手すること。

7, その他

1) 現場環境改善費について

- 1 現場環境改善は、周辺住民の生活環境への配慮及び一般住民への建設事業の広報活動、現場労働者の作業環境の改善を行うために実施することを目的とする。
- 2 現場環境改善の実施内容については、次のとおりとする。
 - ① 別表1より、実施する項目を選択する。
 - ② 実施内容は仮設備関係、安全関係、営繕関係、地域連携のうち5項目を基本とし、具体的な実施内容、実施時期については、施工計画書を提出する際に協議する。
- 3 工事完了時には、現場環境改善の実施状況がわかる写真等の資料を提出する。

2) 除雪費の計上

- 1 資材運搬等の除雪について、当初設計では計上していないが、新雪10cm以上の降雪があった場合は、監督員と協議の上、設計変更する。

3) 工事施工成績評定

- 1 本工事は施工成績評定対象工事である。

4) 段階確認

- 1 本工事における段階確認事項は共通仕様書によるもののほか、別紙のとおりとし、適期に段階確認願いを提出し、確認時期について工事監督員と協議し、確認後施工するものとする。

工 種	確 認 事 項	確 認 時 期	備 考
準備工	I P 杭設置状況 (角度、距離)	丁張り設置完了時	抽出(数力所)
	切盛土丁張り設置状況(距離、高さ、勾配)	丁張り設置完了時	
	除根前・除根後の確認		除根する根株と除根しない根株の管理
	重量の確認	廃棄物処理後	
切土工・盛土工	土質の確認	土工着手前	
路盤工	路床の確認	施工後速やかに	
排水施設工	床堀状況、基礎地盤、湧水状況	床堀掘削完了時	施工方法、設置位置確認
法面保護工	土壌硬度、施工時期	法面整形後	
各支持力試験	基礎地盤状況	試験時	

5) 現場不適合について

- 1 当該工事の施工に際し、設計図書と現場条件の不一致が発見された場合は、直ちに立会願により工事監督員に報告し、協議すること。

6) コンクリート再生骨材の使用について

- 1 当該工事におけるコンクリート再生骨材の使用については、次のとおりとする。

(1) 規格、使用数量及び適用工種等

コンクリート再生骨材：0～40mm (上層路盤等) 273.4m³

コンクリート再生骨材：0～80mm (下層路盤、基礎砂利等) 331.3m³

- 2 現場から再資源化施設までの距離20.0km (積算上、運搬費等も含めて一番安価な処理施設を想定)

- 3 施工時期が確定した時点で、再資源化施設に供給量の確認を行い、施工協議簿に別紙「再生骨材の出荷確認について」の写しを添付し、工事監督員に報告するとともに、変更がある場合は設計変更の協議を行うこと。

7) 地域外からの労働者確保に要する間接費の設計変更について

- 1 本工事は、「共通仮設費のうち営繕費」及び「現場管理費のうち労務管理費」の下記に示す費用 (以下「実績変更対象費」という。) について、工事実施に当たって不足する技術者や技能者を広域的に確保せざるを得ない場合も考えられることから、契約締結後、労働者確保に要する方策に変更が生じ、森林土木事業積算要領に基づく金額相当では適正な工事の実施が困難となった場合は、実績変更対象費の支出実績を踏まえて最終積算変更時点で設計変更する試行工事である。

営 繕 費 : 労働者送迎費、宿泊費、借上費

(宿泊費、借上費については、労働者確保に係るものに限る。)

労務管理費 : 募集及び解散に要する費用、賃金以外の食事、通勤等に要する費用

- 2 発注者は、当初契約締結後、予定価格に対する実績変更対象費の割合を受注者に提示するものとする。

- 3 受注者は、当初契約締結後、前項で示された割合を参考にして実績変更対象費に係る費用の内訳を記載した実施計画書 (様式1) を作成し、工事監督員に提出するものとする。

- 4 最終積算変更時点において、実績変更対象費の支出実績を踏まえて設計変更する場合、受注者は、変更実施計画書 (様式2) 及び実績変更対象費として実際に支払った全ての証明書類 (領収書、領収書を取得できないものは金額の適切性を証明する金額計算書など。) を工事監督員に提出し、設計変更の内容について協議するものとする。

- 5 受注者の責めによる工事工程の遅れ等受注者の責めに帰すべき事由による増加費用については、設計変更の対象としない。

- 6 実績変更対象費の支出実績を踏まえて設計変更する場合、共通仮設費率は、森林土木事業積算要領に基づく算出額から実施計画書 (様式1) に記載された現場管理費の合計額を差し引いた後、証明書類において確認された費用を加算して算出する。また、現場管理費は、森林土木事業積算要領に基づく算出額から実施計画書 (様式1) に記載された現場管理費の合計額を差し引いた後、証明書類において確認された費用を加算して算出する。

- 7 受注者から提出された資料に虚偽の申告があった場合については、法的措置及び指名停止等の措置を行う場合がある。

- 8 疑義が生じた場合は、工事監督員と協議するものとする。

8) 電子納品

- 1 本工事は電子納品対象工事とする。電子納品の運用にあたっては、「電子納品基準及び運用ガイドライン【森林土木工事編】」(平成27年7月) (以下「ガイドライン」という。) に基づくものとし、受注者の体制や準備の状況を考慮し工事監督員と協議のうえ、電子化の範囲等を決定しなければならない。なお、ガイドラインは最新版を使用すること。

- 2 成果品は、ガイドラインに基づいて作成した電子データを電子媒体 (CD-R又はDVD-R) で正副2部提出する。ガイドラインに記載のない項目については、原則として電子データを提出する義務はないが、ガイドラインの解釈に疑義がある場合は工事監督員と協議のうえ、電子化の是非を決定する。

なお、電子化の困難な資料及び施工計画書、工事施工協議簿、工事旬報等の押印された書類、出来形図、代表写真については、紙による成果品を1部納品する。

- 3 成果品の提出の際には、電子納品チェックシステム (土木) (国土交通省) または市販のチェックシステム (ガイドラインに準拠したもの) によるチェックを行い、エラーの無いことを確認する。

なお、電子納品チェックシステム (土木) を使用する場合、国土交通省の要領とガイドラインに差異のある箇所についてはチェックを行わなくてもよい。(目視等でチェックを行う) チェックを行った後、ウイルス対策を実施したうえで提出すること。

- 4 ガイドラインについては、北海道水産林務部総務課HP (下記URL参照) からダウンロード出来る。
http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/sum/kanri_group.htm

9) ワンデーレスポンスについて

- 1 本工事は、ワンデーレスポンス試行対象工事である。「ワンデーレスポンス」とは、受注者からの質問、協議への回答は、基本的に「その日のうち」若しくは、「翌日」の一両日中に回答する取組である。(「翌日」が閉庁日の場合は、翌開庁日とする。)

ただし、一両日に回答が困難な場合は、いつまでに回答が必要なのかを受注者と協議のうえ、回答期限を設けるなど、受注者が次の取組ができるような回答を「その日のうち」若しくは「翌日」の一両日中に行うこととする。

- 2 受注者は、ワンデーレスポンスを要する場合、事実が確認できる資料を添付のうえ、工事施工協議簿の右上余白に「【ワンデーレスポンス対象協議】」と記載し、工事監督員に提出すること。

- 3 受注者は、2の協議について、必要に応じ「協議事項」欄に「【回答期限日】」を記載すること。

- 4 発注者が効果・課題等を把握するため、アンケート等のフォローアップ調査を実施する場合、受注者は協力すること。

10) 週休2日制を促進する森林土木工事の試行対象工事

- 1 本工事は、受注者の希望により「週休2日」を実施することができる工事であり、実施の有無について施工計画書を提出する際に工事監督員と協議するものとする。

- 2 週休2日を促進する対象期間は着手日から完了日までとする。
週休2日とは、対象期間において土日・祝日に関わらず、4週8休以上の現場閉所を行うことをいう。
対象期間は、工事着手日から工事完成日までの期間をいう。なお、年末年始休暇の6日間（12月29日から1月3日）及び夏期休暇の3日間（8月13日から8月15日）、工場作成のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間、発注者があらかじめ対象外としている内容に該当する期間（受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間など）は対象期間に含まない。
- 3 現場閉所とは、実質的に現場作業を行っていない日のことをいい、現場点検やコンクリート養生、書類整理等の実施など現場管理上必要な作業は現場作業に含まない。
- 4 4週8休以上とは、対象期間内の現場閉所日数の割合（以下、「現場閉所率」という。）が28.5%（8日/28日）以上の水準に達する状態をいう。
- 5 当初予定価格から4週8休以上の達成を前提とした補正係数を各経費に乗じており、対象期間における現場閉所達成状況を確認後、4週8休に満たない場合は履行状況に応じた補正係数を、労務費、機械経費（賃料）、共通仮設費率、現場管理費率に乗じる設計変更を行う。また、市場単価についても、現場閉所に応じた補正係数を乗じる。なお、その他の労務費分が明らかとなっていない単価等については、補正の対象としない。

1) 現場の閉所状況

- ① 4週8休以上・・・現場閉所率が28.5%（8日/28日）以上の場合
- ② 4週7休・・・現場閉所率が25.0%（7日/28日）以上28.5%未満の場合
- ③ 4週6休・・・現場閉所率が21.4%（6日/28日）以上25.0%未満の場合

2) 4週6休に満たないもの及び工事着手時に受注者が週休2日の取り組みを希望しないものについては、補正の対象としない。

- 6 対象期間を通し週休2日相当（4週8休以上）の現場閉所を実施した場合には、工事成績評定において加点評価とする。
なお、実施できなかったことを理由に減点措置等のペナルティーは行わない。
- 7 受注者は工事現場又はその周辺の一般通行人等が見やすい場所に、「週休2日制確保試行工事」である旨を掲示板に標示するものとする。
- 8 受注者は週休2日の計画工程表を施工計画書に添付して工事監督員へ提出するものとする。
- 9 受注者は、週休2日の取得状況を工事旬報等により定期的に工事監督員へ報告するものとする。
また、履行確認時には実施工程表等により休日取得結果を工事監督員に報告するものとする。

11) 熱中症対策に資する現場管理費の補正について

- 1 本工事は、熱中症対策に資する現場管理費の補正を行う試行工事の対象とし、日最高気温の状況に応じた現場管理費の補正を行う工事である。
- 2 この補正は、工期期間中の日最高気温30℃以上の日（以下真夏日）について真夏日率を算出し現場管理費の補正を行うものであり、対象となる期間は通常工期であることから、次の期間は対象期間に含まないものとする。
余裕工期が設定されている工期期間、年末年始休暇の6日間（12月29日～1月3日）、夏期休暇3日間（工期に8月を含む場合の土日祝日を除く）、工場製作のみ実施している期間、工事全体を一時中止している期間
- 3 真夏日率の算出方法は次のとおりとする。
・真夏日率＝工期期間中の真夏日÷工期
なお、工期期間中の真夏日には作業をしていない日（土日祝日や休業日）を含むものとする。
- 4 受注者は契約締結後に発注者と補正を適用するか協議すること。
協議の結果、補正を適用する場合は工事着手前に工期期間中における気温の計測方法及び計測結果の報告方法を施工計画書に記載し、工事監督員に提出すること。
- 5 気温の計測方法については、工事現場から最寄りにある気象庁の地上気象観測所または地域気象観測所の気温計測結果を用いることを標準とする。
ただし、あらかじめ工事監督員と協議の上、気象業務法（昭和27年法律第165号）に基づき気象庁以外の者が行う気温の計測結果または工事現場を代表する1地点で気象庁の気温計測方法に準拠した方法により得られた気温の計測結果を用いることも可能とする。
- 6 気温の計測結果は、次の算定式により補正を行うものとする。
・補正後の気温（℃）＝気温（℃）－標高差（m）×0.6/100（m）
ただし、標高差（m）＝工事現場の標高（m）－計測箇所の標高（m）で算出した値を使用すること。
また、工事現場の標高は作業（仮設工事等含む）を行う最も低い箇所とし、標高値の判読が困難な場合は10m未満切り捨てとする。
なお、標高差の値は少数第1位四捨五入整数止めとする。
- 7 補正を適用する場合、受注者は工事完了日の概ね20日前までに工事監督員へ計測結果の資料を提出すること。
- 8 発注者は受注者から提出された計測結果の資料をもとに、工期中の真夏日の日数から真夏日率を算定した上で次のとおり補正値を算出し、現場管理費率に加算し設計変更を行うものとする。
・補正値（%）＝真夏日率×補正係数（1.2）
なお、計測期間については、工事監督員と協議の上決めることとする。

12) 現場環境の整備（快適トイレ）

- 1 本工事は、男女ともに働きやすい現場環境（快適トイレ）の整備について、工事監督員と協議し、設計変更においてその整備に必要な費用を計上する試行工事である。
- 2 快適トイレの仕様については、別表2の「（1）快適トイレに求める標準仕様」及び「（2）快適トイレとして活用するために備える付属品」の各項目を満たすこと。
「（3）推奨する仕様、付属品」については、満たしていればより快適に使用できるものと思われる項目であり、必須ではない。
- 3 快適トイレに要する費用
 - （1）快適トイレに要する費用については、当初計上していない。
 - （2）契約後、快適トイレ設置の実施を希望する場合、施工計画書提出時に工事施工協議簿により協議を行い、規格・数量・設置時期等を施工計画書に記載し工事監督員に提出すること。
 - （3）快適トイレを設置した場合、証明書類（支払い書類等）の写し及び設置状況が確認できる書類（写真等）を工事完成前日の20日程度前までに工事監督員に提出すること。
 - （4）快適トイレの費用については、51,000円/基・月を上限に「積算上の差額」（※1）を共通仮設費（営繕費）として設計変更で計上する。
男女別で1基ずつ計2基まで計上できるものとする。（102,000円/2基・月が上限）
（※1：「積算上の差額」とは、実際にかかった費用から10,000円/基・月（従来品）を減じた額）
 - （5）ハウス型等の男女別トイレが一体型となっている場合は、男女別の入口になっている場合に限り、1ハウスで102,000円/基・月を上限として計上可能とする。
 - （6）運搬費・設置費は共通仮設費（率）に含まれるものとし、2基/工事（施工箇所）より多く設置する場合や積算上限額を超える費用については、現場環境改善費（率）を想定しており、別途計上は行わない。

13) 北海道インフラゼロカーボン試行工事について

- 1 本工事は受注者の発案によるカーボンニュートラルに資する取組を推進する「北海道インフラゼロカーボン試行工事」の対象工事である。
- 2 工事契約後、受注者は当該工事において、カーボンニュートラルに資する取組を提案・協議し取組を実施することができる。
実施要領及び計画書様式については、北海道水産林務部総務課ホームページで確認すること
URL https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/sr/sum/03kanrig/kanri_group.html
- 3 受注者が本取組を実施する場合は以下のとおりとする。
 - ① 計画書を作成、この計画書を工事施工協議簿に添付し、工事監督員と協議すること。
なお、計画書は電子データで提出すること。
 - ② 工事監督員は①の協議があった場合には、評価できる提案内容であるか確認し受注者に回答する。
評価できない提案があった場合は受注者は提案を再協議できる。
 - ③ 受注者は、前項で提案・協議した内容に取り組むとともに、実施状況がわかる写真を撮影する。
 - ④ 受注者は、工事完成に先立ち工事監督員に「実施状況報告書」に実施状況写真を添付し提出する。
 - ⑤ 工事監督員は、「実施状況報告書」により、提案・協議された内容が適切に実施されていることが確認できた場合には、工事施工成績評定の「6 社会性等」の該当評価項目を加点評価する。（ただし、工事施工成績評定を行わないものを除く。）
なお、適切に実施されていない場合や「実施状況報告書」の提出がない場合等により実施状況が確認できない場合、又は、提案・協議がない場合には加点評価は行わない。
- 4 本試行に係る費用については、原則受注者負担によるものとする。

14) BDF（バイオディーゼル燃料）使用に関する取扱いについて

- 1 十勝総合振興局管内では、住民・企業・団体・行政等が一体となり、「みんなで環境を考え」「みんなで環境保全などの取組を進める」「もつとエコなとかちづくり」を進めています。
このため、産業振興部各課で発注する農業土木工事、森林土木工事、水産土木工事において、工事現場内で使用する建設機械でバイオディーゼル燃料（以下「BDF」という。）を積極的に使用する取組を行っています。
BDFとは「Bio Diesel Fuel」の略称であり、採種や大豆などの植物性油等の油脂を化学処理して軽油に近い物性に変換させることで、軽油の代替としてディーゼル燃料として使用されています。
つきましては、本工事において建設機械にBDFを使用する場合は、次のとおりとします。
- 2 受注者は本工事において工事発注後に建設機械にBDFの使用について申し出ができるものとし、この場合、受注者は創意工夫の1つの取組として、BDFの使用計画を施工計画書に記載して工事監督員に提出してください。
なお、使用計画に当たっては、各法令等を厳守し、作成してください。
- 3 BDF燃料の使用に必要な経費は、受注者の負担とします。
- 4 工事完成時に「CO2削減報告書」「使用実績とりまとめ表」「BDF燃料使用所感調査」を創意工夫の取組結果として報告してください。
※B5（BDF5%混合軽油）使用時は「BDF燃料所感調査」の提出は必要はありません。「CO2削減報告書」「使用実績取りまとめ表」のみ提出してください。
- 5 特定特殊自動車に使用する燃料の原則化については以下のとおりである。
BDFの使用可能機械については、平成18年に「オフロード法」施行に伴い、平成18年4月1日以降に製作された車両には使用出来ませんので十分注意してください。
- 6 BDFの使用に当たっての注意事項については以下のとおりである。
 - (1) 製造された燃料の品質管理及び日常点検については、「高濃度バイオディーゼル燃料等の使用による車両不具合等防止のためのガイドライン（国土交通省指導要領平成21年2月9日）」等によること。
 - (2) 燃料の供給はBDF取扱業者から行い、現地での給油によるものとする。
なお、燃料供給前にBDF取扱業者と燃料等の取扱いについて、十分協議すること。
 - (3) BDFの使用により、使用車両等に万一不具合が生じた場合は、受注者の負担とする。
- 7 必要に応じて、給油状況、月点検状況、燃料フィルター及びオイルエレメントの交換作業等の写真を添付すること。
- 8 工事現場内において、建設機械にBDF又は「BDF5%混合軽油」を使用し、上記の報告様式を提出した場合は施工成績評定において「地域への貢献等その他」の評価項目で加点の対象とします。
- 9 この取扱い（森林土木工事におけるBDFの使用）については、十勝総合振興局産業振興部林務課のホームページにも同じ内容で掲載しています。

8, 施工

1) 土工

- 1 岩盤と土砂が混在した埋戻しに際しては、土砂から優先的に埋戻す計画を立て行うこと。
- 2 切土・盛土の流用については、別添『土量配分計画表(1)』による。
- 3 工事受注者は、工事着手に先立ち起工測量を実施し、測量結果を工事監督員に提出し打合せを行い、工事監督員の承諾を得なければ工事に着手してはならない。

2) 土羽工・法面保護工

- 1 本工事による緑化工は次によるものとする。
 - ・盛土法面は、すき取り土法覆基材工とする。
 - ・切土法面は、有機材種子散布工とする。
- 2 植生工の施工条件
 - ・本工事の植生工は、別紙「植生工法適応条件表」の条件を想定し適用範囲としている。
 - ・現場での土質試験。土壌試験、気象データ及び実施工程により、植生工の施工前に「植生工法適応条件表」の条件を確認すること。
 - ・条件確認後、施工適期に施工可能であれば、植生工の配合設計について、工事監督員の承諾を受け、施工すること。また、当初設計の植生工法が現場施工条件に適用出来ない場合は、工法の検討及び施工の可否について、監督員と協議するものとし、設計変更協議の対象とする。

3) 路盤工

- 1 路盤材は、φ0～40mm、φ0～80mmの再生骨材を用い、ブルドーザで敷均し、タイヤローラ等により所定の支持力又は密度が得られるまで十分に転圧しなければならない。

9, 提出書類

1) 契約後速やかに提出するもの

- 1 工事工程表・現場代理人等指定通知書・施工体制台帳1・現場代理人等の経歴書・建設業退職金共済掛金収納書・請負代金内訳書

2) 工事完成時に提出しなければならないもの

- 1 工事完成報告書・工事完成写真(施工前・完成(撮影月日の記入))・建設業退職金共済証紙貼付実績書・建設業退職金共済証紙貼付内訳書(元受注者(下受注者を含む)が作成し保管)・木材及び木材加工資材の使用状況報告書・グリーン購入環境調達物品等実績報告書・技能士活用状況報告書(実績)・特定調達品目(公共工事)調達実績取りまとめ表・北海道認定リサイクル製品使用実績に関する報告書

3) 必要の都度提出するもの

- 1 承諾書・労働災害の発生について(報告)・労働者死傷病報告

(別紙)

植生工法適応条件表

植生工		生芝	種子散布工	腐植酸種子散布工	有機材種子散布工
適応条件	適用土質 地盤材料の工学的分類法 (JGS 0051-2020) の中分類名称 [中分類記号]または (小分類記号)による	細粒分まじりれき(GF) 砂(細粒分5~15%のS-F・S-FG) 注1 れき質砂(細粒分5~15%のSG-F) 細粒分まじり砂(SF) シルト(M) 粘性土(C) 有機質土(O) 火山灰質粘性土(V)	シルト(M) 粘性土(C) 有機質土(O) 火山灰質粘性土(V)	細粒分まじり砂(SF) シルト(M) 粘性土(C) 有機質土(O) 火山灰質粘性土(V)	細粒分まじりれき(GF) 細粒分まじり砂(SF) シルト(M) 粘性土(C) 有機質土(O) 火山灰質粘性土(V)
	レキ含有量	0%~50%	0%~20%	0%~20%	0%~30%
	土 壌 硬 度	10mm~27mm未満	10mm~23mm未満	10mm~23mm未満	10mm~23mm未満
	勾 配	0.8割以上	1.2割以上	0.8割以上	0.8割以上
	法面垂直高	—	30m以下	30m以下	30m以下
	有機含有量	—	3%以上	3%以上	3%未満
	土 壌 酸 度 (pH)	4.0~6.5 (kcl) 4.5~7.0 (H ₂ O)	4.0~6.5 (kcl) 4.5~7.0 (H ₂ O)	4.0~6.5 (kcl) 4.5~7.0 (H ₂ O)	4.0~6.5 (kcl) 4.5~7.0 (H ₂ O)
	リン酸吸収力mg /土砂100g中	1700以下	700以下	1700以下	1700以下
	吹付用ホース延長	—	0~200m	0~200m	0~120m
	施工適期	施工完了時期が日平均気温-5℃ 以上までとする。ただし、凍結し ている法面への施工は行わないこ ととする。	施工完了後、日平均気温5℃ 以上が60日間確保されると 予想される時期まで	施工完了後、日平均気温5℃ 以上が60日間確保されると 予想される時期まで	施工完了後、日平均気温5℃ 以上が60日間確保されると 予想される時期まで

注 1) 土質分類の細粒土量とは0.0075mmふるいを通過する細粒土(シルト、粘土、コロイド)の量をいう。

2) レキ含有量のレキとは2mm以上75mm以下の粗粒土(細礫、中礫、粗礫)をいう。

3) 適用可能な工法のうち経済的な工法を標準とする。

4) 現地踏査の結果、当初選定した工法が本表の適応条件に合わない場合は、工法について設計変更をし必要に応じて各事業の設計要領や技術指針等により対策を別途考慮すること。

5) 土壌酸度が適応条件から外れる場合には、土壌酸度矯正のため補助工法を別途考慮すること。

6) 施工適期を求めるには近隣地区の気象データ(平均値)と現地の外気温を比較、考慮し、行うこと。

7) 人工芝を使用する場合は、個々の製品の品質と現場の土質、土壌に適応することを確認し使用する。

8) 各植生工法の吹付ホース延長について、記載基準を超える場合は、別途協議する。

9) 植生工法の判定時に、「吹付用ホース延長を除く適応条件」は植生基盤材吹付工(土砂系)の基準を満たすのが、「吹付用ホース延長の適応条件基準により選択不可となる場合、同等圧の植生機材吹付工(有機質系)を選択するものとする。

(別表1)

計上費目	実施する項目（率計上分）
仮設備関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 用水・電力等の供給設備の充実 ・ 緑化・花壇 ・ ライトアップ施設 ・ 見学路及び椅子の設置 ・ 昇降設備の充実 ・ 環境負荷の低減
安全関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事標識・照明等安全施設の現場環境改善（電光式標識等） ・ 盗難防止対策（警報機等） ・ 避暑（熱中症予防）・防寒対策
営繕関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場事務所の快適化（女性用更衣室の設置含む） ・ 労働者宿舎の快適化 ・ デザインボックス（交通誘導警備員待機室） ・ 現場休憩所の快適化 ・ 健康関連施設及び厚生施設の充実等
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 完成予想図 ・ 工法説明図 ・ 工事工程表 ・ デザイン工事看板（各工事PR看板含む） ・ 見学会等の開催（イベント等の実施含む） ・ 見学所（インフォメーションセンター）の設置及び管理運営 ・ パンフレット、工法説明ビデオ ・ 地域対策費等（地域行事等の経費を含む） ・ 社会貢献

(別表2)

(1) 快適トイレに求める標準仕様

- ・洋式便座
- ・水洗機能（簡易水洗、し尿処理装置付き含む）
- ・臭い逆流防止機能（フラッパー機能）
- ・容易に開かない施錠機能（二重ロック等）
- ・照明設備（電源がなくても良いもの）
- ・衣類掛け等のフック付、又は、荷物置き場設備機能（耐荷重5kg以上）

(2) 快適トイレとして活用するために備える付属品

- ・現場に男女がいる場合に男女別の明確な表示
- ・入口の目隠しの設置(男女別トイレ間も含め入口が直接見えないような配置等)
- ・サンタリーボックス（女性専用トイレに限る）
- ・鏡付きの洗面台
- ・便座除菌シート等の衛生用品

(3) 推奨する仕様、付属品

- ・室内寸法 900×900mm以上（半畳程度以上）
- ・擬音装置（機能を含む）
- ・着替え台
- ・フラッパー機能の多重化
- ・窓など室内温度の調整が可能な設備
- ・小物置き場等（トイレットペーパー予備置き場）
- ・付属品の木質化

その他 材料「工事使用資材の規格・寸法等一覧表」

(1) 総則

本工事施工のため使用する材料は、共通仕様書「第2章材料」に記載されたもののほか次の表のとおりとし、その数量は設計図書による。

3 暗渠排水管

(1) 長尺管 (全面透水)

区 分	規 格
φ50m/m	可撓性を有すること 耐圧強度を1200N/m以上
φ75~80m/m	可撓性を有すること 耐圧強度を1100N/m以上
φ100m/m	可撓性を有すること 耐圧強度を780N/m以上
φ150m/m	可撓性を有すること 耐圧強度を690N/m以上
φ200m/m	可撓性を有すること 耐圧強度を980N/m以上

参考商品名

口 径	商 品 名	規 格	耐 圧 強 度
φ50mm	カナドレンTT	50mm×60.5mm×20m	136kg/m
	ドレンホースH型	50mm×100m	398kg/m
	マックスドレンTM	50mm×64mm×20m	142kg/m
φ50mm ~	カナドレンTT	77mm×88mm×20m	174kg/m
	ドレンホースH型	80mm×100m	333kg/m
	マックスドレンTM	75mm×92mm×20m	186kg/m
φ100mm	カナドレンTT	101mm×112mm×20m	125kg/m
	ドレンホースH型	100mm×50m	481kg/m
	マックスドレンTM	100mm×116mm×20m	152kg/m
φ150mm	カナドレンTT	150mm×163mm×20m	198kg/m
	ドレンホースH型	150mm×30m	566kg/m
	マックスドレンTM	150mm×171mm×20m	112kg/m
φ200mm	カナドレンTT	240mm×220.8mm×20m	183kg/m
	ドレンホースH型	200mm×20m	563kg/m
	マックスドレンTM	200mm×227mm×20m	146kg/m

5 標 識 類

名 称	記 号	仕 様	寸 法
案内標識	くま 116-3	支柱 カラマツ防腐、焼磨	φ120×3500 900×550
		標板 2mmアルミ	
警戒標識	ふくろう 201-215	支柱 カラマツ防腐、焼磨	φ120×3500 900×650
		標板 2mmアルミ	
和程標識	たぬき	支柱 カラマツ防腐、焼磨	φ120×2500 450×550
		標板 2mmアルミ	
林道標識	皿型木製	支柱 カラマツ防腐、焼磨	φ110×3000 560×1000
		標板 トドマツ 文字彫堀	
道路反射鏡	ステンレス	支柱 標板— ステンレス	φ1000 SUS304

標識の基礎ブロックは標準設計図のとおりとすること。

6 工種別使用数量（法面工）

(1) 種子散布工・腐植酸種子散布工・有機材種子散布工

	種子散布工	腐植酸種子散布工	有機材種子散布工 (厚さ3mm)
	標準配合範囲 (100㎡当り)	標準配合範囲 (100㎡当り)	標準配合範囲 (100㎡当り)
種子：ケンタッキーブルーグラス	0.09kg以上	0.09kg以上	0.09kg以上
種子：クリーピングレッドフェスク	0.27kg以上	0.27kg以上	0.27kg以上
種子：トールフェスク	0.98kg以上	0.98kg以上	0.98kg以上
高度化成肥料	3~12kg	3~12kg	3~12kg
リン酸肥料	=	1~12kg	1~12kg
養生材	14~20kg	14~20kg	14~20kg
土壌改良材A (有機含有量30%以上)	=	7~12kg	7~12kg
土壌改良材B (ピートA級)	=	ピートモスA級200%以上	ピートモスA級600%以上
若しくは(木質土壌改良材)	=	木質土壌改良材100kg以上	木質土壌改良材300kg以上
粘着材 (粉末) 若しくは	粉末0.14~0.2kg	粉末0.14~0.2kg	粉末0.14~0.2kg
(液体)	=	液体5.6~8kg	液体5.6~8kg
窒素質肥料 (緩効性)	2~8kg	2~8kg	2~8kg
厚さ管理用プレート10×10cm	=	=	0.1枚 (最低3枚)

種子、肥料などの配合は法面の土壌、土質によって下記を目標に配合し、工事監督員の承諾を得るものとする。
 高度化成肥料は窒素、リン酸、カリの有効成分がともに10%以上で合計40%以上のものを使用すること。
 リン酸肥料は土壌条件によって、別に定める有効リン酸量を満足するよう配合する。
 窒素質肥料 (緩効性) は年間窒素要求量の不足分を配合する。
 養生材、粘着材は現場の気象環境を考慮して使用量を配合する。
 土壌改良材Bは木質土壌改良材を基本とすること。

目標配合表

土壌酸度 (H ⁺ -H-KCl)	4.0~6.5
土壌酸度 (H ⁺ -H-H ₂ O)	4.0~7.0
施工完了時リン酸吸収力	深さ5cmの土壌を700mg以下/土砂100g中に矯正すること。
有機含有量	深さ2cmの土壌における有機含有量を腐植酸種子散布工は4.0%以上、有機材種子散布工は4.0%以上とすること。
有効窒素	3.0g以上/㎡/1月当たり 生育期間の内施工年60日分は高度化成肥料により、その後120日分は緩効性肥料により配合すること。
有効リン酸	3.0g以上/㎡/1月当たり 生育期間の内施工年60日分はリン酸質肥料により、配合すること。
有効カリ	1.5g以上/㎡/1月当たり 生育期間の内施工年60日分は高度化成肥料により、配合すること。

(2) 張芝工

- 1 生芝 (土工用栽培芝) 幅30cm程度、長さ90cm以上、芝厚2~3cm
- 2 目串 (18cm) 20本/㎡以上

7 植生工

(1) 本工事の植生工は、次の条件を想定している

条件	施工場所	SPO~SP520 切土法面	SPO~SP520(路肩) SPO~SP520(張芝側溝)
土質		細粒分まじりれき {GF}、細粒分まじり 砂{SF}、シルト{M}、 粘性土{C}、有機質土 {O}、火山灰質粘性土 {V}	細粒分まじりれき{GF}、砂(細 粒分5~15%のS-F・S-FG)、 れき質砂(細粒分5~15%の SG-F)、細粒分まじり砂{SF}、 シルト{M}、粘性土{C}、有機質 土{O}、火山灰質粘性度{V}
礫含有量		0%~30%	0%~50%
土壌硬度		10mm~23mm未満	10mm~27mm未満
クラック間隔		-	-
勾配		0.8割以上	0.8割以上
斜面の方向		-	-
施工完了予定		8月31日	12月11日
有機含有量		3%未満	-
土壌酸度 (pH)		4.0~6.5(kcl) 4.5~7.0(H2O)	4.0~6.5(kcl) 4.5~7.0(H2O)
リン酸吸収力		1700以下	1700以下
植生工法		有機材種子散布工	生芝

- (2) 請負者は、現場での土質試験、土壌試験、気象データ及び実施工程により、植生工施工前に 上記条件を確認すること。
- (3) 請負者は、上記条件確認後、別紙「植生工法適応条件表」と比較し、当初設計の植生工法により施工適期に施工可能であれば、植生工の配合設計について、工事監督員の承諾を受け、施工すること。なお、施工適期を定めるに当たっては、近傍の気象データ（平年値）と現地の外気温を比較し検討すること。
- (4) 請負者は、上記条件確認後、当初設計の植生工法が現場施工条件に適應できない場合は、工法の検討及び施工の可否について、監督員と協議するものとし、設計変更の対象とする。

植生工事における工事完成後の緑化の確認について

- (1) 本工事で施工する「植生表土利用工」については、跡請保証制度の対象外とする。
- (2) 本工事で施工する「植生表土利用工」の植生品質については、工事完成検査時に下記の基準により確認を行うものとする。
ただし、冬期間の施工にともない前出の品質確認ができない場合、後日、再確認するものとする。

(別紙)

令和 年 月 日

(受注者)

様

(住所)
(再資源化施設名)

印

再生資材の出荷確認について(回答)
令和 年 月 日に貴社より依頼のありましたこのことについて、次のとおり回答します。

記

- 1 工事名
- 2 出荷できる再生骨材の規格、出荷可能数量及び出荷可能時期

規 格	出荷可能数量(m3)	出荷可能時期	備 考

見積用説明書

民有林林道事業設計書

(第1号様式)

令和06年度

事業名	森林管理道 大津長節線開設工事		
路線名	大津長節線	林道区分	森林管理道
		級別区分	第2種2 級
		設計速度	20 Km/h
林道種類	自動車道	延長	480 m
		幅員	4.0 m

施工主体	北海道	施工
工事施工箇所	北海道中川郡豊頃町大津	

設4号

請負工事費内訳表								
道路工事								
区分	名称	種別	数量	単位	単価	金額(千円)	明細表番号	備考
直接工事費	切土工	粘性土	546.000	m3			明-01	
	盛土工	粘性土	546.000	m3			明-02	
	土羽工		294.500	m2			明-03	
	路盤工		598.100	m3			明-04	
	排水施設工	8箇所	1.000	式			明-05	
	法面保護工		153.600	m2			明-11	
	標識工		6.000	箇所			明-12	
	伐開除根工		1.000	式			明-13	
	伐採除却費		1.000	式			明-14	
		直接工事費計						

設4号

請負工事費内訳表

区分	名称	種別	数量	単位	単価	金額(千円)	明細表番号	備考
間接工事費	共通仮設費	(定率) 共通仮設費	1.000	式				共通仮設費率算定
		(積上) 運搬費						施工地域区分 山間僻地及び離島
		(積上) 準備費	1.000	式			明-15	共通仮設費 対象額(P) 千円
		事業損失 防止施設費						共通仮設費率 (Kr) %
		(積上) 安全費						共通仮設費 補正係数
		(積上) 役務費						週休2日補正係数 4週8休以上
		(積上) 技術管理費	1.000	式			明-16	補正共通 仮設費率 %
		(積上) 営繕経費						現場環境改善費率 (i) %
		(定率) 現場環境改善費	1.000	式				諸経費の加算(控除)額
		(積上) 現場環境改善費						共通仮設費 千円
		(積上) 実績変更対象費						現場管理費
								一般管理費
								処分費等 (アス・コン塊)
								処分費等 (伐開・除根物等)
								処分費等 諸経費の上限額
								処分費等 共通仮設費の加算額
								処分費等 現場管理費等の加算額
		計						

設4号

請負工事費内訳表

区分	名称	種別	数量	単位	単価	金額(千円)	明細表番号	備考
間接工事費	現場管理費							現場管理費率算定
		(定率) 現場管理費		式				現場管理費 対象額(Np) 千円
		(積上) 実績変更対象費		式				現場管理費率 (Jo) %
							施工地域区分 山間僻地及び離島 施工時期補正	現場管理費 補正係数 %
							熱中症対策補正	冬期補正率 %
	計						真夏日率 %	
	間接工事費計						週休2日補正 週休2日補正係数 4週8休以上	
工事原価							補正現場 管理費率	%
一般管理費等								一般管理費率算定
								一般管理費 対象額(Cp) 千円
								一般管理費率 (Gp) %
								前払金支出割合 補正係数
							契約保証の有無 無	契約保証費補正率 %
		契約保証費					森林組合補正有無	森林組合補正率 %
	伐採除却費						補正 一般管理費等率 %	
	一般管理費計						一般管理費 限度額(千円) 以内	
工事価格					金額(千円)			
消費税等相当額					金額(円)			
請負工事費					金額(円)			

施工パッケージ単価表

週休2日補正 4週8級以上

基礎碎石(02-07) m2 当り単価表 の代表規格・構成比

【十勝地区 R06_04_1 適用】

施工パッケージ名称		単位	種 別		規格・寸法	積算単価	標準単価	備 考	
03402基礎碎石 (02-07)		m2	再生骨材		【t=0.30m】 0~80mm		1,863.20	-	
区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	区分7	区分8	区分9	
27.5cmを超え 30.0cm以下	再生クラッシュラン 80 ~0								
規 格						構成比 (%)	東京 (R4.4)	北海道	
K 機械		*は賃料					5.16		
K1		* バックホウ(クローラ型) 山積0.8m3(平積0.6m3)					5.13		
K2		-					-		
K3		-					-		
R 労務							66.85		
R1		普通作業員					32.04		
R2		特殊作業員					13.98		
R3		運転手(特殊)					12.51		
R4		土木一般世話役					7.86		
Z 材料							27.99		
Z1		再生クラッシュラン RC-80					23.18		
Z2		軽油 パトロール給油					4.78		
Z3		-					-		
Z4		-					-		
S 市場単価		-					-		

施工パッケージ単価表

週休2日補正 **4週8級以上**

基礎碎石(02-07) m² 当り単価表 の代表規格・構成比

【十勝地区 R06_04_1 適用】

施工パッケージ名称		単位	種 別		規格・寸法	積算単価	標準単価	備 考	
03402基礎碎石 (02-07)		m ²	再生骨材		【t=0.20m】 0~80mm		1,289.70	-	
区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	区分7	区分8	区分9	
17.5cmを超え 20.0cm以下	再生クラッシュラン 80 ~0								
規 格						構成比 (%)	東京 (R4.4)	北海道	
K 機械		*は賃料					5.22		
	K1	* バックホウ(クローラ型) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)					5.19		
	K2	-					-		
	K3	-					-		
R 労務							67.59		
	R1	普通作業員					32.39		
	R2	特殊作業員					14.14		
	R3	運転手(特殊)					12.65		
	R4	土木一般世話役					7.95		
Z 材料							27.19		
	Z1	再生クラッシュラン RC-80					22.33		
	Z2	軽油 パトロール給油					4.83		
	Z3	-					-		
	Z4	-					-		
S 市場単価		-					-		

施工パッケージ単価表

週休2日補正 **4週8級以上**

プレキャスト集水桝(02-16) 基当り単価表 の代表規格・構成比

【十勝地区 R06_04_1 適用】

施工パッケージ名称		単位	種 別		規格・寸法	積算単価	標準単価	備 考	
09503プレキャスト集水桝 (02-16)		基	諸雑費+基礎砕石費		1200kgを超え 1600kg以下		11,787.00	-	
区分1	区分2	区分3		区分4	区分5	区分6	区分7	区分8	区分9
据付	1200kgを超え 1600kg以下	有り							
規 格							構成比 (%)	東京 (R4.4)	北海道
K 機械		*は賃料					10.06		
	K1	* バックホウ(クローラ型)[クレーン機能付] 山積0.45m3(平積0.35m3) 吊能力2.9t					7.86		
	K2	-					-		
	K3	-					-		
R 労務							86.99		
	R1	普通作業員					26.52		
	R2	運転手(特殊)					23.61		
	R3	土木一般世話役					13.48		
	R4	特殊作業員					4.36		
Z 材料							2.95		
	Z1	軽油 パトロール給油					2.31		
	Z2	-					-		
	Z3	-					-		
	Z4	-					-		
S 市場単価		-					-		

施工パッケージ単価表

週休2日補正 **4週8級以上**

暗渠排水管(02-16) m当り単価表 の代表規格・構成比

【十勝地区 R06_04_1 適用】

施工パッケージ名称		単位	種 別		規格・寸法	積算単価	標準単価	備 考	
09204暗渠排水管 (02-16)		m	暗渠パイプ 長尺管(全面透水)		Φ100m/m 780N/m以上 20m/本		699.80	-	
区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	区分7	区分8	区分9	
据付	波状管及び網状管	50~150mm	不要						
規 格						構成比 (%)	東京 (R4.4)	北海道	
K 機械		*は賃料					0.00		
	K1	-					-		
	K2	-					-		
	K3	-					-		
R 労務							23.50		
	R1	普通作業員					15.93		
	R2	土木一般世話役					7.57		
	R3	-					-		
	R4	-					-		
Z 材料							76.50		
	Z1	暗渠排水管 波状管 呼び径75mm 高密度ポリエチレン管(シングル構造)					76.50		
	Z2	-					-		
	Z3	-					-		
	Z4	-					-		
S 市場単価		-					-		

施工パッケージ単価表

週休2日補正 4週8級以上

暗渠排水管(02-16) m当り単価表 の代表規格・構成比

【十勝地区 R06_04_1 適用】

施工パッケージ名称		単位	種 別		規格・寸法	積算単価	標準単価	備 考	
09205暗渠排水管 (02-16)		m	硬質塩ビ管VU型		Φ100m/m t=3.1m/m JIS K6741		608.45	-	
区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	区分7	区分8	区分9	
据付	直管	50~150mm	-						
規 格							構成比 (%)	東京 (R4.4)	北海道
K 機械		*は賃料					0.00		
K1		-					-		
K2		-					-		
K3		-					-		
R 労務							46.04		
R1		普通作業員					32.98		
R2		土木一般世話役					13.06		
R3		-					-		
R4		-					-		
Z 材料							53.96		
Z1		暗渠排水管 直管 呼び径75mm ポリエチレン吸水管					53.96		
Z2		-					-		
Z3		-					-		
Z4		-					-		
S 市場単価		-					-		

施工パッケージ単価表

週休2日補正 **4週8級以上**

床掘り(01-04) m3当り単価表 の代表規格・構成比

【十勝地区 R06_04_1 適用】

施工パッケージ名称		単位	種 別		規格・寸法	積算単価	標準単価	備 考	
01506床掘り		m3	土砂		人力		9,366.00	-	
区分1	区分2	区分3		区分4	区分5	区分6	区分7	区分8	区分9
土砂	現場制約あり	-	-						
規 格							構成比 (%)	東京 (R4.4)	北海道
K 機械		*は賃料					0.00		
	K1	-					-		
	K2	-					-		
	K3	-					-		
R 労務							100.00		
	R1	普通作業員					100.00		
	R2	-					-		
	R3	-					-		
	R4	-					-		
Z 材料							0.00		
	Z1	-					-		
	Z2	-					-		
	Z3	-					-		
	Z4	-					-		
S 市場単価		-					-		

施工パッケージ単価表

週休2日補正 4週8級以上

埋戻し(01-06) m3 当り単価表 の代表規格・構成比

【十勝地区 R06_04_1 適用】

施工パッケージ名称		単位	種 別	規格・寸法	積算単価	標準単価	備 考	
02007埋戻し (01-06)		m3	最大埋戻幅 1m以上4m未満			1,861.40	-	
区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	区分7	区分8	区分9
最大埋戻幅1m 以上4m未満	-	-						
規 格						構成比 (%)	東京 (R4.4)	北海道
K 機械		*は賃料				11.71		
	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 山積0.8m3(平積0.6m3)				9.99		
	K2	* 振動ローラ(舗装用)[ハンドガイド式] 質量0.8~1.1t				1.62		
	K3	* タンパ及びびランマ 質量60~80kg				0.10		
R 労務						83.03		
	R1	普通作業員				51.56		
	R2	特殊作業員				22.78		
	R3	運転手(特殊)				8.69		
	R4	-				-		
Z 材料						5.26		
	Z1	軽油 パトロール給油				5.12		
	Z2	ガソリン レギュラー スタンド				0.14		
	Z3	-				-		
	Z4	-				-		
S 市場単価		-				-		

施工パッケージ単価表

週休2日補正 **4週8級以上**

埋戻し(01-06) m3 当り単価表 の代表規格・構成比

【十勝地区 R06_04_1 適用】

施工パッケージ名称		単位	種 別		規格・寸法	積算単価	標準単価	備 考	
02010埋戻し		m3	最大埋戻幅1m未満				2,845.10	-	
区分1	区分2	区分3		区分4	区分5	区分6	区分7	区分8	区分9
最大埋戻幅1m 未満	-	-							
規 格							構成比 (%)	東京 (R4.4)	北海道
K 機械		*は賃料					6.01		
	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 山積0.45m3(平積0.35m3)					5.33		
	K2	* タンパ及びランマ 質量60~80kg					0.68		
	K3	-					-		
R 労務							90.52		
	R1	普通作業員					54.90		
	R2	特殊作業員					27.09		
	R3	運転手(特殊)					8.53		
	R4	-					-		
Z 材料							3.47		
	Z1	軽油 パトロール給油					2.50		
	Z2	ガソリン レギュラー スタンド					0.97		
	Z3	-					-		
	Z4	-					-		
S 市場単価		-					-		

施工パッケージ単価表

週休2日補正 4週8級以上

プレキャスト集水桝(02-16) 基当り単価表 の代表規格・構成比

【十勝地区 R06_04_1 適用】

施工パッケージ名称		単位	種 別		規格・寸法	積算単価	標準単価	備 考	
09511プレキャスト集水桝 (02-16)		基	諸雑費		200kgを超え 400kg以下		4,711.00	-	
区分1	区分2	区分3		区分4	区分5	区分6	区分7	区分8	区分9
据付	200kgを超え 400kg以下	無し							
規 格							構成比 (%)	東京 (R4.4)	北海道
K 機械		*は賃料					13.69		
	K1	* バックホウ(クローラ型)[クレーン機能付] 山積0.28m3(平積0.2m3) 吊能力1.7t					12.92		
	K2	-					-		
	K3	-					-		
R 労務							83.34		
	R1	運転手(特殊)					43.00		
	R2	普通作業員					18.93		
	R3	土木一般世話役					11.25		
	R4	特殊作業員					5.45		
Z 材料							2.97		
	Z1	軽油 パトロール給油					2.81		
	Z2	-					-		
	Z3	-					-		
	Z4	-					-		
S 市場単価		-					-		

施工パッケージ単価表

週休2日補正 **4週8級以上**

基礎碎石(02-07) m² 当り単価表 の代表規格・構成比

【十勝地区 R06_04_1 適用】

施工パッケージ名称		単位	種 別		規格・寸法	積算単価	標準単価	備 考	
03412基礎碎石 (02-07)		m ²	再生骨材		【t=0.25m】 0~80mm		1,791.20	-	
区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	区分7	区分8	区分9	
22.5cmを超え 27.5cm以下	再生クラッシュラン 80 ~0								
規 格						構成比 (%)	東京 (R4.4)	北海道	
K 機械		*は賃料					5.37		
K1		* バックホウ(クローラ型) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)					5.34		
K2		-					-		
K3		-					-		
R 労務							69.54		
R1		普通作業員					33.32		
R2		特殊作業員					14.54		
R3		運転手(特殊)					13.02		
R4		土木一般世話役					8.18		
Z 材料							25.09		
Z1		再生クラッシュラン RC-80					20.09		
Z2		軽油 パトロール給油					4.97		
Z3		-					-		
Z4		-					-		
S 市場単価		-					-		

施工パッケージ単価表

週休2日補正 **4週8級以上**

プレキャスト集水桝(02-16) 基当り単価表 の代表規格・構成比

【十勝地区 R06_04_1 適用】

施工パッケージ名称		単位	種 別		規格・寸法	積算単価	標準単価	備 考	
09513プレキャスト集水桝 (02-16)		基	諸雑費		400kgを超え 600kg以下		5,701.10	-	
区分1	区分2	区分3		区分4	区分5	区分6	区分7	区分8	区分9
据付	400kgを超え 600kg以下	無し							
規 格							構成比 (%)	東京 (R4.4)	北海道
K 機械		*は賃料					11.32		
K1		* バックホウ(クローラ型)[クレーン機能付] 山積0.28m3(平積0.2m3) 吊能力1.7t					10.68		
K2		-					-		
K3		-					-		
R 労務							86.23		
R1		運転手(特殊)					35.53		
R2		普通作業員					27.38		
R3		土木一般世話役					13.94		
R4		特殊作業員					4.50		
Z 材料							2.45		
Z1		軽油 パトロール給油					2.32		
Z2		-					-		
Z3		-					-		
Z4		-					-		
S 市場単価		-					-		

施工パッケージ単価表

週休2日補正 4週8級以上

プレキャスト集水桝(02-16) 基当り単価表 の代表規格・構成比

【十勝地区 R06_04_1 適用】

施工パッケージ名称		単位	種 別		規格・寸法	積算単価	標準単価	備 考	
09514プレキャスト集水桝 (02-16)		基	諸雑費		600kgを超え 800kg以下		7,057.50	-	
区分1	区分2	区分3		区分4	区分5	区分6	区分7	区分8	区分9
据付	600kgを超え 800kg以下	無し							
規 格							構成比 (%)	東京 (R4.4)	北海道
K 機械		*は賃料					10.28		
	K1	* バックホウ(クローラ型)[クレーン機能付] 山積0.28m3(平積0.2m3) 吊能力1.7t					9.70		
	K2	-					-		
	K3	-					-		
R 労務							87.49		
	R1	運転手(特殊)					32.30		
	R2	普通作業員					31.59		
	R3	土木一般世話役					15.01		
	R4	特殊作業員					3.64		
Z 材料							2.23		
	Z1	軽油 パトロール給油					2.11		
	Z2	-					-		
	Z3	-					-		
	Z4	-					-		
S 市場単価		-					-		

施工パッケージ単価表

週休2日補正 **4週8級以上**

殻運搬(02-32) m3 当り単価表 の代表規格・構成比

【十勝地区 R06_04_1 適用】

施工パッケージ名称		単位	種 別		規格・寸法	積算単価	標準単価	備 考	
15215殻運搬 (02-32)		m3	コンクリート（無筋）構造物とりこわし		機械積込 28.4km以下		3,185.30	タイヤ損耗費及び補修費（良好）を含む	
区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	区分7	区分8	区分9	
コンクリート(無筋)構造物とりこわし	機械積込	無し	28.4km以下						
規 格							構成比 (%)	東京 (R4.4)	北海道
K 機械		*は賃料					42.35		
	K1	ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)					42.35		
	K2	-					-		
	K3	-					-		
R 労務							42.40		
	R1	運転手(一般)					42.40		
	R2	-					-		
	R3	-					-		
	R4	-					-		
Z 材料							15.25		
	Z1	軽油 パトロール給油					15.25		
	Z2	-					-		
	Z3	-					-		
	Z4	-					-		
S 市場単価		-					-		

施工パッケージ単価表

週休2日補正 **4週8級以上**

殻運搬(02-32) m3 当り単価表 の代表規格・構成比

【十勝地区 R06_04_1 適用】

施工パッケージ名称		単位	種 別		規格・寸法	積算単価	標準単価	備 考	
15216殻運搬 (02-32)		m3	コンクリート(鉄筋) 構造物とり こわし		機械積込 28.4km以下		3,931.90	タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む	
区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	区分7	区分8	区分9	
コンクリート(鉄筋)構 造物とりこわし	機械積込	無し	28.4km以下						
規 格							構成比 (%)	東京 (R4.4)	北海道
K 機械		*は賃料					42.35		
	K1	ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)					42.35		
	K2	-					-		
	K3	-					-		
R 労務							42.40		
	R1	運転手(一般)					42.40		
	R2	-					-		
	R3	-					-		
	R4	-					-		
Z 材料							15.25		
	Z1	軽油 パトロール給油					15.25		
	Z2	-					-		
	Z3	-					-		
	Z4	-					-		
S 市場単価		-					-		

施工パッケージ単価表

週休2日補正 4週8級以上

プレキャスト集水桝(02-16) 基当り単価表 の代表規格・構成比

【十勝地区 R06_04_1 適用】

施工パッケージ名称		単位	種 別		規格・寸法	積算単価	標準単価	備 考	
09517プレキャスト集水桝 (02-16)		基	諸雑費		800kgを超え 1200kg以下		8,922.80	-	
区分1	区分2	区分3		区分4	区分5	区分6	区分7	区分8	区分9
据付	800kgを超え 1200kg以下	無し							
規 格							構成比 (%)	東京 (R4.4)	北海道
K 機械		*は賃料					9.03		
K1		* バックホウ(クローラ型)[クレーン機能付] 山積0.28m3(平積0.2m3) 吊能力1.7t					8.52		
K2		-					-		
K3		-					-		
R 労務							89.01		
R1		普通作業員					35.03		
R2		運転手(特殊)					28.35		
R3		土木一般世話役					14.84		
R4		特殊作業員					5.76		
Z 材料							1.96		
Z1		軽油 パトロール給油					1.85		
Z2		-					-		
Z3		-					-		
Z4		-					-		
S 市場単価		-					-		

施工パッケージ単価表

週休2日補正 4週8級以上

プレキャスト集水桝(02-16) 基当り単価表 の代表規格・構成比

【十勝地区 R06_04_1 適用】

施工パッケージ名称		単位	種 別		規格・寸法	積算単価	標準単価	備 考	
09518プレキャスト集水桝 (02-16)		基	諸雑費		50kgを超え 80kg以下		2,917.20	-	
区分1	区分2	区分3		区分4	区分5	区分6	区分7	区分8	区分9
据付	50kg以上80kg 以下	無し							
規 格							構成比 (%)	東京 (R4.4)	北海道
K 機械		*は賃料					19.35		
	K1	* バックホウ(クローラ型)[クレーン機能付] 山積0.28m3(平積0.2m3) 吊能力1.7t					18.26		
	K2	-					-		
	K3	-					-		
R 労務							76.45		
	R1	運転手(特殊)					60.75		
	R2	普通作業員					6.87		
	R3	土木一般世話役					3.63		
	R4	特殊作業員					0.88		
Z 材料							4.20		
	Z1	軽油 パトロール給油					3.97		
	Z2	-					-		
	Z3	-					-		
	Z4	-					-		
S 市場単価		-					-		

施工パッケージ単価表

週休2日補正 **4週8級以上**

プレキャスト集水桝(02-16) 基当り単価表 の代表規格・構成比

【十勝地区 R06_04_1 適用】

施工パッケージ名称		単位	種 別		規格・寸法	積算単価	標準単価	備 考	
09519プレキャスト集水桝 (02-16)		基	諸雑費		1600kgを超え 2200kg以下		12,398.00	-	
区分1	区分2	区分3		区分4	区分5	区分6	区分7	区分8	区分9
据付	1600kgを超え 2200kg以下	無し							
規 格							構成比 (%)	東京 (R4.4)	北海道
K 機械		*は賃料					8.63		
	K1	* バックホウ(クローラ型)[クレーン機能付] 山積0.45m3(平積0.35m3) 吊能力2.9t					8.15		
	K2	-					-		
	K3	-					-		
R 労務							88.83		
	R1	普通作業員					36.02		
	R2	運転手(特殊)					24.48		
	R3	土木一般世話役					17.10		
	R4	特殊作業員					6.21		
Z 材料							2.54		
	Z1	軽油 パトロール給油					2.40		
	Z2	-					-		
	Z3	-					-		
	Z4	-					-		
S 市場単価		-					-		

施工パッケージ単価表

週休2日補正 **4週8級以上**

鉄筋コンクリート高压管(02-16) m当り単価表 の代表規格・構成比

【十勝地区 R06_04_1 適用】

施工パッケージ名称		単位	種 別		規格・寸法	積算単価	標準単価	備 考	
09720鉄筋コンクリート高压管		m	据付		φ 600mm		25,254.00	-	
区分1	区分2	区分3		区分4	区分5	区分6	区分7	区分8	区分9
据付	600mm								
規 格							構成比 (%)	東京 (R4.4)	北海道
K 機械		*は賃料					4.66		
	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第1次基準値)] 山積0.45m3(平積0.35m3) 吊能力2.9t					3.79		
	K2	-					-		
	K3	-					-		
R 労務							25.57		
	R1	普通作業員					7.94		
	R2	運転手(特殊)					5.61		
	R3	土木一般世話役					4.19		
	R4	特殊作業員					3.05		
Z 材料							69.77		
	Z1	鉄筋コンクリート高压管(2種) φ 600					67.76		
	Z2	軽油 パトロール給油					1.64		
	Z3	-					-		
	Z4	-					-		
S 市場単価		-					-		

切土・盛土数量再掲表

大津長節線

測点 0 ~ 480

区分	土量	調整土量	調整後計	単位	名称	区分	比率	距離	補正土量	積算土量内訳表											計	調整土量	調整後計				
										粘性土	砂・砂質土	礫質土	軟岩IA	軟岩IB	軟岩II	中硬岩	硬岩I	岩塊・玉石									
切土総数量	565	-19	546	m3																							
盛土総数量	191	6	197	m3																							
すき取り土量	切土すき取り土	67	67	m3	逸散飛散土	バックホウ施工		D= 10m	-																		
	盛土すき取り土	60	60	m3		バックホウ施工		D= 10m	-																		
計	127		127	m3		計	100%		-																		
流用盛土量	横断流用土	98	98	m3	横断流用土	バックホウ施工		D= 10m	97.9	109														109	6	115	
計	縦断流用土	93	93	m3		バックホウ施工		D= 10m	97.9	109														109	6	115	
					縦断流用土	バックホウ施工																					
						改築		D= 37m																			
						新設	100%	= - 10m	93.1	103															103		103
						2工程		= 27m																			
						小計	100%		93.1	103															103		103
					計			93.1	103															103		103	
切土量土質別内訳表				土量	調整土量	調整後計	単位																				
粘性土	0.90	565	-19	546	m3																						
砂・砂質土	0.90				m3	林業作業用施設流用土	バックホウ施工																				
礫質土	0.90				m3		改築		D= 96m																		
軟岩IA	1.00				m3		新設	100%	= - 10m	197.2	219														219	-25	194
軟岩IB	1.15				m3		2工程		= 86m																		
軟岩II	1.20				m3		小計	100%		197.2	219														219	-25	194
中硬岩	1.25				m3	計			197.2	219														219	-25	194	
硬岩I	1.40				m3	純盛土	バックホウ施工																				
岩塊・玉石	1.00				m3		改築																				
					m3		新設																				
					m3		2工程																				
					m3		小計	100%																			
					m3	計																					
					m3	すき取り土	バックホウ施工																				
					m3		改築		D= 115m																		
					m3		新設	100%	= - 10m	114.3	127														127		127
					m3		2工程		= 105m																		
					m3		小計	100%		114.3	127															127	
					m3	計			114.3	127															127		127
計	565	-19	546	m3	盛土すき取り土に使用した土量(定率準備費)	横断流用土	-	-	60.0	60.0														60.0		60.0	
						縦断流用土	-	-																			
1層目の土質	粘性土					計	-	-	60.0	60.0														60.0		60.0	

※積算システムには、積算土量を計上します。

計算方法: 切土総土量-逸散土-切土すき取り土-(盛土すき取り土+横断流用土補正土量+縦断流用土補正土量) ÷ 変化率 + すき取り土 = 林業作業用施設流用土

- 切土総土量より、切土部根株体積を控除する
- 盛土総土量より、盛土部根株体積を加算する
- 横断流用土に盛土部根株体積を加算する
- 林業作業用施設流用土から切土部根株体積を盛土部根株体積を控除する

切土量確認用計算表

	全体	粘性土	砂・砂質土	礫質土	軟岩 I A	軟岩 I B	軟岩 II	中硬岩	硬岩 I	岩塊・玉石			調整土量	調整後計
盛土に流用した土														
盛土すぎ取り土の跡に使用した土 (A)	60	60												
土量の変化率 (B)		0.90	0.90	0.90	1.00	1.15	1.20	1.25	1.40	1.00				
補正していない土量(C)=A÷B	66	66												
横断流用土 (D)		109											6	115
縦断流用土 (E)		103												
林業作業用施設流用土 (F)		219											-25	194
流用土計 (G)=D+E+F	431	431											-19	412
逸散土 (H)														
切土すぎ取り土(土工補正計算表より) (I)		67												
切土総土量(J)=C+G+H+I	564	564											-19	583
再掲表の切土総土量	565	差	1											

※土量変化率の四捨五入の関係で、数字が多少あわない場合があります。

盛土量確認用計算表

	土量	調整土量	調整後計	備 考
横断流用土(A)	98	6	104	再掲表の補正土量
縦断流用土(B)	93		93	〃
純盛土(C)				〃
盛土総土量(D)=A+B+C	191	6	197	
再掲表の盛土総土量	191			
差				

切土・盛土数量再掲表(2)

車道幅員：5m未満(1車線)

測点

～

480

大津長節線

切土総数量	546 m3	積算土量内訳表										
盛土総数量	197 m3	粘性土	砂・砂質土	礫質土	軟岩 I A	軟岩 I B	軟岩 II	中硬岩	硬岩 I	岩塊・玉石		

土工機種別数量集計表(切土工)

(m3)

ブレーカー掘削			---	---	---	---								
バックホウ(横断流用土)	地山	D=10m												
バックホウ(縦断流用土)	地山	D=m												
バックホウ(林業作業用施設流用土)	地山	D=m												
バックホウ(純盛土)	地山	D=m												
バックホウ(すき取り土)	ルーズ	D=m												
地山の掘削			115											
地山の掘削・積込			297											
ルーズな状態の積込														
6t不整地運搬 or 10tタンポトラック運搬	縦断流用土	D=27m	103											
	林業作業用施設流用土	D=86m	194											
	純盛土	D=0m												
	すき取り土	D=105m	127											

盛土工他

土量

盛土敷均し・締固め	197	m3
林業作業用施設流用土敷均し	391	m3
盛土敷均し・締固め + 林業作業用施設流用土敷均し × 0.9	549	m3

(総盛土量)

(林業作業用施設流用土+すき取り土+その他流用土)

(総盛土量) + (林業作業用施設流用土+すき取り土+その他流用土) × 0.9

法覆基材使用数量

$$294.5 \times 0.15 = 44.18 \text{m}^3$$

$$127 - 44.18 = 82.82 \text{m}^3$$

$$82.82 \times 0.9 = 74.54 \text{m}^3$$

切土盛土再掲表(2)の計算式(参考)

機 械 種 別		計 算 式
ブレーカー掘削		逸散土+横断流用土+縦断流用土+林業作業用施設流用土+純盛土
バックホウ(横断流用土)	地山	逸散土(バックホウ施工)+横断流用土(バックホウ施工)
バックホウ(縦断流用土)	地山	縦断流用土(バックホウ施工)
バックホウ(林業作業用施設流用土)	地山	林業作業用施設流用土(バックホウ施工)
バックホウ(純盛土)	地山	純盛土(バックホウ施工)
バックホウ(すき取り土)	ルーズ	すき取り土(バックホウ施工)
バックホウ(地山の掘削)		逸散土(バックホウ施工)+横断流用土(バックホウ施工)+縦断流用土(改築)+縦断流用土(2工程)+林業作業用施設流用土(改築)+林業作業用施設流用土(2工程)+純盛土(改築)+純盛土(2工程)
バックホウ(地山の掘削・積込)		縦断流用土(新設)+林業作業用施設流用土(新設)+純盛土(新設)
バックホウ(ルーズな状態の積込)		縦断流用土(2工程)+林業作業用施設流用土(2工程)+純盛土(2工程)
6t不整地運搬	縦断流用土	縦断流用土(バックホウ施工計)
	林業作業用施設流用土	林業作業用施設流用土(バックホウ施工計)
	純盛土	純盛土(バックホウ施工計)
	すき取り土	すき取り土(バックホウ施工計)

土 工 数 量 計 算 表

集計表

大津長節線

測 点	距 離		切 土				盛 土		土 羽 面 積						切 取 法 面 積								備 考																	
	切土	盛土	平均断面積	総土量	土 質 区 分				平均断面積	総土量	左 側			右 側			左 側				右 側																			
					粘性土	普通土	砂	砂質土			距離	平均土羽長	土羽面積	距離	平均土羽長	土羽面積	距離	平均法長	普通土	距離	平均法長	普通土		距離	平均法長	普通土	距離	平均法長												
																													距離	平均土羽長	土羽面積	距離	平均法長	普通土	距離	平均法長	普通土	距離	平均法長	
P-1				565	565					191			141.7			76.1																								
合計				565	565					191			141.7			76.1																								

565 × 0.90 = 0.90

土羽面積 218 m²
 総切面積 139 m²
 普通土面積 139 m²
 面積 m²
 面積 m²

土 量 配 分 計 画 表 (1)

凡例	地山勾配別		2割以上
			2割未満
	改築・新設別		新設
			改築

全体

大津長節線

地山 勾配別	改築 新設別	測 点	総切土量	切 土	盛 土	横断流用土		差 引 土 量		縦 断 流 用 土																残 土	不 足 土	備 考															
				補正土量	盛土量	2割未満	2割以上	残 土	不足土	2 割 未 満				改 築 (1 工 程)				新 設 (1 工 程)				新 設 2 割 以 上 (2 工 程)																					
						バックホウ施工				トラック施工				トラック施工				トラック施工																									
						10m	10m			20m~60m				20m以上				20m以上				20m以上																					
土量(D)	土量(D)	土量(D)	距離(L)	D×L	流用計画	土量(D)	距離(L)	D×L	流用計画	土量(D)	距離(L)	D×L	流用計画	土量(D)	距離(L)	D×L	流用計画	土量(D)	距離(L)	D×L	流用計画																						
		0																																									
		20	28	20.2	8		8.0	12.2																																			
		40	22	15.0	10		10.0	5.0																																			
		60	35	26.9	15		15.0	11.9																																			
		80	11	3.1	33		3.1		29.9												11.9	20	238	60																			
																					5.0	40	200	40																			
																					12.2	60	732	20																			
																					0.8	80	64	160																			
		100	7	3.5	37		3.5		33.5												20.9	40	836	140																			
																					12.6	60	756	160																			
		120	8	7.2	16		7.2		8.8												8.8	20	176	140																			
		140	35	29.7				29.7																																			
		160	22	17.1				17.1																																			
		180	24	18.9				18.9																																			
		200	20	15.2	2		2.0	13.2																																			
		220	15	10.6	4		4.0	6.6																																			
		240	18	12.4	2		2.0	10.4																																			
		260	17	11.3	6		6.0	5.3																																			
		280	10	7.0	6		6.0	1.0																																			
		300	8	2.3	11		2.3		8.7													8.7	20	174	320																		
		320	22	15.9	5		5.0	10.9																																			
		340	12	3.8	16		3.8		12.2													12.2	20	244	360																		
		360	31	13.9	1		1.0	12.9																																			
		380	34	15.8	4		4.0	11.8																																			
		400	14	7.0	5		5.0	2.0																																			
		420	43	34.2				34.2																																			
		440	80	63.9				63.9																																			
		460	33	23.9	4		4.0	19.9																																			
		480	16	9.4	6		6.0	3.4																																			
		小計	565	388.2	191		97.9	290.3	93.1												93.1		3,420																	197.2			
		合計	565	388.2	191		97.9	290.3	93.1												93.1		3,420																197.2				

小規模構造物等の掘削・床掘残土計算表

SP 0 ~ SP 480

No. 1

測 点	盛 土 に 流 用 で き る 土 量												備 考				
	縦断構造物 (上段=延長 下段=計算土量)						横断構造物・その他の構造物 (上段=測点 下段=土量)							チェーン 土 量 (m3)	補 正 率	チェーン 補正 土 量 (m3)	
	側溝 N1:0.8	V300 N1:0.8					路床横断 排水	路面排水工 路面排水版	防護柵端末 中間端末 支柱基礎	その他の工種①		その他の工種②					
										工 種	上段=測点 下段=土量	工 種					上段=測点 下段=土量
0.162	0.310																
SP20	20.00m 3.24							SP1.15 7.20					10.44	0.90	9.4		
SP40	20.00m 3.24												3.24	0.90	2.9		
SP60	13.00m 2.11	3.60m 1.12								溝渠	SP56.0 18.30		21.53	0.90	19.4		
SP80		23.57m 7.31								招水工	SP80.0 4.10		11.41	0.90	10.3		
SP100													0.90				
SP120	3.00m 0.49							SP105.2 1.70					2.19	0.90	2.0		
SP140	20.00m 3.24												3.24	0.90	2.9		
SP160	20.00m 3.24												3.24	0.90	2.9		

小規模構造物等の掘削・床掘残土計算表

SP 0 ~ SP 480

No. 2

測 点	盛 土 に 流 用 で き る 土 量												備 考				
	縦断構造物 (上段=延長 下段=計算土量)						横断構造物・その他の構造物 (上段=測点 下段=土量)							チェーン 土 量 (m3)	補 正 率	チェーン 補正 土 量 (m3)	
	側溝 N1:0.8	V300 N1:0.8					路床横断 排水	路面排水工 路面排水版	防護柵端末 中間端末 支柱基礎	その他の工種①		その他の工種②					
										工 種	上段=測点 下段=土量	工 種					上段=測点 下段=土量
0.162	0.310																
SP180	20.00m 3.24												3.24	0.90	2.9		
SP200	20.00m 3.24												3.24	0.90	2.9		
SP220	15.00m 2.43						SP209.0 1.70						4.13	0.90	3.7		
SP240	20.00m 3.24												3.24	0.90	2.9		
SP260	20.00m 3.24												3.24	0.90	2.9		
SP280	20.00m 3.24												3.24	0.90	2.9		
SP300	20.00m 3.24						SP286.0 1.70						4.94	0.90	4.4		
SP320	20.00m 3.24												3.24	0.90	2.9		

小規模構造物等の掘削・床掘残土計算表

SP 0 ~ SP 480

No. 3

測 点	盛 土 に 流 用 で き る 土 量												備 考				
	縦断構造物 (上段=延長 下段=計算土量)						横断構造物・その他の構造物 (上段=測点 下段=土量)							チェーン 土 量 (m3)	補 正 率	チェーン 補正 土 量 (m3)	
	側溝 N1:0.8	V300 N1:0.8					路床横断 排水	路面排水工 路面排水版	防護柵端末 中間端末 支柱基礎	その他の工種①		その他の工種②					
										工 種	上段=測点 下段=土量	工 種					上段=測点 下段=土量
SP340	20.00m 3.24												3.24	0.90	2.9		
SP360	20.00m 3.24												3.24	0.90	2.9		
SP380	20.00m 3.24												3.24	0.90	2.9		
SP400	15.00m 2.43												2.43	0.90	2.2		
SP420	14.00m 2.27												2.27	0.90	2.0		
SP440	20.00m 3.24												3.24	0.90	2.9		
SP460	20.00m 3.24							SP460.0 6.20					9.44	0.90	8.5		
SP480	20.00m 3.24												3.24	0.90	2.9		
計	64.81	8.43						18.50			22.40		114.14		102.5		

114.14 (横計)

※1 小規模構造物等の掘削・床掘部に表土(盛土不適土)がある場合については、横断図により本線と合わせてすき取りを計上しているため、本表では考慮しない。

凡例	地山勾配別		
	改築・新設別		

床掘残土 土量配分計画表 (2)

SP 0 ~ SP 480

No. 4

地山勾配別	改築新設別	測点	床掘残土 土量	運搬捨土																備考
				ブルドーザ-掘削 (押土)				バックホウ掘削 (1 工程)				バックホウ掘削 (2 工程)				その他				
				ブルドーザ-施工				トラック施工				トラック施工				トラック施工				
				1 0 m ~ 6 0 m				1 0 m 以上				6 0 m 以上				1 0 m 以上				
土量(D)	距離(L)	D × L	流用計画	土量(D)	距離(L)	D × L	流用計画	土量(D)	距離(L)	D × L	流用計画	土量(D)	距離(L)	D × L	流用計画	土量(D)	距離(L)	D × L	流用計画	
2割未満	新設	SP20	9.4					9.4	340	3196	SP360									
2割未満	新設	SP40	2.9					2.9	320	928	SP360									
2割未満	新設	SP60	19.4					19.4	300	5820	SP360									
2割未満	新設	SP80	10.3					10.3	280	2884	SP360									
2割未満	新設	SP100																		
2割未満	新設	SP120	2.0					2.0	240	480	SP360									
2割未満	新設	SP140	2.9					2.9	220	638	SP360									
2割未満	新設	SP160	2.9					2.9	200	580	SP360									

凡例	地山勾配別		
	改築・新設別		

床掘残土 土量配分計画表 (2)

SP 0 ~ SP 480

No. 6

地山勾配別	改築新設別	測点	床掘残土 土量	運搬捨土																備考
				ブルドーザ-掘削 (押土)				バックホウ掘削 (1 工程)				バックホウ掘削 (2 工程)				その他				
				ブルドーザ-施工				トラック施工				トラック施工				トラック施工				
				1 0 m ~ 6 0 m				1 0 m 以上				6 0 m 以上				1 0 m 以上				
土量(D)	距離(L)	D × L	流用計画	土量(D)	距離(L)	D × L	流用計画	土量(D)	距離(L)	D × L	流用計画	土量(D)	距離(L)	D × L	流用計画					
2割未満	新設	SP340	2.9					2.9	20	58	SP360									
2割未満	新設	SP360	2.9					2.9	10	29	SP360									
2割未満	新設	SP380	2.9					2.9	20	58	SP360									
2割未満	新設	SP400	2.2					2.2	40	88	SP360									
2割未満	新設	SP420	2.0					2.0	60	120	SP360									
2割未満	新設	SP440	2.9					2.9	80	232	SP360									
2割未満	新設	SP460	8.5					8.5	100	850	SP360									
2割未満	新設	SP480	2.9					2.9	120	348	SP360									
		計	102.5					102.5	186m	19063										

(横計) 102.5
 平均運搬距離 = (0 + 19063 + 0 + 0) / (0 + 102.5 + 0 + 0) = 186 m

法 面 積 総 括

名称	区分	種別	数量		単位	備 考
土羽面整形		粘性土	左側	150.4		法面積数量計算表より
			右側	72.1		法面積数量計算表より
			土場	72.0		土場施設数量調書より
			取付			
			控除			
		計	294.5	m2		
土羽面植生工	種子散布工	種子散布工 ムシロ張併用	左側			
			右側			
			土場			
			取付			
			控除			
			計		m2	
	法覆基材	すき取り土 をふるい 現地客土を 利用	左側	150.4		植生工数量計算表(すき・・・)より
			右側	72.1		植生工数量計算表(すき・・・)より
			土場	72.0		土場施設数量調書より
			取付			
控除						
		計	294.5	m2	D = 111 m 土量 = 44.2 m3	
切取法面整形	土質①	粘性土	左側	76.6		法面積数量計算表より
			右側	77.0		法面積数量計算表より
			取付			
			控除			
			計	153.6	m2	
	土質②		左側			
			右側			
			取付			
			控除			
		計		m2		
土質③		左側				
		右側				
		取付				
		控除				
		計		m2		
切取法面植生工	工種 1	有機材散布工	左側	76.6		植生工数量計算表より
			右側	77.0		植生工数量計算表より
			取付			
			控除			
			計	153.6	m2	
	工種 2		左側			
			右側			
			取付			
			控除			
			計		m2	
	工種 3		左側			
			右側			
			取付			
			控除			
			計		m2	
	工種 4		左側			
			右側			
			取付			
			控除			
			計		m2	
	工種 5		左側			
右側						
取付						
控除						
		計		m2		
工種 6		左側				
		右側				
		取付				
		控除				
		計		m2		
工種 7		左側				
		右側				
		取付				
		控除				
		計		m2		

法 面 積 数 量 計 算 表

測 点	距 離				土 羽 面 積								切 取 法 面 積																備 考										
	左 側		右 側		左 側				右 側				左 側								右 側																		
	切土距離	盛土距離	切土距離	盛土距離	補正距離	土羽長	平均土羽長	土羽面積	補正距離	土羽長	平均土羽長	土羽面積	補正距離	法長	平均法長	土質①	補正距離	法長	平均法長	土質②	補正距離	法長	平均法長	土質③	補正距離	法長	平均法長	土質①		補正距離	法長	平均法長	土質②	補正距離	法長	平均法長	土質③		
440.0	20.0	20.0	20.0	20.0									20.0	1.4	1.4	28.0																							
452.0	12.0	12.0	12.0	12.0									12.0		0.7	8.4																							
460.0	8.0	8.0	8.0	8.0																																			
480.0	20.0	20.0	20.0	20.0					19.2	0.5	0.3	5.8																											
合計								150.4				72.1				76.6																							

土羽面積 222.5 m²

総切面積 153.6 m²
 土質① 153.6 m²
 土質② m²
 土質③ m²

植 生 工 数 量 計 算 表

測 点	距 離		切 取 法 面 積																								備 考																			
	左 切	右 切	左 側												右 側																															
			補正 距離	法長	平均 法長	工種 1 法面積	工種 2 法面積	工種 3 法面積	補正 距離	法長	平均 法長	工種 4 法面積	工種 5 法面積	補正 距離	法長	平均 法長	工種 6 法面積	工種 7 法面積	補正 距離	法長	平均 法長	工種 4 法面積	工種 5 法面積	補正 距離	法長	平均 法長		工種 6 法面積	工種 7 法面積																	
440.0	20.0	20.0	20.0	1.4	1.4	28.0																																								
452.0	12.0	12.0	12.0		0.7	8.4																																								
460.0	8.0	8.0																																												
480.0	20.0	20.0																																												
合計						76.6																																								

工種 1 法面積	154	m ²	工種 4 法面積	m ²	工種 6 法面積	m ²
工種 2 法面積		m ²	工種 5 法面積		工種 7 法面積	
工種 3 法面積		m ²				

植 生 工 数 量 計 算 表 (すき取り土法覆基材)

測 点	距離		盛 土												土場・取付・控除			法 覆 基 材			流 用 計 画				備 考	すき取り土仮置き場		
			左 側						右 側												トラック運搬					測 点 (チェーン)	仮置き 土量	
	左盛	右盛	補正 距離	法長	平均 法長	法面積	覆土 厚	土 量	補正 距離	法長	平均 法長	法面積	覆土 厚	土 量	法面積	覆土 厚	土 量	総面積	測 点 土 量	チェーン 土 量	土量(D)	距離(L)	D × L	流用計画				
440.0	20.0	20.0					0.15									0.15												
452.0	12.0	12.0					0.15									0.15												
460.0	8.0	8.0					0.15									0.15												
480.0	20.0	20.0					0.15		19.2	0.5	0.3	5.8	0.15	0.870		0.15		5.8	0.870	0.870	0.870	120	104	SP 360				
合計						150.4		22.560				72.1		10.815			196.5		29.475	419.0	62.850	62.850	62.850	111	6984			43.950

平均運搬距離 = 111 m

林業作業用施設数量計算書

番号	測 点	方向	施設名	切 土 (m3)	盛 土				切取法面積 (m2)	土羽面積 (m2)	備 考
					敷均し・締固め		敷均し				
					土量 (m3)	補正土量 変化率0.90 (m3)	土量 (m3)	補正土量 (m3)			
1	SP331.54 ~ SP350.00	(L)	森林施業用		527.8	475.0			56.0		
計					527.8	475.0			56.0		

※1 土場・作業場所の土量・法面積は、本線と別の横断面図を作成して算出します。締固めをするので、本線の補正土量に対して土場・作業場所の土量(補正なし)を検討します。
 ※2 『盛土』は残土・すきとり土(盛土不適土)の搬入が可能な体積を土量配分システムに入力する値であり、積算土量および運搬距離は土量配分計画表(2)で計算されます。
 ※3 『切土』は、土量配分システムの切土補正值欄に入力し、システム内で合算しています。 ※4 『切取法面積』・『土羽面積』は、法面積計算書に再計上し集計しています。
 ※5 土羽面積控除は、本線と重複して計上した部分の控除です。横断面図で控除している場合は不要です。

土工数量計算表

測点	距離		切土			盛土			左側土羽				右側土羽				左側法面積				右側法面積				備考
	切土 (m)	盛土 (m)	断面積 (m ²)	平均 断面積 (m ²)	土量 (m ³)	断面積 (m ²)	平均 断面積 (m ²)	土量 (m ³)	読取 距離 (m)	土羽長 (m)	平均 土羽長 (m)	土羽 面積 (m ²)	読取 距離 (m)	土羽長 (m)	平均 土羽長 (m)	土羽 面積 (m ²)	読取 距離 (m)	法長 (m)	平均 法長 (m)	切取法 面積 (m ²)	読取 距離 (m)	法長 (m)	平均 法長 (m)	切取法 面積 (m ²)	
331.5																									
340.0	8.5	8.5				45.0	22.5	191.3		5.9	3.0	25.5													
345.0	5.0	5.0				44.7	44.9	224.5		6.3	6.1	30.5													
350.0	5.0	5.0					22.4	112.0																	流用計画測点
計	18.5	18.5						527.8				56.0													

※1 小半径曲線により土量算出の区間距離が測点間の距離に寄り難い場合は、偏心補正による修正距離とした。
 ※2 測量杭を設置していない測点で計画天端幅が変化する土量断面積および法長については、以下の方法により算出し、推定値を使用した。
 土量断面積 : 最も近い測点の値を基に、計画天端幅に比例した値とした。
 法長 : 前後の測点の法長を基に、計画天端前面の測点間の延長に比例した値とした。
 ※3 計画天端幅の変化などにより土羽面・法面の区間距離が測点間の距離に寄り難い場合は、CADによる読取距離とした。
 ※4 運搬先の測点(流用計画測点)は、施設内の概ね中央のチェーン測点とする。

起点取付数量計算書

測点 SP 0.00 ~ SP 8.17		幅員 6.00~4.00 m 延長 8.17 m		
名称	種別	計 算 式	数 量	単 位
切 土		横断面図より土量配分システムにて算出		m3
盛 土		横断面図より土量配分システムにて算出		m3
切土法面積		横断面図より土量配分システムにて算出		m2
盛土法面積		横断面図より土量配分システムにて算出		m2
上層路盤工	φ0~40mm	t= 0.15 起点取付図より 23.4×0.15	3.51	m3
下層路盤工	φ0~80mm	t= 0.20 起点取付図より 23.4×0.20	4.68	m3
内法仕上	取付路肩	図面より読取り (6.0+6.0)×0.35	4.20	m2
表面処理面積	アーマーコート3層			m2
安定処理面積	セメントアスファルト 乳剤安定処理	安定処理厚 =		m2
路肩張芝	取付路肩			m2
内法仕上控除	本線路肩			m2
路肩張芝控除	本線路肩			m2
U形トラフ	300B	@ 0.61 × 個 = m @ 2.01 × 個 = m		m
トラフ蓋	300用2種	(400×100×600) mm		枚
止水壁	300B用	(1000×800×200) mm		個

注1) 土工、法面積、路盤工、内法仕上、表面処理面積、安定処理面積、路肩張芝は、それぞれ各計算書に再計上し集計しています。

路盤工・路面安定処理工・内法仕上 総括

SP0~SP480 L=480m

種 別	路盤工体積 (m3)					舗装面積 (m2)			路肩張芝面積 (m2)	内法仕上面積 (m2)	備 考
	上層 φ0~40mm		下層 φ0~80mm			密粒度ギャップアスコン t=0.04m	舗装型枠 t=0.04m				
	取付道路	路盤厚 t=0.15m	路盤厚 t=0.20m	体積	面積(m2)						
	体積	面積(m2)	体積	面積(m2)	体積						
本線 SP 0.00 ∪ SP 480.00		1415.49	212.32	1415.49	283.10				330.28	起点取付 別紙計上 別紙計算書より	
起点取付		23.40	3.51	23.40	4.68				4.20	別紙計算書より	
待避所・車廻し		96.00	14.40	96.00	19.20					別紙計算書より	
曲線拡幅		125.45	18.82	125.45	25.09					別紙計算書より	
保護路肩											
取付道路 t=0.10											
〃 t=0.20	29.92								11.60	別紙計算書より	
路面排水工控除		-36.80	-5.52	-36.80	-7.36				-8.05	別紙計算書より	
路面排水版控除(舗装路面)											
導水路肩控除											
取付道路控除									-8.44	別紙計算書より	
計	29.92		243.53		324.71				329.59		
路盤工総体積 (m3)		φ0~40mm 273.45	φ0~80mm 324.71								

路盤材運搬距離算出表

SP0～SP480 L=480m

No. 1

1 一車線道路 区間距離（最寄りの骨材プラントから現場まで）							
①	公道（一車線）	運搬距離	骨材プラント	～	林道起点	=	0.8 km ※1
②	林道	運搬距離	林道起点	～	路盤工起点	=	k m
③	運搬距離	合計	①	+	②	=	0.8 k m
2 現場内 小運搬距離							
①	路盤工	施工延長	路盤工起点	～	路盤工終点	=	480.00 m
②	路盤材	仮置場設定箇所数				=	1 箇所
③	区間距離		①	÷	②	=	480 m/区間
④	平均運搬距離（小運搬距離）		③	÷	2	=	240 m

- ※1 地方建設資材等単価表の加算に係る距離で、位置図からの読取りによる。
 ※2 最寄りの骨材プラントから現場までの区間に一車線の公道または林道がある場合は、その距離を示した位置図等を添付する。
 ※3 仮置場は車廻し以上の規格を有する広さとし、工事起点付近には必要とする。

路盤工数量計算書

SP0～SP480 L=480m

No. 2

測 点	距 離 (m)	規 格・構 造			路 盤 工 面 積		備 考
		車道幅員 (m)	路面の種類	路盤厚 t (m)	幅 (m)	面 積 (m2)	
SP 0.00 ～ SP 8.17	8.17		普通路面	0.35			起点取付 別紙計上
SP 8.17 ～ SP 480.00	471.83	3.00	普通路面	0.35	3.00	1415.49	
計	480.00					1415.49	※ 導水路肩がある場合は別途計上
路盤厚毎の内訳				0.15		1415.49	
				0.20		1415.49	

内法仕上数量計算書

SP0～SP480 L=480m

No. 4

測 点	距 離 (m)	規 格 ・ 構 造			内 法 仕 上 面 積			備 考
		車道幅員 (m)	路面の種類	路 盤 厚 (m)	内 法 長 (m)	内法長×2 (m)	面 積 (m ²)	
SP 0.00 ~ SP 8.17	8.17		普通路面	0.35				起点取付 別紙計上
SP 8.17 ~ SP 480.00	471.83	3.00	普通路面	0.35	0.350	0.700	330.28	
計							330.28	※ 導水路肩がある場合は別途計上

待避所・車廻し面積計算書

SP0～SP480 L=480m

No. 5

車道幅員 (m)	路盤厚 t (m)	施設 番号	種 別	測 点 (m)	設置 方向	拡 幅 部		路 面 の 種 類		備 考	
						計 算 式 (② + ④) / 2 × ① ※2	面 積 (m ²)	普通路面 (m ²)	舗装路面 (m ²)		
3.00	0.35	1	待避所	SP 408.00 ~ SP 452.00	L	(20.00 + 44.00) / 2 × 3.00	96.00	96.00			
計							96.00	96.00			
路盤厚および安定処理厚別内訳							t=0.35	96.00			
待避所の構造				拡幅量 ①	有効長 ②	すり付け長 ③	総延長 ④	※1 小半径曲線部などの設置により標準図と形状や面積が異なる場合は、 詳細図より求積する。 ※2 起終点が待避所・車廻しの途中の場合は②と④を直接入力し、台形の 面積を計算する。また、すり付けの途中の場合は、④を直接入力し、 三角形の面積を計算する。			
車道幅員 4 m の場合				2.00	20.00	10.00	40.00				
車道幅員 3 m の場合				3.00	20.00	12.00	44.00				
車廻しの構造				拡幅量 ①	有効長 ②	すり付け長 ③	総延長 ④				
車道幅員 4 m の場合				5.00	20.00	10.00	40.00				
車道幅員 3 m の場合				6.00	20.00	12.00	44.00				

曲線部 拡幅面積計算書

SP0~SP480 L=480m

No. 6

車道幅員 (m)	路盤厚 t (m)	I P 番号	拡幅 方向 ※1	中心部					拡幅部					路面の種類		備 考	
				曲線半径 R (m)	測 点			曲線長 CL (m)	拡幅量 ① (m)	R' ② (m)	CL' ③ (m)	③-4m ④ (m)	すり付長 ⑤ (m)	面積 (④+⑤)×① (m ²)	普通路面 (m ²)		舗装路面 (m ²)
					BC (m)	BPorEP (m) ※3	EC (m)										
3.00	0.35	2	内	25.00	58.79		100.42	41.63	1.00	23.000	38.30	34.30	10.00	44.30	44.30		
3.00	0.35	3	内	40.00	109.97		136.19	26.22	0.50	38.250	25.07	21.07	10.00	15.54	15.54		
3.00	0.35	5	内	35.00	218.51		252.31	33.80	0.50	33.250	32.11	28.11	10.00	19.06	19.06		
3.00	0.35	6	内	40.00	295.92		387.00	91.08	0.50	38.250	87.10	83.10	10.00	46.55	46.55		
計														125.45	125.45		
路盤厚および安定処理厚別内訳													t=0.35	125.45			
偏心距離	拡 幅 量 ①			0.250	0.500	0.750	1.000	1.250	1.500	1.750	2.000	2.250	※1 両側拡幅の場合は片側ずつ算出する。 ※2 曲線が連続してすり付けが重なる場合は、詳細図より求積する。 ※3 起終点が曲線部拡幅箇所の場合は、④=③-2m、 面積=(④または③+⑤/2)×①とする。				
	車道幅員3mの場合			1.625	1.750	1.875	2.000	2.125	2.250	2.375	2.500	2.625					
	車道幅員4mの場合			2.125	2.250	2.375	2.500	2.625	2.750	2.875	3.000	3.125					
すり付け 方法	○	林道	BC・ECから曲線部に2mの点(BCC・ECC)を基点とし10mですり付ける。														
		林業専用道	BC・ECを基点として8mですり付ける。														
内側拡幅の場合：拡幅部半径(R')=道路中心半径(R)-偏心距離 外側拡幅の場合：拡幅部半径(R')=道路中心半径(R)+偏心距離 CL'=CL×R'/R																	

溝渠工（路面排水工・路面排水版）数量計算書 集計内訳表

SP0～SP480 L=480m

No. 9

路盤厚 (m)	造成幅員 (m)	路面排水工		路面排水版		備 考	路盤厚 (m)	造成幅員 (m)	路面排水工		路面排水版		備 考
		A 型 (基)	B 型 (基)	側溝用 (基)	トラフ用 (基)				A 型 (基)	B 型 (基)	側溝用 (基)	トラフ用 (基)	
0.35	W= 3.50												
	W= 3.11												
	W= 4.00	1	3										
	W= 4.25												
	W= 4.50												
	W= 4.11												
	W= 5.00												
	W= 5.25												
	W= 5.50												
	W= 5.11												
	W= 6.00	1											
	W= 6.25												
	W= 6.50												
W= 6.11													
t=0.35	計	2	3					計					
								形式別計	2	3			
								合計	5				

注意：控除には負の符号を付ける事。

その他の路盤工・その他の路面安定処理工・その他の内法仕上 入力データ

No. 10

測 点	その他の数量 (別紙数量計算書より)														備 考	
	取付道路等の路盤		起終点取付・その他の路盤工体積 (m)				路面安定処理工面積 (m2)			路肩張芝面積(m2)			内法仕上面積 (m2)			
	路盤厚 t=0.10	路盤厚 t=0.20	路盤厚 t=0.15		路盤厚 t=0.20		安定処理厚		表面処理	取付道路	起終点等	取付道路 控除	取付道路	起終点等		取付道路 控除
			追加	控除	追加	控除	t=0.10m	t=0.15m								
SP 0.00			3.51		4.68									4.20		起点取付SP0～SP8.17
SP 220.51		9.32											3.32		-2.84	取付道路(L)
SP 330.00		11.70											5.20		-2.80	取付道路(L)
SP 395.00		8.90											3.08		-2.80	取付道路(L)
計		29.92	3.51		4.68								11.60	4.20	-8.44	

溝渠工（暗渠）数量計算書 集計表（3）

施設 番号	測 点	埋戻し	残 土	仮設 足場工		総砂利体積		備 考
				枠 組	単 管 傾 斜	φ 0~40mm	φ 0~80mm	
		(m3)	(m3)	(m2)	(m2)	(m3)	(m3)	
1	SP 56.00	27.5	18.3				2.55	
計		27.5	18.3				2.55	

名 称	種 別	計 算 式	数 量	単 位	
RCT-2	φ 600	L= 2.00 m * 5 本 L= m * 本	10.00	m	
基礎砂利 (φ 0~80mm)	面積 t=0.25	RCT-2 0.70 m ² /m * 9.63 + m ² /m *	6.74	m ²	
	体積	(本体基礎) 0.25×6.74	1.69	m ³	
集水柵	I型B下部	(1100*1100*1200)mm	1	個	
木製柵蓋	I型B用	(920*920*100)mm	1	基	
危機一髪	I型B用	小動物脱出保護柵 (嵩上げタイプ)	1	基	
基礎砂利 (φ 0~80mm)	面積 t=0.20	(集水柵) 1.69 m ² * 1 + m ² *	1.69	m ²	
	体積	0.20×1.69	0.34	m ³	
吐口柵	φ 0.60用	北海道開発局型	1	個	
基礎砂利 (φ 0~80mm)	面積 t=0.20	(吐口柵) 2.61 m ² * 1 + m ² *	2.61	m ²	
	体積	0.20×2.61	0.52	m ³	
特殊篋		(250*1000*2000)mm	1	枚	
置換材 (φ 0~40mm)	床面積			m ²	
	体積	本体	=	m ³	
		面壁	(呑口)		=
			(吐口)		=
置換材 (φ 0~80mm)	床面積			m ²	
	体積	本体	=	m ³	
		面壁	(呑口)		=
			(吐口)		=
床掘	機械	土砂類 (本体) 16.3×2.0 = 32.60	45.8	m ³	
		(柵) 3.5×2.7+1.7×2.2 = 13.19			
床均し	人力	土砂類 (本体) 0.70×9.63 = 6.74	13.0	m ²	
		(柵) 1.30×1.30+2.61 = 4.30			
		(水叩) 2.00×1.00 = 2.00			
切取	機械	土砂類 (水路) =		m ³	
埋戻し		(16.3×2.0+3.5×2.7+1.7×2.2)×0.6	27.5	m ³	
残土		45.8-27.5	18.3	m ³	

招水工数量計算書集計表(1)

番号	測点	方向	V型トラフ	トラフ基礎		張芝面積	集水枘					止水壁 300用	床掘機	床均し 人力	埋戻し	残土	基礎砂利 総体積 0~80mm	備考	
			300	基礎砂利 φ0~80mm			I型		B	基礎砂利 φ0~80mm									
			@ 2.01	基床部		生芝	下部枘	木製蓋		危機一髪 浮島	t=0.20								体積
			(m)	(m2)	(m3)				(m2)		(個)								(基)
1	SP 80.00	L	4.01	1.79	0.36	1.00	1	1	1	1.69	0.34	1	9.5	3.7	5.4	4.1	0.70		
2																			
3																			
4																			
5																			
6																			
7																			
8																			
9																			
10																			
11																			
12																			
13																			
14																			
15																			
16																			
計			4.01	1.79	0.36	1.00	1	1	1	1.69	0.34	1	9.5	3.7	5.4	4.1	0.70		

注1) 残土は、小規模構造物等の掘削・床掘残土計算表に再計上し、合算しています。

第 1 号 招 水 工 数 量 計 算 書

No. 1

測 点 SP 80.00		方 向 L		
名 称	種 別	計 算 式	数 量	単 位
V 型 ト ラ フ	300	@ 2.01 排水施設図より	4.01	m
基礎砂利 φ 0 ~ 80mm	面積 t=0.20	0.50 m ² /m × 3.57	1.79	m ²
	基床部体積	0.10 m ³ /m × 3.57	0.36	m ³
張 芝 面 積	生芝	0.28 m ² /m × 3.57	1.00	m ²
集 水 柵	I 型B下部	(1100×1100×1200)mm	1	個
木 製 蓋	I 型B用	(920×920×100)mm	1	基
危 機 一 髪	I 型B用	小動物脱出保護柵 (浮き島タイプ)	1	基
基礎砂利 φ 0 ~ 80mm	面積 t=0.20	(集水柵) 1.69 m ² /m × 1	1.69	m ²
	体積	0.34 m ³ /m × 1	0.34	m ³
止 水 壁	300用	(1.20×1.00×0.20)	1	個
床 掘	機 械	排水施設図より 0.36×2.65+3.0×2.6+0.76	9.5	m ³
床 均 し	人 力	排水施設図より 0.50×3.57+1.69+0.24	3.7	m ²
埋 戻 し		排水施設図より 0.05×3.57+3.0×2.6×0.6+0.58	5.4	m ³
切 取	機 械			m ³
残 土		9.5-5.4	4.1	m ³

注1) 二重フトン管の場合は床均しを計上し、フトン管の場合は床均しを計上しないこと。

側溝工（V型トラフ300）数量計算書

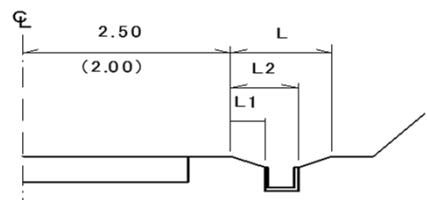
施設 番号	測 点	設置 方向	V型トラフ300				個 数		基礎砂利 φ0~80mm		張 芝 面 積		床 掘 (機械) (m3)	床均し (m2)	埋戻し (m3)	備 考	
			延 長 (m)	@ 0.61		@ 2.01		L=0.61 (個)	L=2.01 (個)	裏込部 (m3)	基床部 (m2)	(m2)					控除 (m2)
				路肩型 (m)	複断面型 (m)	路肩型 (m)	複断面型 (m)										
1	SP 56.00 ~ SP 80.00	L	27.17		24.78		2.39	41	2		13.59	21.19		9.78	13.59	1.36	
計			27.17		24.78		2.39	41	2		13.59	21.19		9.78	13.59	1.36	

側溝工（V型トラフ300）延長計算書

No. 1

施設 番号	測 点	設置 方向	R=50 未 満				R=50 以 上				IPNO	曲線 方向	道 路 中 心		修 正		備 考	
			@ 0.61 (m)	控 除 (m)	区 分	延 長 (m)	@ 2.01 (m)	控 除 (m)	区 分	延 長 (m)			R ① (m)	CL ② (m)	R' ③ (m)	CL' ④ (m)		
			1	SP 56.00 ~ SP 58.79	L									2.79	-0.40	複断面型		2.39
	SP 58.79 ~ SP 70.00	L	13.10		複断面型	13.10							2	R	25.00	11.21	29.21	13.10
	SP 70.00 ~ SP 80.00	L	12.08	-0.40	複断面型	11.68							2	R	25.00	10.00	30.19	12.08
					計 路肩型						計 路肩型							
					計 複断面型	24.78					計 複断面型	2.39						
					計		27.17											

1. 曲線内に起終点のある場合の曲線内トラフ延長
 中心半径 R : ① 中心距離 CL : ②
 内カーブの R' (③) = 中心半径 R - 造成幅員 / 2 - L2 - 拡幅量
 外カーブの R' (③) = 中心半径 R + 造成幅員 / 2 + L1 + 拡幅量
 修正距離 (曲線内トラフ延長) = (③ ÷ ①) × ②
2. 待避所・車廻しは、直線距離を斜距離に換算する。



トラフの幅	L	L1	L2
0.40	0.66	0.13	0.53
0.40	0.78	0.19	0.59
0.40	0.90	0.25	0.65

素掘側溝・張芝側溝数量計算書

SP0.0 ~ SP480.0 L= 480.0

名 称	種 別	計 算 式	数 量	単 位
素掘側溝	路肩側溝	N=1:1.0 側溝延長計算書より +		m
		N=1:0.8 側溝延長計算書より +		m
		N=1:0.6 側溝延長計算書より +		m
	複断面側溝	N=1:1.0 側溝延長計算書より +		m
		N=1:0.8 側溝延長計算書より +		m
		N=1:0.6 側溝延長計算書より +		m
	素掘側溝 総延長			
張芝側溝	路肩側溝	N=1:1.0 側溝延長計算書より +		m
		N=1:0.8 側溝延長計算書より 220.0 + 155.0	375.0	m
		N=1:0.6 側溝延長計算書より +		m
	複断面側溝	N=1:1.0 側溝延長計算書より +		m
		N=1:0.8 側溝延長計算書より + 25.0	25.0	m
		N=1:0.6 側溝延長計算書より +		m
	張芝側溝 総延長			400.0
張芝面積	路肩側溝	(N=1:1.0) × 1.14m ² /m + 375.00 (N=1:0.8) × 1.06m ² /m + (N=1:0.6) ×	397.50	m ²
	複断面側溝	(N=1:1.0) × 1.14m ² /m + 25.0 (N=1:0.8) × 1.56m ² /m + (N=1:0.6) ×	39.00	m ²
	その他			m ²
	張芝 総面積			436.50

側溝工延長計算書

SP0.0 ～ SP1340.0 L= 1340.0

No. 1

左側								右側							
測点	側溝区分	種別毎の延長 (m)						測点	側溝区分	種別毎の延長 (m)					
		素掘路肩	素掘複断面	張芝路肩	張芝複断面	トラフ等路肩	トラフ等複断面			素掘路肩	素掘複断面	張芝路肩	張芝複断面	トラフ等路肩	トラフ等複断面
SP0.0 ～ SP53.0	H=0.30 N=1:0.8			53.0				SP215.0 ～ SP240.0	H=0.30 N=1:0.8				25.0		
SP56.0 ～ SP80.0	H=0.30 N=1:0.8						27.17	SP240.0 ～ SP395.0	H=0.30 N=1:0.8			155.0			
SP117.0 ～ SP210.0	H=0.30 N=1:0.8			93.0											
SP406.0 ～ SP460.0	H=0.30 N=1:0.8			54.0											
SP460.0 ～ SP480.0	H=0.30 N=1:0.8			20.0											
計				220.0			27.17	計			155.0	25.0			

内訳	H=0.30	N=1:1.0	延長 (m)	内訳	H=0.30	N=1:1.0	延長 (m)
	H=0.30	N=1:0.8			H=0.30	N=1:0.8	
	H=0.30	N=1:0.6			H=0.30	N=1:0.6	
			220.0				27.17
						155.0	25.0

※ トラフ等の延長の詳細については、別途計算書（コンクリート等側溝数量計算書）を参照して下さい。

地下排水工（路床横断排水）数量計算書

No. 1

番号	測 点	流出方向	路床横断排水					張芝延長 (m)	備 考
			側溝 (箇所)	普通 (箇所)	防護 (箇所)	導水 (箇所)	導防 (箇所)		
1	SP 10.00	L	普						
2	SP 50.00	R		普					法覆基材
3	SP 150.00	L	普						
4	SP 190.00	L	普						
5	SP 270.00	R	普						
6	SP 455.00	L	普						
計			5	1					
内訳	普通路盤	普	5	1					チップ材使用
	特殊路盤	特							再生骨材又は切込砂利（碎石）使用

注1) 普通路盤の場合はチップ材、特殊路盤の場合は再生骨材又は切込砂利（碎石）を使用する。
 注2) 切土地山型を標準とし、盛土地山型は原則として使用しない。
 注3) 路面排水（木製品も含む）と路床排水の設置位置が重なることは避け、集水された水が分散するように配置する。
 やむを得ず近い位置に設置する場合は、路面排水の基礎部の安定を図るため、路床排水を高い位置に設置する。

標 識 工 数 量 計 算 書

～ SP480 L=480 m

単位：基

名 称	種 別	数 量	設 置 箇 所	備 考
林道標識	起点・終点	1	標識工設置箇所調書より	木製（文字彫込）
林道ゲート				簡易型
林道案内板	（里程標識）			表示板アルミ製
警 戒 標 識	単 屈 曲			ふくろう型（アルミ製）
	背 向 屈 曲	4	標識工設置箇所調書より	ふくろう型（アルミ製）
	つ づ ら 折			ふくろう型（アルミ製）
	急 勾 配			ふくろう型（アルミ製）
	交 差 点 有 り			アルミ製
	案 内 標 識	待 避 所	1	標識工設置箇所調書より
	車 廻 し			くま型（アルミ製）
安 全 施 設	視 線 誘 導 標			標 準 型
	道 路 反 射 鏡			丸型ホットミラーSUS型ステンレス製1面鏡
キ ロ 程 標 識				
標 識 囲 い	切 土 タ イ プ			
そ の 他				

注1) 警戒標識、案内標識、キロ程標識を切土に設置する場合は、標識囲いを設置する。

注2) 警戒標識、案内標識、キロ程標識は、進行方向に対して左側設置を標準とするが、標識囲いの設置が必要となる場合や高盛土箇所の場合は右側の設置を検討する。

注3) 設置箇所は左側上段から測点順に入力する。

標 識 工 設 置 箇 所 調 書

～ SP480 L=480 m

No. 1

番号	設 置 測 点														備 考	
	林道標識	林道ゲート	林道案内板	警 戒 標 識					案 内 標 識		安全施設		キロ程標識	標識囲い		
	起 点 木製Ⅲ型	簡易型	里程標識	単 屈 曲	背向屈曲	つづら折	急 勾 配	交差点等	待 避 所	車 廻 し	視線誘導標	道路反射鏡				
1	SP5 (L)				SP28 (L)					SP358 (R)						
2					SP167 (R)											
3					SP188 (L)											
4					SP417 (R)											
計	1				4					2	2			1		

注1) 警戒標識、案内標識、キロ程標識を切土に設置する場合は、標識囲いを設置する。
 注2) 警戒標識、案内標識、キロ程標識は、進行方向に対して左側設置を標準とするが、標識囲いの設置が必要となる場合や高盛土箇所の場合は右側の設置を検討する。
 注3) 設置箇所は左側上段から測点順に入力する。

取付道路数量計算書集計表

番号	測点	方向	幅員	延長	標準 タイプの 種類	切土 (m3)	盛土		切土 法面積 (m2)	盛土 法面積 (m2)	路盤材 再生骨材 0~40mm (m3)	内法 仕上 (m2)	路面安定処理			内法 仕上 控除 (m2)	路肩 張芝 控除 (m2)	U形トラフ 300B		トラフ 蓋 300用 (枚)	止水壁 1100 *800 *200 (個)	木製路 面排水 L=4.00 (基)	備 考	
							普通土 (m3)	すき取 り残土 (m3)					安定処 理面積 t=0.10 (m2)	表面処 理面積 (m2)	路肩 張芝 (m2)			@0.61 (m)	@2.01 (m)					
1	SP 220.51	L	4.00	6.00		7.5				9.32	3.32				2.84									
2	SP 330.00	L	4.00	10.00			12.2			11.70	5.20				2.80									
3	SP 395.00	L	4.00	5.00		11.8				8.90	3.08				2.80									
計						19.3	12.2			29.92	11.60				8.44									

注1) 切土・盛土は、土量配分システムに入力し、システム内で計上しています。また、アプローチポイントの盛土にすき取り残土を利用する場合は、土量配分システム内で運搬捨土として計上しています。
 注2) 法面積・路盤材・内法仕上は、それぞれ各計算書に再計上し集計しています。
 注3) 取付道路の路肩沿いに側溝を設置する場合は、図面等から延長を読取り、側溝工数量計算書で計上しています。

第 1 号 取付道路数量計算書

No. 1

測点 SP 220.51		角度 斜		方向 (L)		幅員 4.00 m		延長 6.00 m	
名称	種別	計 算 式						数 量	単 位
切 土		取付道路図より $(46.6 \times 0.20) \times 0.8$						7.5	m3
盛 土	普通土								m3
									m3
切 土 法 面 積									m2
盛 土 法 面 積		取付道路が本線の法面を覆う面積と概ね同等であり相殺される							m2
路 盤 材	再生骨材	t= 0.20	取付道路図より		46.60	×	0.20	9.32	m3
内 法 仕 上	取付路肩	図面より読取り		$0.20 \times (10.1 + 6.5)$				3.32	m2
表面処理面積	アーマーコート3層								m2
安定処理面積	セメントアスファルト 乳剤安定処理	安定処理厚 =							m2
路 肩 張 芝	取付路肩								m2
内法仕上控除	本線路肩	図面より読取り		0.20×14.21				2.84	m2
路肩張芝控除	本線路肩								m2
U 形 ト ラ フ	300B	@ 0.61	×	個 =	m	@ 2.01	×	個 =	m
ト ラ フ 蓋	300用2種	$(400 \times 100 \times 600)$ mm							枚
止 水 壁	300B用	$(1000 \times 800 \times 200)$ mm							個
側溝張芝控除	(トラフ)	※側溝工(トラフ)の箇所に蓋を設置する $m^2/m \times$							m2
木製路面排水	L=4.00m								基

第 2 号 取付道路数量計算書

No. 2

測点 SP 330.00		角度 直		方向 (L)		幅員 4.00 m		延長 10.00 m	
名称	種別	計 算 式						数 量	単 位
切 土									m3
盛 土	普通土	取付道路図より $3.0 \times 4.5 + (58.5 - 3.00 \times 10.50) \times 3.0 / 10.0 - (58.5 \times 0.20 \times 0.8)$						12.2	m3
									m3
切 土 法 面 積									m2
盛 土 法 面 積		取付道路が本線の法面を覆う面積と概ね同等であり相殺される							m2
路 盤 材	再生骨材	t= 0.20	取付道路図より		58.5	× 0.20		11.70	m3
内 法 仕 上	取付路肩	図面より読取り		$0.20 \times (13.0 + 13.0)$				5.20	m2
表面処理面積	アーマーコート3層								m2
安定処理面積	セメントアスファルト 乳剤安定処理	安定処理厚 = 0.10							m2
路 肩 張 芝	取付路肩	図面より読取り							m2
内法仕上控除	本線路肩	図面より読取り		0.20×14.00				2.80	m2
路肩張芝控除	本線路肩	図面より読取り							m2
U 形 ト ラ フ	300B	@ 0.61	× 個 =		m	@ 2.01	× 個 = m		m
ト ラ フ 蓋	300用2種	$(400 \times 100 \times 600)$ mm							枚
止 水 壁	300B用	$(1000 \times 800 \times 200)$ mm							個
側溝張芝控除	(トラフ)	※側溝工(トラフ)の箇所に蓋を設置する $m^2/m \times$							m2
木製路面排水	L=4.00m								基

第 3 号 取付道路数量計算書

No. 3

測点 SP 395.00		角度 直		方向 (L)		幅員 4.00 m		延長 5.00 m	
名称	種別	計 算 式						数 量	単 位
切 土		取付道路図より $0.3 \times 4.0 + (44.5 - 3.00 \times 5.50) \times 0.3 / 5.0 + 44.5 \times 0.20$						11.8	m3
盛 土	普通土								m3
									m3
切 土 法 面 積		取付道路が本線の法面を覆う面積と概ね同等であり相殺される							m2
盛 土 法 面 積									m2
路 盤 材	再生骨材	t= 0.20	取付道路図より		44.5	×	0.20	8.90	m3
内 法 仕 上	取付路肩	図面より読取り		$0.20 \times (7.7 + 7.7)$				3.08	m2
表面処理面積	アーマーコート3層								m2
安定処理面積	セメントアスファルト 乳剤安定処理	安定処理厚 =							m2
路 肩 張 芝	取付路肩	図面より読取り							m2
内法仕上控除	本線路肩	図面より読取り		0.20×14.00				2.80	m2
路肩張芝控除	本線路肩	図面より読取り							m2
U 形 ト ラ フ	300B	@ 0.61	×	個 =	m	@ 2.01	×	個 =	m
ト ラ フ 蓋	300用2種	(400×100×600)mm							枚
止 水 壁	300B用	(1000×800×200)mm							個
側溝張芝控除	(トラフ)	※側溝工(トラフ)の箇所に蓋を設置する $m^2/m \times$							m2
木製路面排水	L=4.00m								基

伐開・除根 数量計算書

SP0～SP480 L=480m

No.

1

測 点	距 離	伐 開 面 積				機 械 除 根 面 積					集積積込(除根有)			集積積込(除根無)			伐根数量		備 考
		巾	平均巾	植生区分別面積		巾	平均巾	適用区分別面積			巾	平均巾	集積面積	巾	平均巾	集積面積	係 数	体 積	
				1 種	2 種			疎 林	中 林	密 林									
(m)	(m)	(m ²)	(m ²)	(m)	(m)	(m ²)	(m ²)	(m ²)	(m)	(m)	(m ²)	(m)	(m)	(m ²)		(m ³)			
0.00		2.0											2.0						
10.00	10.00	4.9	3.5	35									4.9	3.5	35	0.1			
20.00	10.00	4.9	4.9	49									4.9	4.9	49	0.1			
40.00	20.00	4.5	4.7	94									4.5	4.7	94	0.1			
50.79	10.79	3.1	3.8	41									3.1	3.8	41	0.1			
56.00	5.21	12.1	7.6	40	4.4	2.2	11			6.7	3.4	18	5.4	4.3	22	0.1	2		
59.00	3.00	7.0	9.6	29	2.2	3.3	10			2.2	4.5	14	4.8	5.1	15	0.1	1		
60.00	1.00	5.0	6.0	6	0.3	1.3	1			0.3	1.3	1	4.7	4.8	5	0.1			
60.79	0.79	4.6	4.8	4		0.2					0.2		4.6	4.7	4	0.1			
63.00	2.21	5.4	5.0	11									5.4	5.0	11	0.1			
70.00	7.00	5.7	5.6	39									5.7	5.6	39	0.1			
80.00	10.00	11.9	8.8	88						4.9	2.5	25	7.0	6.4	64	0.1	3		
90.00	10.00	2.0	7.0	70							2.5	25	2.0	4.5	45	0.1	3		
98.42	8.42	4.2	3.1	26	2.2	1.1	9			2.2	1.1	9	2.0	2.0	17	0.1	1		
100.00	1.58	3.9	4.1	6	1.9	2.1	3			1.9	2.1	3	2.0	2.0	3	0.1			
101.97	1.97	2.0	3.0	6		1.0	2				1.0	2	2.0	2.0	4	0.1			

伐開・除根 数量計算書

SP0～SP480 L=480m

No.

2

測 点	距 離	伐 開 面 積				機 械 除 根 面 積					集積積込(除根有)			集積積込(除根無)			伐根数量		備 考
		巾	平均巾	植生区分別面積		巾	平均巾	適用区分別面積			巾	平均巾	集積面積	巾	平均巾	集積面積	係 数	体 積	
				1 種	2 種			疎 林	中 林	密 林									
(m)	(m)	(m ²)	(m ²)	(m)	(m)	(m ²)	(m ²)	(m ²)	(m)	(m)	(m ²)	(m)	(m)	(m ²)		(m ³)			
108.42	6.45	2.3	2.2	14									2.3	2.2	14	0.1			
111.97	3.55	2.2	2.3	8									2.2	2.3	8	0.1			
115.00	3.03	2.0	2.1	6									2.0	2.1	6	0.1			
120.00	5.00	2.0	2.0	10									2.0	2.0	10	0.1			
134.19	14.19	3.8	2.9	41									3.8	2.9	41	0.1			
140.00	5.81	1.9	2.9	17									1.9	2.9	17	0.1			
144.19	4.19	3.6	2.8	12									3.6	2.8	12	0.1			
160.00	15.81	3.7	3.7	58									3.7	3.7	58	0.1			
180.00	20.00	3.7	3.7	74									3.7	3.7	74	0.1			
200.00	20.00	3.9	3.8	76									3.9	3.8	76	0.1			
210.51	10.51	4.3	4.1	43									4.3	4.1	43	0.1			
220.00	9.49	3.6	4.0	38									3.6	4.0	38	0.1			
220.51	0.51	3.5	3.6	2									3.5	3.6	2	0.1			
240.00	19.49	4.3	3.9	76									4.3	3.9	76	0.1			
250.31	10.31	5.0	4.7	48		1.5	0.8	8			1.5	0.8	8	3.5	3.9	40	0.1	1	
260.00	9.69	2.0	3.5	34			0.8	8				0.8	8	2.0	2.8	27	0.1	1	

伐開・除根 数量計算書

SP0～SP480 L=480m

No.

3

測 点	距 離	伐 開 面 積				機 械 除 根 面 積					集積積込(除根有)			集積積込(除根無)			伐根数量		備 考
		巾	平均巾	植生区分別面積		巾	平均巾	適用区分別面積			巾	平均巾	集 積 面積	巾	平均巾	集 積 面積	係 数	体 積	
				1 種	2 種			疎 林	中 林	密 林									
(m)	(m)	(m ²)	(m ²)	(m)	(m)	(m ²)	(m ²)	(m ²)	(m)	(m)	(m ²)	(m)	(m)	(m ²)		(m ³)			
260.31	0.31	2.0	2.0	1									2.0	2.0	1	0.1			
280.00	19.69	2.6	2.3	45									2.6	2.3	45	0.1			
287.92	7.92	4.7	3.7	29	0.7	0.4	3			0.7	0.4	3	4.0	3.3	26	0.1			
297.92	10.00	4.6	4.7	47		0.4	4				0.4	4	4.6	4.3	43	0.1			
300.00	2.08	4.7	4.7	10									4.7	4.7	10	0.1			
310.00	10.00	1.6	3.2	32									1.6	3.2	32	0.1			
320.00	10.00	6.9	4.3	43									6.9	4.3	43	0.1			
330.00	10.00	15.0	11.0	110									15.0	11.0	110	0.1			
340.00	10.00	24.5	19.8	198	0.8	0.4	4			0.8	0.4	4	23.7	19.4	194	0.1			
350.00	10.00	25.8	25.2	252	0.8	0.8	8			0.8	0.8	8	25.0	24.4	244	0.1	1		
360.00	10.00	27.0	26.4	264	0.8	0.8	8			5.0	2.9	29	22.0	23.5	235	0.1	3		
380.00	20.00	3.9	15.5	310		0.4	8			1.1	3.1	62	2.8	12.4	248	0.1	6		
385.00	5.00	4.5	4.2	21							0.6	3	4.5	3.7	19	0.1			
395.00	10.00	10.0	7.3	73									10.0	7.3	73	0.1			
400.00	5.00	4.7	7.4	37									4.7	7.4	37	0.1			
408.00	8.00	3.0	3.9	31									3.0	3.9	31	0.1			

伐開・除根数量計算書

SP0～SP480 L=480m

No.

4

測 点	距 離	伐 開 面 積				機 械 除 根 面 積					集積積込(除根有)			集積積込(除根無)			伐根数量		備 考
		巾	平均巾	植生区分別面積		巾	平均巾	適用区分別面積			巾	平均巾	集積面積	巾	平均巾	集積面積	係 数	体 積	
				1 種	2 種			疎 林	中 林	密 林									
(m)	(m)	(m2)	(m2)	(m)	(m)	(m2)	(m2)	(m2)	(m)	(m)	(m2)	(m)	(m)	(m2)		(m3)			
420.00	12.00	6.5	4.8	58						4.5	2.3	28	2.0	2.5	30	0.1	3		
440.00	20.00	5.7	6.1	122						3.7	4.1	82	2.0	2.0	40	0.1	8		
452.00	12.00	5.8	5.8	70						1.9	23	5.8	3.9	47	0.1	2			
460.00	8.00	2.6	4.2	34								2.6	4.2	34	0.1				
480.00	20.00	6.1	4.4	88								6.1	4.4	88	0.1				
計	480.00			2976				87				359			2620		35		

集計 伐開・除根 数量計算書

SP0～SP480 L=480m

測 点	距 離	伐 開 面 積				機 械 除 根 面 積					集積積込 (除根有)			集積積込 (除根無)			伐根数量		備 考
		巾	平均巾	植生区分別面積		巾	平均巾	適用区分別面積			巾	平均巾	集 積 面積	巾	平均巾	集 積 面積	係 数	体 積	
				1 種	2 種			疎 林	中 林	密 林									
(m)	(m)	(m ²)	(m ²)	(m)	(m)	(m ²)	(m ²)	(m ²)	(m)	(m)	(m ²)	(m)	(m)	(m ²)		(m ³)			
本線				2976			87					359			2620		35		
計				2976			87					359			2620		35		

既設構造物撤去数量計算書

測 点	名 称	寸法 ・ 形状 ・ 規格 ・ 計算式				数 量	単 位
SP 0.00 ～ SP 480.00							
SP60.7	鉄筋コンクリート管	φ 0.45	L= 7.00	1m当たり	200 kg	7.00×200	1400 kg
						1m3あたり2400kg	0.58 m3
SP0	路面排水Bタイプ	L= 2.30	W= 4.00	路面排水標準断面図より		トラフA=0.08m2 踏掛版A=0.29m2	
		(0.08×4.50+0.29×4.00)×2500					3800 kg
						1m3あたり2300kg	1.65 m3
	グレーチング	L= 4.00	(995×350×44)～26.6kg		26.6×4.00		106 kg
計						5306	kg

SP40～SP60、SP70～SP100、SP320～SP380

胸高直径	SP40～ SP60	SP70～ SP100	SP320～ SP380	計
4 cm			2	2
6 cm			24	24
8 cm			22	22
10 cm			21	21
12 cm			9	9
14 cm	1		14	15
16 cm			3	3
18 cm			7	7
20 cm			5	5
22 cm			4	4
24 cm		1	5	6
26 cm		1		1
28 cm			3	3
30 cm		1		1
30cmを超える		2		2
計	1	5	119	125

立木等
庭木等

調査野帳

調査年月日 令和6年2月13日
調査員

調査番号

現場名 森林管理道大津長節線

No. 1

立木・庭木等の所在		中川郡豊頃町大津 125-1			所有者			
テープ番号	樹種又は種類	区分	胸高直径	樹高	根元径 根元周り	枝張り	面積	備考
(ミドリ)			cm	m	cm	cm	m ²	
921	カラマツ	A	26	-				70~80(R)
922	カラマツ	A	29	-				80~100(R)
923	カラマツ	A	40	-				80~100(R)
924	カラマツ	A	23	-				80~100(R)
925	カラマツ	A	37	-				80~100(R)
926	タモ	A	13	-				40~60(R)
樹種	本数	樹種	本数	樹種	本数	樹種	本数	
カラマツ	5							
タモ	1							

(注) 1.区分欄には当該立木の存する土地の地勢区分について記載する。
 A……傾斜角度 0° ~ 10° 未満 B……傾斜角度 10° ~20° 未満
 C……傾斜角度 20° 以上

立木等
庭木等

調査野帳

調査年月日 令和6年2月13日

調査番号

調査員

現場名 森林管理道大津長節線

No. 2

立木・庭木等の所在		中川郡豊頃町大津 125-1			所有者			
テープ番号	樹種又は種類	区分	胸直 高 径 cm	樹高 m	根元径 根元周り cm	枝張り cm	面積 m ²	備考
(ピンク)								
851	カラマツ	A	21	-				320~380(L)
852	カラマツ	A	6	-				320~380(L)
853	カラマツ	A	24	-				320~380(L)
854	カラマツ	A	8	-				320~380(L)
855	カラマツ	A	6	-				320~380(L)
856	カラマツ	A	9	-				320~380(L)
857	カラマツ	A	10	-				320~380(L)
858	カラマツ	A	6	-				320~380(L)
859	カラマツ	A	22	-				320~380(L)
860	カラマツ	A	20	-				320~380(L)
861	ヤナギ	A	8	-				320~380(L)
862	ヤナギ	A	9	-				320~380(L)
863	ナラ	A	28	-				320~380(L)
864	ナラ	A	22	-				320~380(L)
865	ナラ	A	20	-				320~380(L)
866	ナラ	A	17	-				320~380(L)
867	トスナラ	A	8	-				320~380(L)
868	トスナラ	A	14	-				320~380(L)
869	トスナラ	A	4	-				320~380(L)
870	トスナラ	A	8	-				320~380(L)
樹種	本数	樹種	本数	樹種	本数	樹種	本数	
カラマツ	10							
トスナラ	4							
ナラ	4							
ヤナギ	2							

(注) 1.区分欄には当該立木の存する土地の地勢区分について記載する。

A.....傾斜角度 0° ~ 10° 未満

B.....傾斜角度 10° ~20° 未満

C.....傾斜角度 20° 以上

立木等
庭木等

調査野帳

調査年月日 令和6年2月13日

調査番号

調査員

現場名 森林管理道大津長節線

No. 3

立木・庭木等の所在		中川郡豊頃町大津 125-1			所有者			
テープ番号	樹種又は種類	区分	胸直 高径 cm	樹高 m	根元径 根元周り cm	枝張り cm	面積 m ²	備考
(ピンク)								
871	ナラ	A	8	-				320~380(L)
872	ナラ	A	8	-				320~380(L)
873	ナラ	A	8	-				320~380(L)
874	ナラ	A	10	-				320~380(L)
875	ナラ	A	6	-				320~380(L)
876	カラマツ	A	28	-				320~380(L)
877	カラマツ	A	24	-				320~380(L)
878	カラマツ	A	22	-				320~380(L)
879	ナラ	A	4	-				320~380(L)
880	ナラ	A	5	-				320~380(L)
881	ナラ	A	8	-				320~380(L)
882	ナラ	A	12	-				320~380(L)
883	ナラ	A	9	-				320~380(L)
884	ナラ	A	12	-				320~380(L)
885	ナラ	A	18	-				320~380(L)
886	ナラ	A	17	-				320~380(L)
887	ナラ	A	14	-				320~380(L)
888	ドスナラ	A	8	-				320~380(L)
889	ドスナラ	A	8	-				320~380(L)
890	シナ	A	9	-				320~380(L)
樹種	本数	樹種	本数	樹種	本数	樹種	本数	
カラマツ	3							
シナ	1							
ドスナラ	2							
ナラ	14							

(注) 1.区分欄には当該立木の存する土地の地勢区分について記載する。

A.....傾斜角度 0° ~ 10° 未満

B.....傾斜角度 10° ~20° 未満

C.....傾斜角度 20° 以上

立木等
庭木等

調査野帳

調査年月日 令和6年2月13日

調査番号

調査員

現場名 森林管理道大津長節線

No. 4

立木・庭木等の所在		中川郡豊頃町大津 125-1			所有者			
テープ番号	樹種又は種類	区分	胸直 高径	樹高	根元径 根元周り	枝張り	面積	備考
(ピンク)			cm	m	cm	cm	m ²	
891	ヤナギ	A	9	-				320~380(L)
892	シラカバ	A	14	-				320~380(L)
893	シラカバ	A	8	-				320~380(L)
894	ヤナギ	A	13	-				320~380(L)
895	ヤナギ	A	14	-				320~380(L)
896	ヤナギ	A	6	-				320~380(L)
897	ヤナギ	A	6	-				320~380(L)
898	ハン	A	7	-				320~380(L)
899	ヤナギ	A	8	-				320~380(L)
900	ヤナギ	A	6	-				320~380(L)
901	ヤナギ	A	8	-				320~380(L)
902	ヤナギ	A	13	-				320~380(L)
903	ヤナギ	A	10	-				320~380(L)
904	ヤナギ	A	6	-				320~380(L)
905	ヤナギ	A	10	-				320~380(L)
906	ヤナギ	A	10	-				320~380(L)
907	ハン	A	24	-				320~380(L)
908	ヤナギ	A	6	-				320~380(L)
909	シラカバ	A	14	-				320~380(L)
910	シラカバ	A	19	-				320~380(L)
樹種	本数	樹種	本数	樹種	本数	樹種	本数	
シラカバ	4							
ハン	2							
ヤナギ	14							

(注) 1.区分欄には当該立木の存する土地の地勢区分について記載する。

A.....傾斜角度 0° ~ 10° 未満

B.....傾斜角度 10° ~20° 未満

C.....傾斜角度 20° 以上

立木等
庭木等

調査野帳

調査年月日 令和6年2月13日

調査番号

調査員

現場名 森林管理道大津長節線

No. 5

立木・庭木等の所在		中川郡豊頃町大津 125-1			所有者			
テープ番号	樹種又は種類	区分	胸直 高径 cm	樹高 m	根元径 根元周り cm	枝張り cm	面積 m ²	備考
(ピンク)								
911	ヤナギ	A	10	-				320~380(L)
912	ヤナギ	A	6	-				320~380(L)
913	ヤナギ	A	8	-				320~380(L)
914	ヤナギ	A	14	-				320~380(L)
915	ヤナギ	A	10	-				320~380(L)
916	ヤナギ	A	14	-				320~380(L)
917	ナラ	A	6	-				320~380(L)
918	ナラ	A	6	-				320~380(L)
919	ナラ	A	6	-				320~380(L)
920	ナラ	A	6	-				320~380(L)
921	ヤナギ	A	14	-				320~380(L)
922	トスナラ	A	9	-				320~380(L)
923	トスナラ	A	7	-				320~380(L)
924	トスナラ	A	8	-				320~380(L)
925	カラマツ	A	12	-				320~380(L)
926	ナラ	A	6	-				320~380(L)
927	ナラ	A	12	-				320~380(L)
928	ナラ	A	6	-				320~380(L)
929	ナラ	A	8	-				320~380(L)
930	カラマツ	A	11	-				320~380(L)
樹種	本数	樹種	本数	樹種	本数	樹種	本数	
カラマツ	2							
トスナラ	3							
ナラ	8							
ヤナギ	7							

(注) 1.区分欄には当該立木の存する土地の地勢区分について記載する。

A.....傾斜角度 0° ~ 10° 未満

B.....傾斜角度 10° ~20° 未満

C.....傾斜角度 20° 以上

立木等
庭木等

調査野帳

調査年月日 令和6年2月13日

調査番号

調査員

現場名 森林管理道大津長節線

No. 6

立木・庭木等の所在		中川郡豊頃町大津 125-1			所有者			
テープ番号	樹種又は種類	区分	胸直 高 径 cm	樹高 m	根元径 根元周り cm	枝張り cm	面積 m ²	備考
(ピンク) 931	マカバ	A	10	-				320~380(L)
932	ヤナギ	A	6	-				320~380(L)
933	マカバ	A	8	-				320~380(L)
934	ハン	A	14	-				320~380(L)
935	ヤナギ	A	10	-				320~380(L)
936	ヤナギ	A	16	-				320~380(L)
937	ヤナギ	A	17	-				320~380(L)
938	ハン	A	24	-				320~380(L)
939	ハン	A	28	-				320~380(L)
940	ハン	A	19	-				320~380(L)
941	ヤナギ	A	15	-				320~380(L)
942	ナラ	A	7	-				320~380(L)
943	ナラ	A	6	-				320~380(L)
944	ナラ	A	6	-				320~380(L)
945	ヤナギ	A	10	-				320~380(L)
946	ヤナギ	A	20	-				320~380(L)
947	ヤナギ	A	11	-				320~380(L)
948	ヤナギ	A	10	-				320~380(L)
949	ヤナギ	A	14	-				320~380(L)
950	ハン	A	18	-				320~380(L)
樹種	本数	樹種	本数	樹種	本数	樹種	本数	
ナラ	3							
ハン	5							
マカバ	2							
ヤナギ	10							

(注) 1.区分欄には当該立木の存する土地の地勢区分について記載する。

A.....傾斜角度 0° ~ 10° 未満

B.....傾斜角度 10° ~20° 未満

C.....傾斜角度 20° 以上

立木等
庭木等

調査野帳

調査年月日 令和6年2月13日

調査員

調査番号

現場名 森林管理道大津長節線

No. 7

立木・庭木等の所在		中川郡豊頃町大津 125-1			所有者				
テープ番号	樹種又は種類	区分	胸高直径	樹高	根元径 根元周り	枝張り	面積	備考	
(ピンク)			cm	m	cm	cm	m ²		
951	ヤナギ	A	12	-				320~380(L)	
952	ヤナギ	A	11	-				320~380(L)	
953	ハン	A	18	-				320~380(L)	
954	ナラ	A	9	-				320~380(L)	
955	ナラ	A	9	-				320~380(L)	
956	トスナラ	A	6	-				320~380(L)	
957	ナラ	A	7	-				320~380(L)	
958	トスナラ	A	14	-				320~380(L)	
959	ナラ	A	8	-				320~380(L)	
960	ナラ	A	10	-				320~380(L)	
961	トスナラ	A	6	-				320~380(L)	
962	トスナラ	A	6	-				320~380(L)	
963	トスナラ	A	11	-				320~380(L)	
964	ナラ	A	10	-				340~380(R)	
965	ナラ	A	24	-				340~380(R)	
966	ナラ	A	16	-				340~380(R)	
967	ナラ	A	6	-				340~380(R)	
968	ナラ	A	18	-				340~380(R)	
969	ナラ	A	14	-				340~380(R)	
樹種	本数	樹種	本数	樹種	本数	樹種	本数		
トスナラ	5								
ナラ	11								
ハン	1								
ヤナギ	2								

(注) 1.区分欄には当該立木の存する土地の地勢区分について記載する。

A.....傾斜角度 0° ~ 10° 未満

B.....傾斜角度 10° ~20° 未満

C.....傾斜角度 20° 以上

計画高水流量（排水施設）

計画高水流量は、集水区域面積・降雨強度・流出係数に基づき、次式によって計算する。

$$Q_a = 1/360 \cdot f \cdot r \cdot A \quad (\text{合理式 ラショナル式})$$

ここに

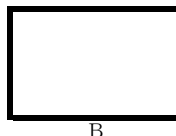
Q_a = 計画流出量 (m³/sec)
 f = 流出係数
 r = 雨量強度 (mm/h)
 A = 集水区域面積 (ha)

ボックスカルバートの流量計算並びに断面の決定（排水施設）

断面の算出については、カルバートを設置する位置の水路の断面及び勾配が上下流各10m程度一様とし、水路と同一幅のカルバートを設置することを原則とする。
流水断面算出にあたっては次のとおりとする。

$$1 \geq H/B$$

H : 内空高さ
B : 内空幅



流水断面積 A' $B \times H$
 潤辺 P $B + 2 \times H$
 径深 R A' / P

余裕断面と安全率

余裕断面	河川法の適用を受ける場合	余裕断面積の値	
		計画流量 (m ³ /sec)	桁下余裕高 (m)
余裕断面	橋梁	200未満	0.6
		200以上 500未満	0.8
		500以上 2000未満	1.0
		2000以上 5000未満	1.2
		5000以上 10000未満	1.5
	河川横断カルバート	雨水流量 (m ³ /sec)	余裕高 (m)
		200未満	0.6
		200以上 500未満	0.8
排水施設	安全率の標準値		
	管渠	安全率 3.0～	
	アーチカルバート	安全率 3.0～	
	ボックスカルバート	安全率 3.0～	
	側溝	安全率 1.2～	
	開渠(水路)	安全率 1.2～	

- 注 1 流木除け工又は土砂止め工等の施設を設ける場合は、2.0～3.0とする。
 2 流木除け工又は土砂止め工等の施設を設け難い場合又は不適当な場合は、3.0以上とする。
 また、木材を使用した簡易な立木除け工を設けた場合も、3.0以上とする。

1. 設計条件

- | | | |
|---------------------------|---|---|
| 1) 管の形状及び断面性能 | 2) 基礎の形状及び支持角 | 5) 衝撃係数 |
| a) 管種 高压管-2 | a) コンクリトベ-ス 無し | $i(h1) = 0.65 - 0.1h = 0.48$ |
| b) 管径 $\phi = 0.60$ m | b) 支持角係数 $k1=0.244$ $k2=0.254$ $k3=0.049$ | $i(h2) = 0.50$ ($h < 1.5$) |
| c) 管外径 $Bc = 0.730$ m | c) コンクリトベ-ス | 6) 単位重量 (死荷重) |
| d) 管厚中心半径 $r = 0.3325$ m | d) 基礎底面幅 $B = 0.50$ m | a) 土砂 $\gamma_s = 18.0$ kN/m ³ |
| e) 外圧強さ $Pr = 50.0$ kN/m | 3) 埋設方式 突出型 (粘性) | b) 基礎コンクリト $W = 23.0$ kN/m ³ |
| f) 単位重量 $Wp = 4.050$ kN/m | 4) 設計活荷重(T-25) 245 kN | |

2. 許容曲げモーメント (管重により算出)

$$Mr = k1 \times Pr \times r + k3 \times W \times r$$

$$: 0.244 \times 50.0 \times 0.3325 + 0.049 \times 4.050 \times 0.3325$$

$$: 4.122 \text{ kN}\cdot\text{m}$$

Mr : 許容曲げモーメント (kN·m)

土かぶり厚 (h1 = 1.70) の算出

3. 鉛直土圧

$$q_d = Cc \times \gamma_s \times Bc$$

$$= 4.784 \times 18.0 \times 0.730$$

$$= 62.862 \text{ kN/m}^2$$

Cc : 土圧係数 ($h > h_e$)

$$= \frac{\exp(k \times h_e / Bc) - 1}{k} + \frac{(h - h_e) \times \exp(k \times h_e / Bc)}{Bc}$$

$$= 4.784$$

q_d : 鉛直土圧 (kN/m²)

k : 土質定数 粘性土=0.8

h_e : 等沈下面の高さ (m)

$$= 1.12534 \times Bc = 0.821 \text{ m}$$

4. 活荷重

$$q_l = \frac{2 \times P \times (1+i) \times \beta}{2.75 (0.20 + 2h)}$$

$$= \frac{2 \times 100 \times (1+0.48) \times 0.9}{2.75 \times (0.20 + 2 \times 1.70)}$$

$$= 26.909 \text{ kN/m}^2$$

q_l : 活荷重による鉛直荷重 (kN/m²)

P : 1 後輪荷重 = 100 kN

a : 車輪の接地長 = 0.20 m

b : 車両占有幅 = 2.75 m

β : 断面力の低減係数 = 0.90

5. 最大曲げモーメント

$$M = k2 (q_d + q_l) r^2$$

$$: 0.254 \times (62.862 + 26.909) \times 0.3325^2$$

$$: 2.521 \text{ kN}\cdot\text{m}$$

M : 最大曲げモーメント (kN·m)

6. 安全率

$$F = Mr / M = 4.122 / 2.521 = 1.63 \geq 1.25 \therefore \text{OK}$$

F : 安全率

7. 基礎地盤反力

$$q = (q_d \times Bc + q_l \times Bc + Wp) / B$$

$$= (62.862 \times 0.730 + 26.909 \times 0.730 + 4.050) / 0.50$$

$$: 139.17 \text{ kN/m}^2$$

q : 基礎地盤反力 (kN/m²)

土かぶり厚 (h2 = 1.30) の算出

3. 鉛直土圧

$$q_d = Cc \times \gamma_s \times Bc$$

$$= 3.437 \times 18.0 \times 0.730$$

$$= 45.162 \text{ kN/m}^2$$

Cc : 土圧係数 ($h > h_e$)

$$= \frac{\exp(k \times h_e / Bc) - 1}{k} + \frac{(h - h_e) \times \exp(k \times h_e / Bc)}{Bc}$$

$$= 3.437$$

q_d : 鉛直土圧 (kN/m²)

k : 土質定数 粘性土=0.8

h_e : 等沈下面の高さ (m)

$$= 1.12534 \times Bc = 0.821 \text{ m}$$

4. 活荷重

$$q_l = \frac{2 \times P \times (1+i) \times \beta}{2.75 (0.20 + 2h)}$$

$$= \frac{2 \times 100 \times (1+0.50) \times 0.9}{2.75 \times (0.20 + 2 \times 1.30)}$$

$$= 35.065 \text{ kN/m}^2$$

q_l : 活荷重による鉛直荷重 (kN/m²)

P : 1 後輪荷重 = 100 kN

a : 車輪の接地長 = 0.20 m

b : 車両占有幅 = 2.75 m

β : 断面力の低減係数 = 0.90

5. 最大曲げモーメント

$$M = k2 (q_d + q_l) r^2$$

$$: 0.254 \times (45.162 + 35.065) \times 0.3325^2$$

$$: 2.253 \text{ kN}\cdot\text{m}$$

M : 最大曲げモーメント (kN·m)

6. 安全率

$$F = Mr / M = 4.122 / 2.253 = 1.82 \geq 1.25 \therefore \text{OK}$$

F : 安全率

7. 基礎地盤反力

$$q = (q_d \times Bc + q_l \times Bc + Wp) / B$$

$$= (45.162 \times 0.730 + 35.065 \times 0.730 + 4.050) / 0.50$$

$$: 125.23 \text{ kN/m}^2$$

q : 基礎地盤反力 (kN/m²)

路線名 大津長節線

測点 SP 56.00

1. 設計条件

1) 管の形状及び断面性能

- a) 管種
- b) 管径 $\phi = 0.60$ m
- c) 管外径 $B_c =$ m
- d) 管厚中心半径 $r =$ m
- e) 外圧強さ $P_r =$ kN/m
- f) 単位重量 $W_p =$ kN/m

2) 基礎の形状及び支持角

- a) コンクリート基礎
- b) 支持角係数 k
- c) コンクリート体積 $V =$ m³/m
- d) 基礎底面幅 $B =$ m

3) 埋設方式 突出型 (粘性)

4) 単位重量 (死荷重)

- a) 土砂 $\gamma_s = 18.0$ kN/m³
- b) 基礎コンクリート $W = 23.0$ kN/m³

2. 許容曲げモーメント (管重により算出)

$$M_r = 0.318 \times P_r \times r + 0.239 \times W_p \times r$$

M_r : 許容曲げモーメント (kN·m)

土かぶり厚 ($h_3 = 0.00$) の算出 (積雪深 $h = 1.10$ m 換算土かぶり厚 $h =$ m)

3. 鉛直土圧

4. 最大曲げモーメント

5. 安全率

6. 基礎地盤反力

土かぶり厚 ($h_4 = 0.00$) の算出 (積雪深 $h = 1.10$ m 換算土かぶり厚 $h =$ m)

3. 鉛直土圧

4. 最大曲げモーメント

5. 安全率

6. 基礎地盤反力

03-02 土工用ダンプトラック運搬 (10tダンプトラック再生骨材運搬)

• サイクルタイム(cm)

$$cm = \beta L + \alpha$$

cm : サイクルタイム (min : 小数点以下第2位四捨五入で小数点1位止め)

β : ①運搬状況による係数

L : km 片道運搬距離 (往路と復路が異なるときは平均値とする)

α : 分 ②積込み等その他の作業による補正係数 (min)

積込機種名

$$cm = 4.8 \times 20.0 + 15 = 111.0$$

• 運転時間当たり運搬量(地山土量)

$$V = 60 / cm \times q \times E \text{ (m}^3/\text{h)}$$

q : m³ ダンプトラック積載量 (m³) 10tダンプの許容積載重量 9.5 (t)

cm : 分 サイクルタイム (min)

E : 作業効率

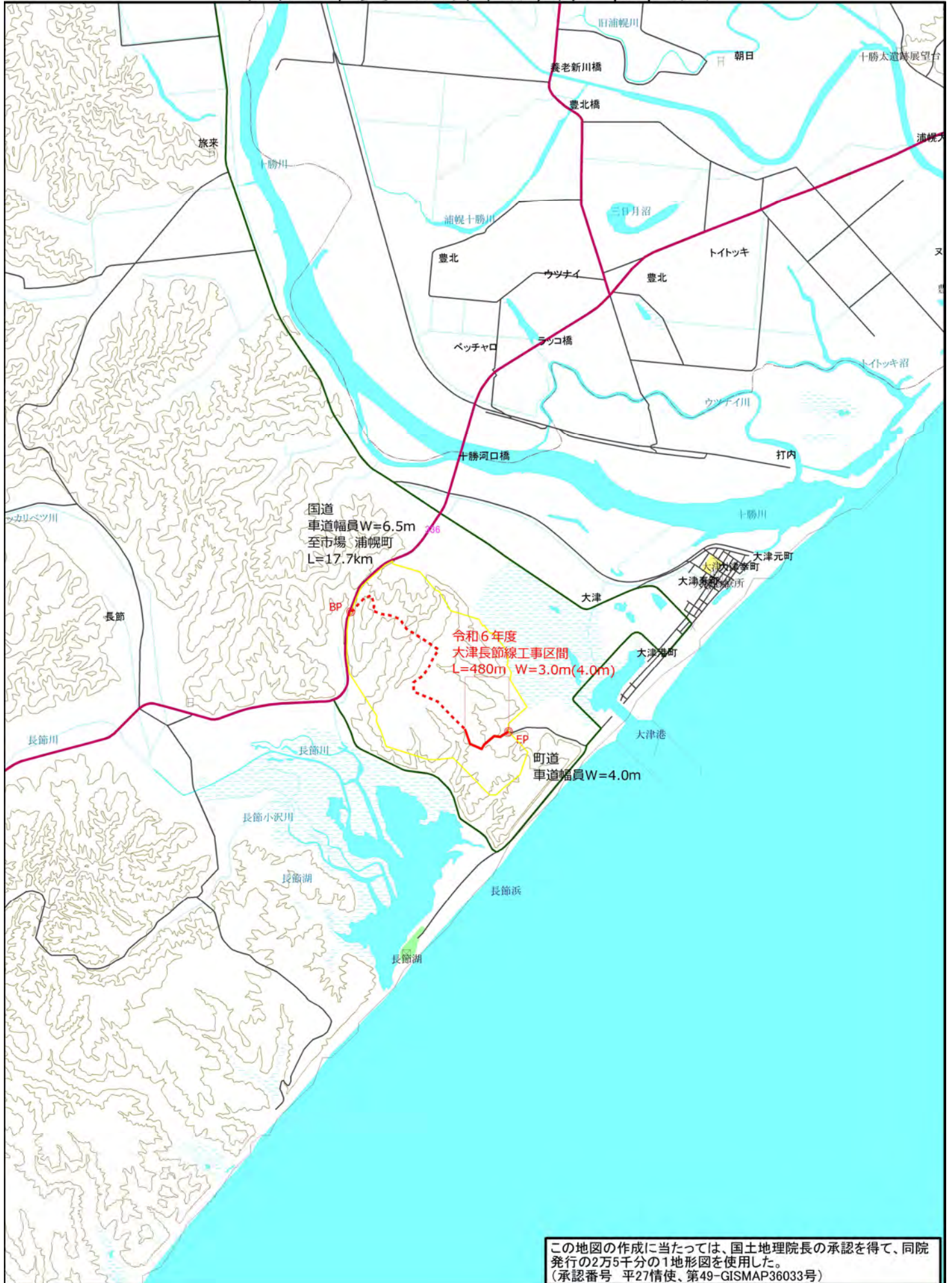
$$V = 60 \div 111.0 \times 5.2 \times 0.9 = 2.53$$

• 10tダンプトラック運転 (地山量 100m³あたり)

$$\text{時間あたり作業量} = 100 / V$$

$$100 \div 2.53 = 39.53$$

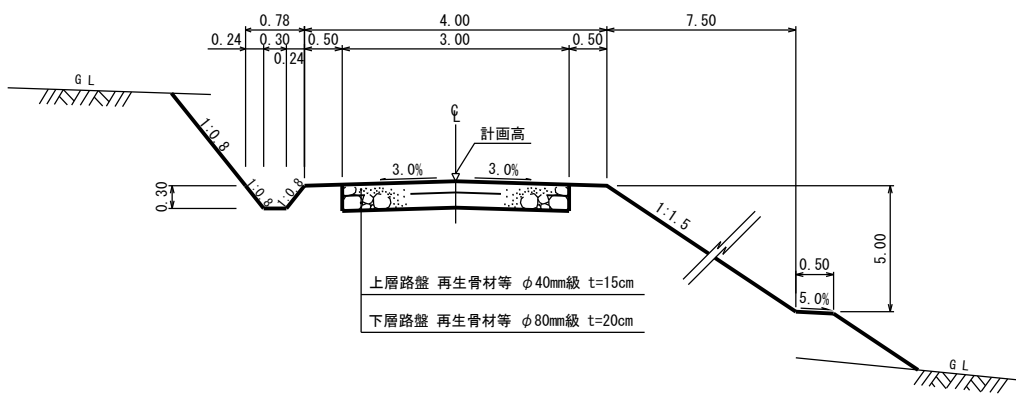
令和6年度 大津長節線 位置図



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。
(承認番号 平27情使、第49-GISMAP36033号)

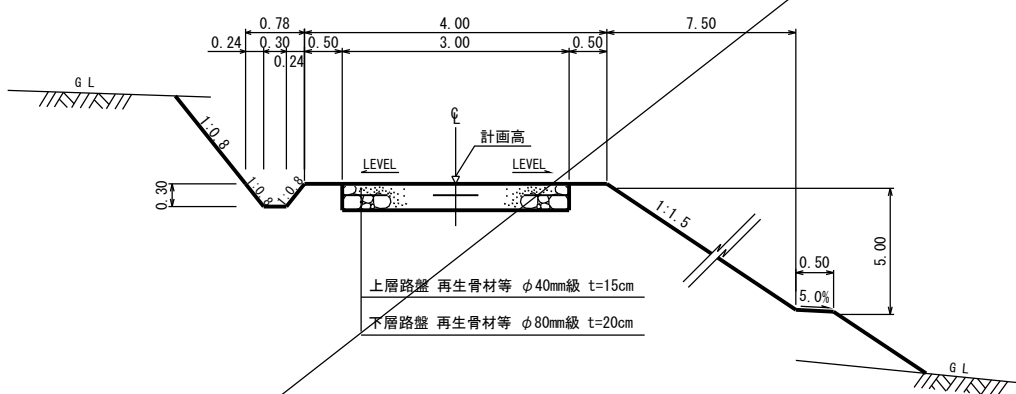
土工標準図

(普通路盤) A1 S=1:50
A3 S=1:100



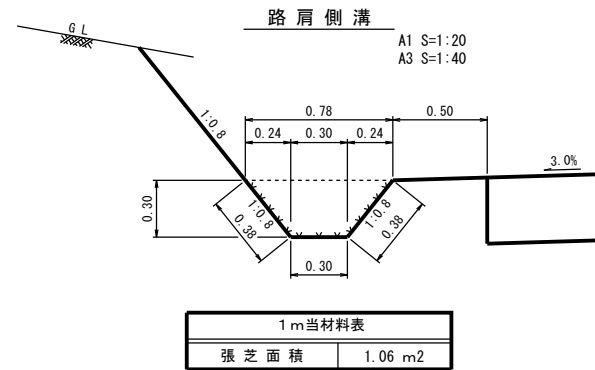
土工標準図

(普通路盤) A1 S=1:50
A3 S=1:100

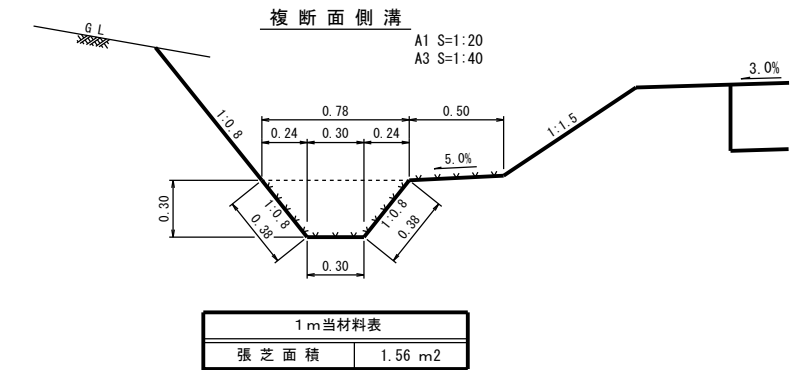


側溝工標準図

(張芝側溝)



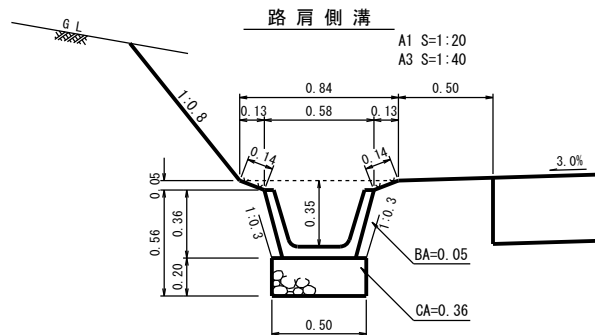
1m当材料表	
張芝面積	1.06 m ²



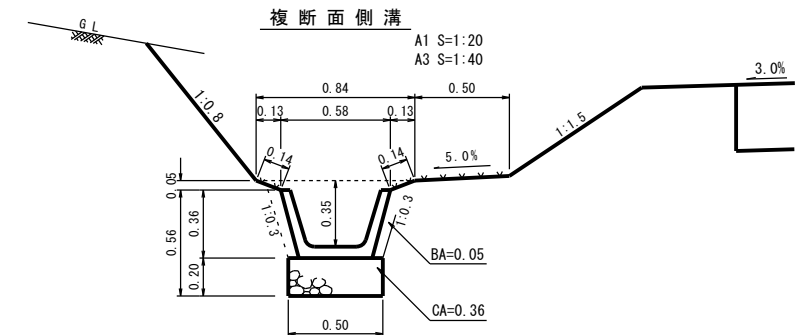
1m当材料表	
張芝面積	1.56 m ²

側溝工標準図

(V型トラフ300)



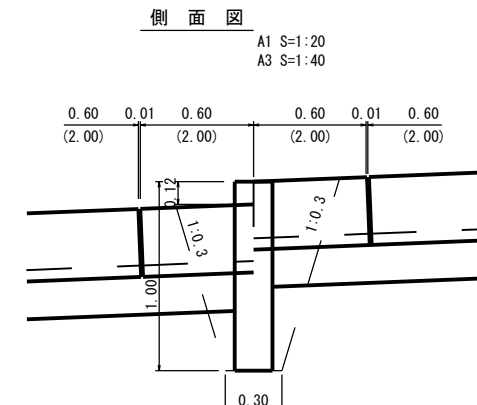
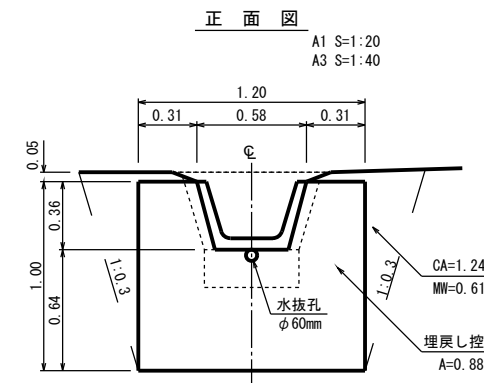
1m当材料表	
V型トラフ	300 1.00 m
基礎工	φ0~80mm 0.10 m ³ (t=0.20) 0.50 m ²
張芝面積	生芝 0.28 m ²
床掘機械	0.36 m ³
床均し	0.50 m ²
埋戻し	0.05 m ³



1m当材料表	
V型トラフ	300 1.00 m
基礎工	φ0~80mm 0.10 m ³ (t=0.20) 0.50 m ²
張芝面積	生芝 0.78 m ²
床掘機械	0.36 m ³
床均し	0.50 m ²
埋戻し	0.05 m ³

止水壁標準図

(V型トラフ300用)



材料表 (1箇所当り)

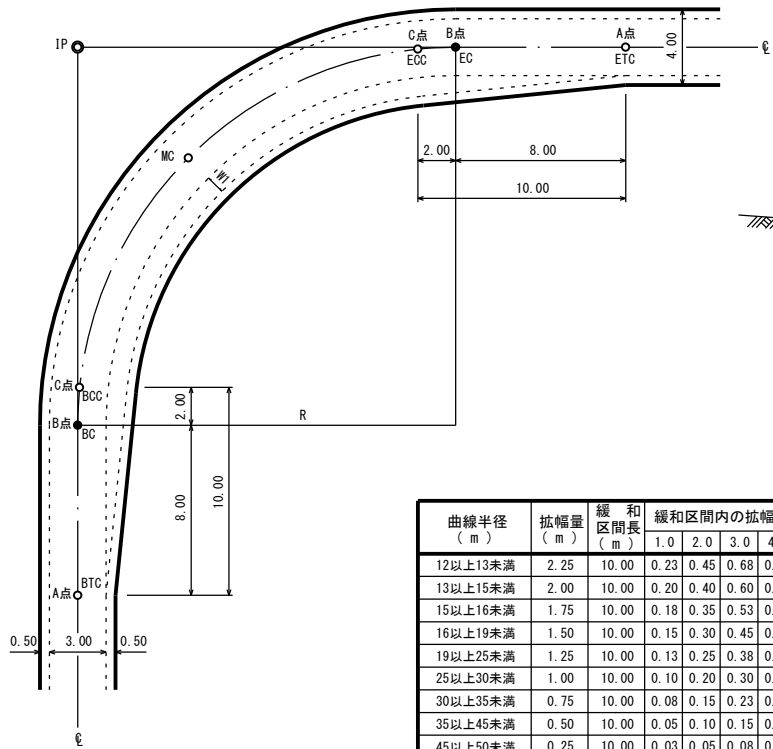
名称	種別	計算式	数量	単位
止水壁	300用	(1.20 × 1.00 × 0.20)	1	個
床掘機械		1.24 × 0.61	0.76	m ³
埋戻し		0.76 - 0.88 × 0.20	0.58	m ³
床均し		1.20 × 0.20	0.24	m ²
暗渠排水管				m

年度	令和6年度			
路線名	大津長節線			
事業名	開設事業			
林道区分	森林管理道	級別	第2種	設計速度
		区分	2級	20 km/h
名称	土工等標準図 6 葉中 1 番			
施工地	北海道中川郡豊頃町大津・長節			
施工主体	北海道十勝総合振興局			
図面番号	縮尺	図示		
会社名	株式会社ホクリンコンサルタント			
概要	土工・張芝側溝・V型トラフ・止水壁			

曲線部拡幅標準図

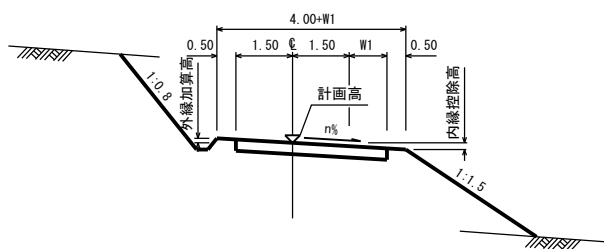
平面図

A1 S=1:200
A3 S=1:400



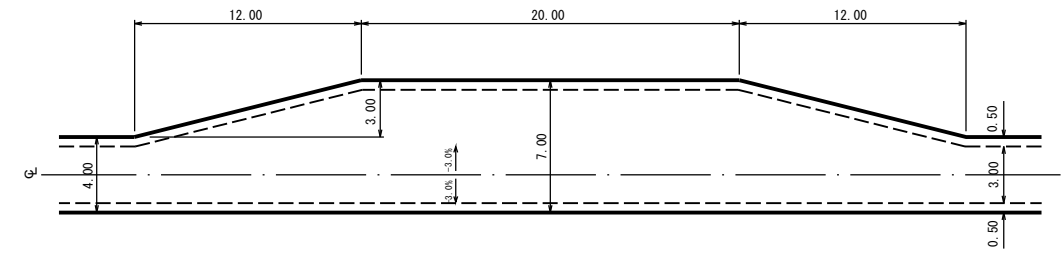
断面図

A1 S=1:100
A3 S=1:200



待避所標準図

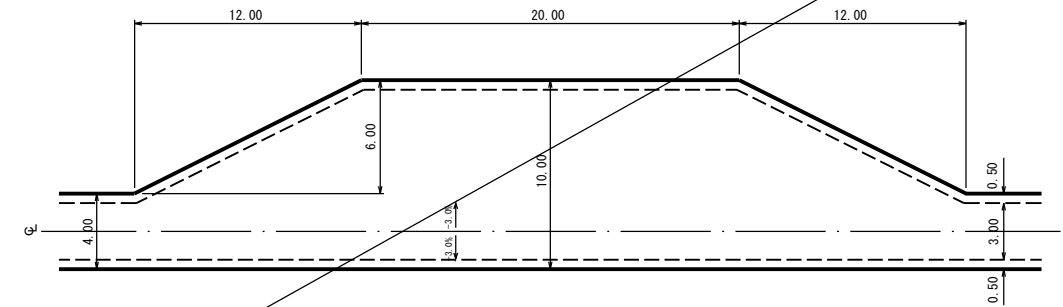
A1 S=1:200
A3 S=1:400



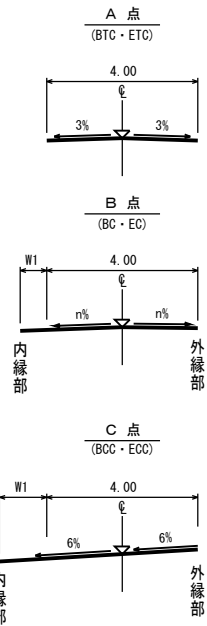
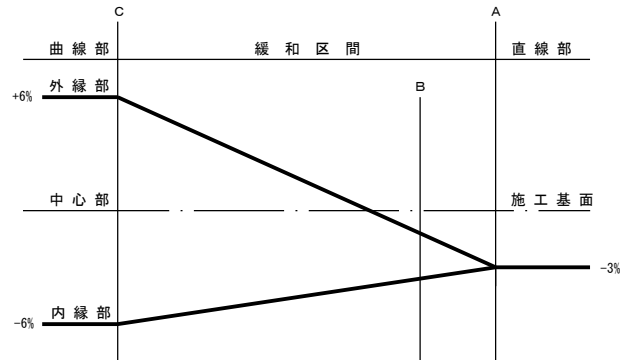
車廻し標準図

(片側拡幅)

A1 S=1:200
A3 S=1:400



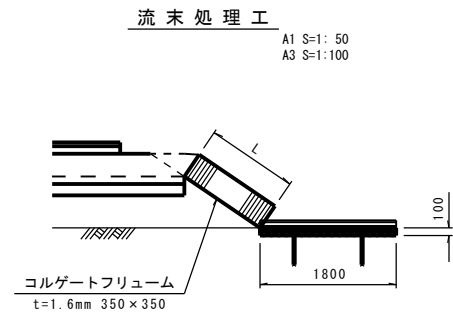
曲線半径 (m)	拡幅量 (m)	緩和 区間長 (m)	緩和区間内の拡幅量 (m) (BTC ~ BCC・ETC ~ ECC)									
			1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0
12以上13未満	2.25	10.00	0.23	0.45	0.68	0.90	1.13	1.35	1.58	1.80	2.03	2.25
13以上15未満	2.00	10.00	0.20	0.40	0.60	0.80	1.00	1.20	1.40	1.60	1.80	2.00
15以上16未満	1.75	10.00	0.18	0.35	0.53	0.70	0.88	1.05	1.23	1.40	1.58	1.75
16以上19未満	1.50	10.00	0.15	0.30	0.45	0.60	0.75	0.90	1.05	1.20	1.35	1.50
19以上25未満	1.25	10.00	0.13	0.25	0.38	0.50	0.63	0.75	0.88	1.00	1.13	1.25
25以上30未満	1.00	10.00	0.10	0.20	0.30	0.40	0.50	0.60	0.70	0.80	0.90	1.00
30以上35未満	0.75	10.00	0.08	0.15	0.23	0.30	0.38	0.45	0.53	0.60	0.68	0.75
35以上45未満	0.50	10.00	0.05	0.10	0.15	0.20	0.25	0.30	0.35	0.40	0.45	0.50
45以上50未満	0.25	10.00	0.03	0.05	0.08	0.10	0.13	0.15	0.18	0.20	0.23	0.25



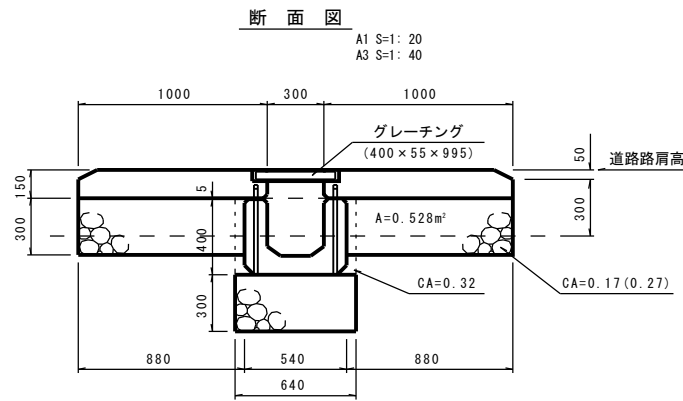
設計速度 (km/h)	曲線半径 (m)	緩和 区間長 (m)	片勾配 (%)	緩和区間内の内・外側横断勾配 (%)																			
				1.0m		2.0m		3.0m		4.0m		5.0m		6.0m		7.0m		8.0m		9.0m		10.0m	
				内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外
20	12以上50未満	10.00	6	-3.3	-2.1	-3.6	-1.2	-3.9	-0.3	-4.2	0.6	-4.5	1.5	-4.8	2.4	-5.1	3.3	-5.4	4.2	-5.7	5.1	-6.0	6.0

年度	令和6年度				
路線名	大津長節線				
事業名	開設事業				
林道区分	森林管理道	級別	第2種	設計	20 km/h
名称	土工等標準図	6	葉中	2	番
施工地	北海道中川郡豊頃町大津・長節				
施工主体	北海道十勝総合振興局				
図面番号	縮尺	図示			
会社名	株式会社ホクリンコンサルタント				
概要	曲線拡幅標準図・待避所・車廻し				

路面排水工 (Aタイプ)

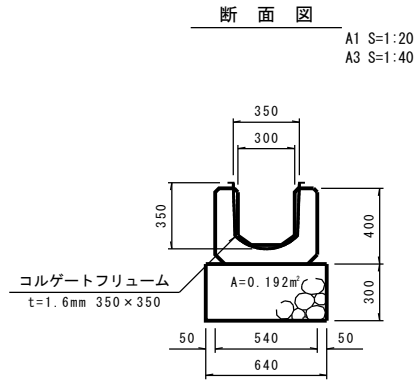


※ 流末処理が必要のない場合には、横断溝の端部を法面に合やすこと。

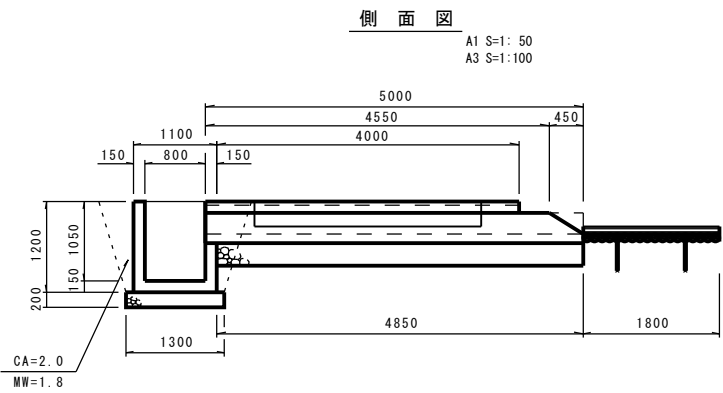


一箇所当材料表

造成幅員 (m)	集水樹 (個)	丸太洗掘防止 (個)	ゲートフリューム (m)	基礎砂利 (m ³)		掘削 (m ³) 機械	床均し (m ²)	
				集水樹 (t=0.20)	U・路 (t=0.30)			
4.00	種別	形状寸法	形状寸法	1.69	10.14	3.38	6.2	11.4
4.25	(1)型B下部	900×1800	板厚 1.6mm	1.69	10.58	3.51	6.2	11.8
4.50	形状寸法	×100	350×350	1.69	11.34	3.74	6.4	12.6
4.75	1100×1100			1.69	11.78	3.87	6.5	13.0
5.00	×1200			1.69	12.54	4.10	6.7	13.7
5.25				1.69	12.98	4.23	6.7	14.1
5.50				1.69	13.74	4.46	6.9	14.9
5.75				1.69	14.18	4.59	6.9	15.3
6.00				1.69	14.94	4.82	7.2	16.0
6.25				1.69	15.38	4.95	7.2	16.4
6.50				1.69	16.14	5.18	7.4	17.2
6.75				1.69	16.58	5.31	7.4	17.6

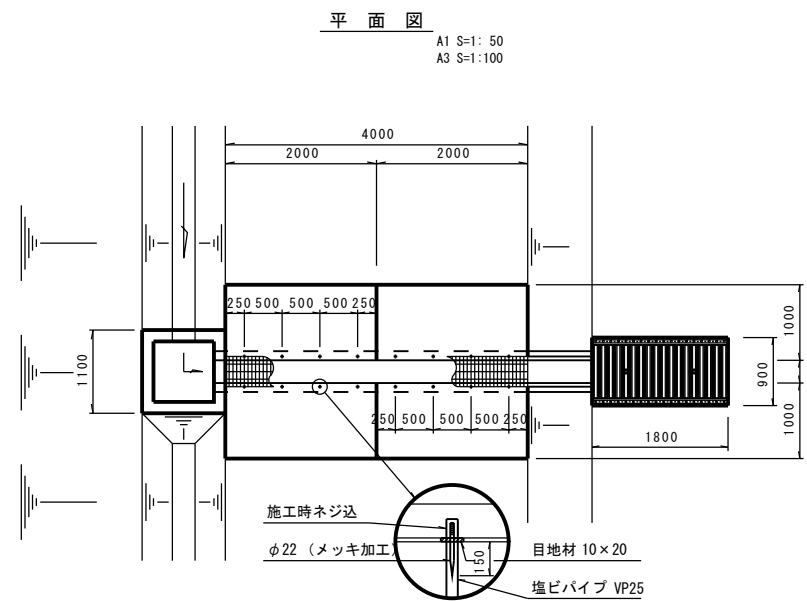


造成幅員4.00m

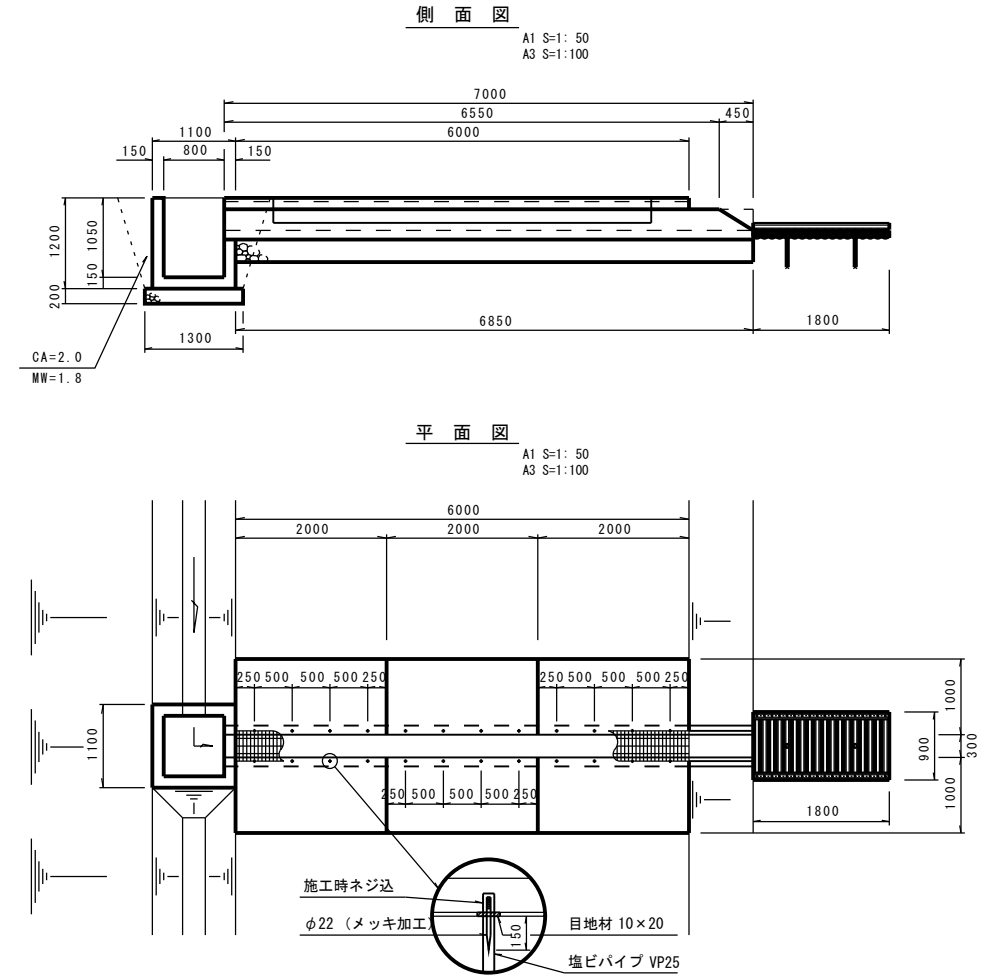


造成幅員 4.00m 材料表

名称	規格	数量	単位
横断溝	400×540×L	5.00	m
グレーチング	400×995×55	4	枚
踏掛版 (アングル付)	2000×1000×150	4	枚
目地材	10×20	16	枚
ボルト	φ22	16	本
塩ビパイプ	VP25	16	本



造成幅員6.00m



造成幅員 6.00m 材料表

名称	規格	数量	単位
横断溝	400×540×L	7.00	m
グレーチング	400×995×55	6	枚
踏掛版 (アングル付)	2000×1000×150	6	枚
目地材	10×20	24	枚
ボルト	φ22	24	本
塩ビパイプ	VP25	24	本

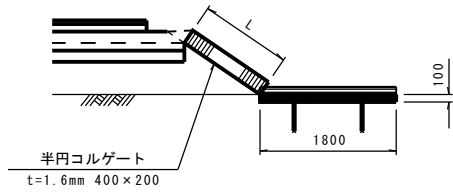
年度	令和6年度				
路線名	大津長節線				
事業名	開設事業				
林道区分	森林管理道	級別	第2種	設計速度	20 km/h
名称	土工等標準図 6 葉中 3 番				
施工地	北海道中川郡豊頃町大津・長節				
施工主体	北海道十勝総合振興局				
図面番号	縮尺	図示			
会社名	株式会社ホククリンコンサルタント				
概要	路面排水 (Aタイプ) W=4.00, 6.00 t=0.35				

路面排水工 (Bタイプ)

造成幅員4.00m

流末処理工

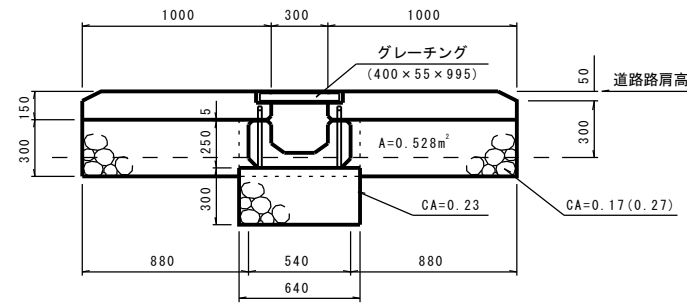
A1 S=1: 50
A3 S=1: 100



※ 流末処理が必要のない場合には、横断溝の端部を法面に合わせること。

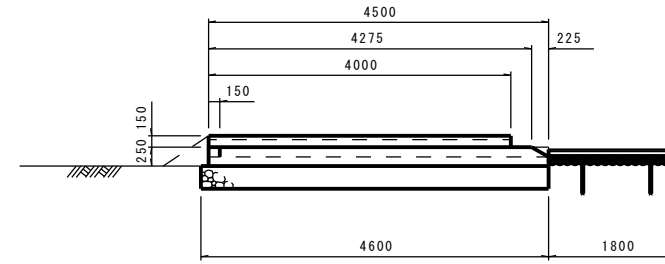
断面図

A1 S=1: 20
A3 S=1: 40



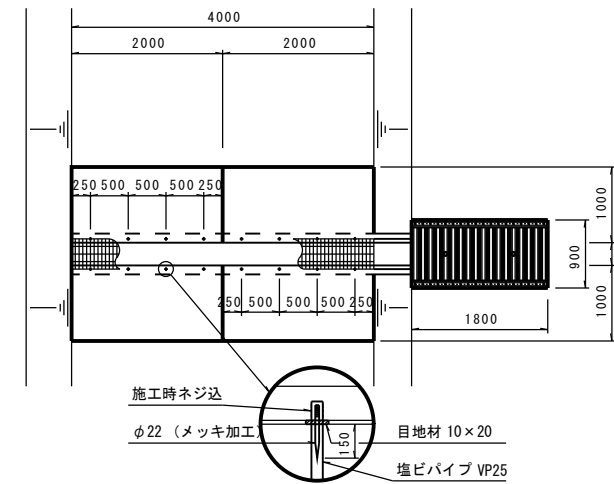
側面図

A1 S=1: 50
A3 S=1: 100



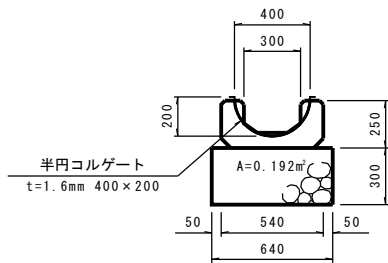
平面図

A1 S=1: 50
A3 S=1: 100



断面図

A1 S=1: 20
A3 S=1: 40



一箇所当材料表

造成幅員 (m)	丸太洗掘防止 (個)	半円コルゲート (m)	基礎砂利 (m ²) (t=0.30)	基礎砂利 (m ²)	掘削 (m ²) 機械	床均し (m ²)
4.00	形状寸法	形状寸法	9.98	3.00	1.7	9.6
4.25	900×1800×100	板厚 1.6mm 400×200	10.74	3.22	1.9	10.3
4.50			11.18	3.36	1.9	10.7
4.75			11.94	3.58	2.1	11.5
5.00			12.38	3.72	2.1	11.91
5.25			13.14	3.94	2.3	12.6
5.50			13.58	4.08	2.3	13.0
5.75			14.34	4.30	2.5	13.8
6.00			14.78	4.44	2.5	14.2
6.25			15.54	4.66	2.7	14.9
6.50			15.98	4.80	2.7	15.3
6.75	16.74	5.02	2.9	16.1		

造成幅員 4.00m 材料表

名称	規格	数量	単位
横断溝	250×540×L	4.50	m
グレーチング	400×995×55	4	枚
踏掛版 (アングル付)	2000×1000×150	4	枚
目地材	10×20	16	枚
ボルト	φ22	16	本
塩ビパイプ	VP25	16	本

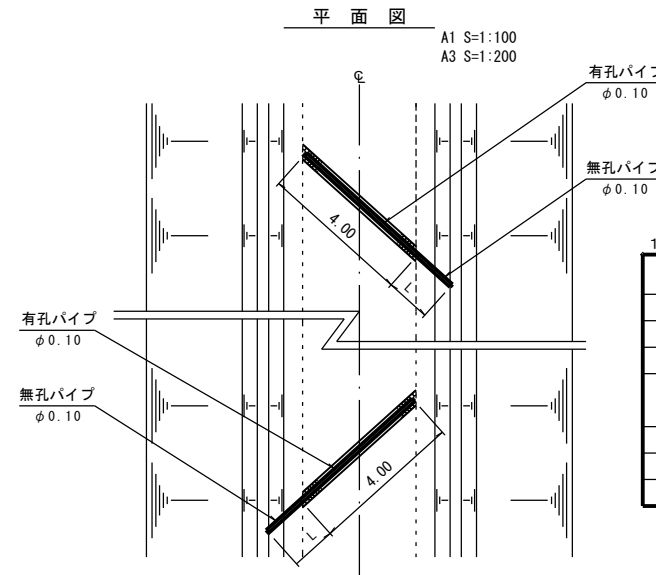
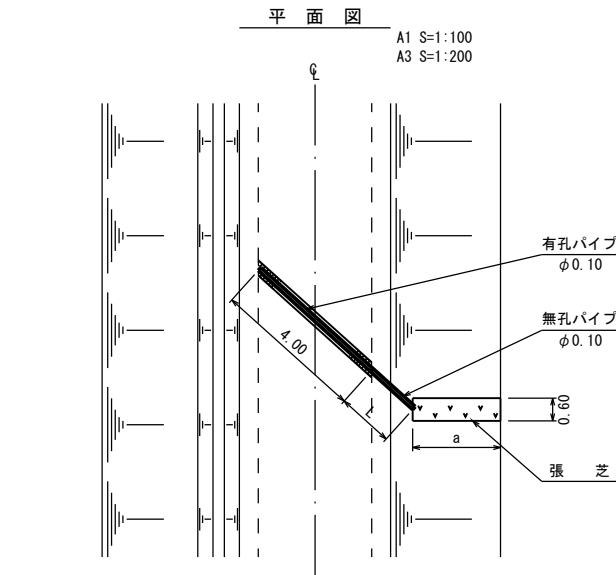
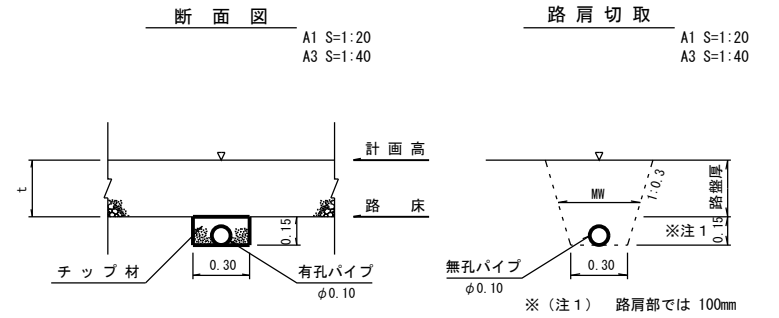
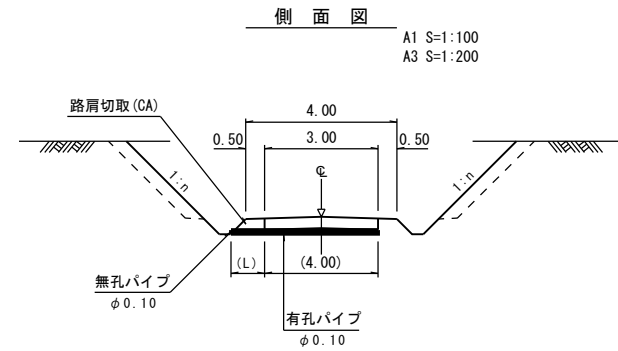
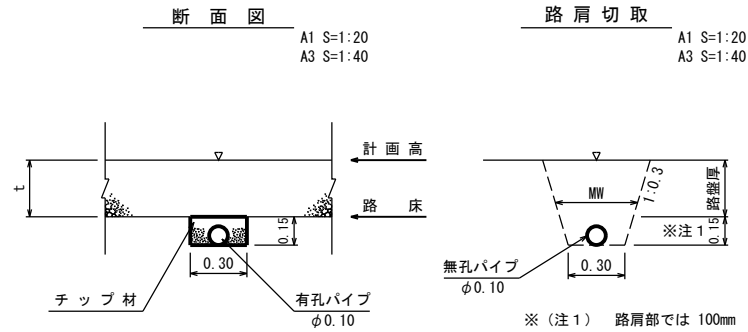
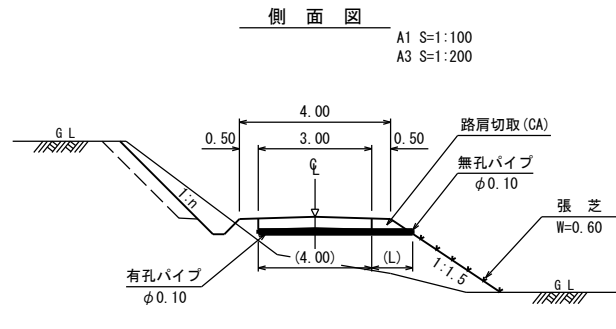
年度	令和6年度				
路線名	大津長節線				
事業名	開設事業				
林道区分	森林管理道	級別	第2種	設計速度	20 km/h
名称	土工等標準図 6 葉中 4 番				
施工地	北海道中川郡豊頃町大津・長節				
施工主体	北海道十勝総合振興局				
図面番号	縮尺	図示			
会社名	株式会社ホクリンコンサルタント				
概要	路面排水 (Bタイプ) W=4.00 t=0.35				

路床排水標準図

W=4.00 t=0.05~0.40 チップ材使用

普通路肩

切土地山型



1箇所当り材料表

名称	種別	計算式	路盤厚 (t)								単位
			0.05	0.15	0.20	0.25	0.30	0.35	0.40		
有孔パイプ	φ 0.10		4.00								m
無孔パイプ	φ 0.10	※法覆基材施工の箇所は () の値を使用	(1.3)	(1.5)	(1.6)	(1.7)	(1.8)	(1.9)	(2.0)	m	
チップ材		$(0.15 \times 0.30 - 0.10^2) \times 0.785 \times 4.00$	1.0	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	m ³	
床堀	機械	$CA \times MW$	0.04	0.09	0.11	0.15	0.18	0.22	0.27	m ³	
	人力	$0.15 \times 0.30 \times 4.00$	0.18								m ³
埋戻し		$CA \times MW - 0.10^2 \times 0.785 \times L$	0.03	0.08	0.10	0.14	0.17	0.21	0.25	m ³	
		※法覆基材施工の箇所は () の値を使用	(0.39)	(0.45)	(0.48)	(0.51)	(0.54)	(0.57)	(0.60)	m ³	
床均し		$(L) \times 0.30$	0.30	0.36	0.39	0.42	0.45	0.48	0.51	m ²	
床堀残土		$0.15 \times 0.30 \times 4.00 + 0.10^2 \times 0.785 \times L$	0.19	0.19	0.19	0.19	0.19	0.19	0.19	m ³	
張芝	生芝	$0.60 \times a$									m ²

※ 特殊路盤区間は、チップ材をφ0~80mm切込砂利にする。

1箇所当り材料表

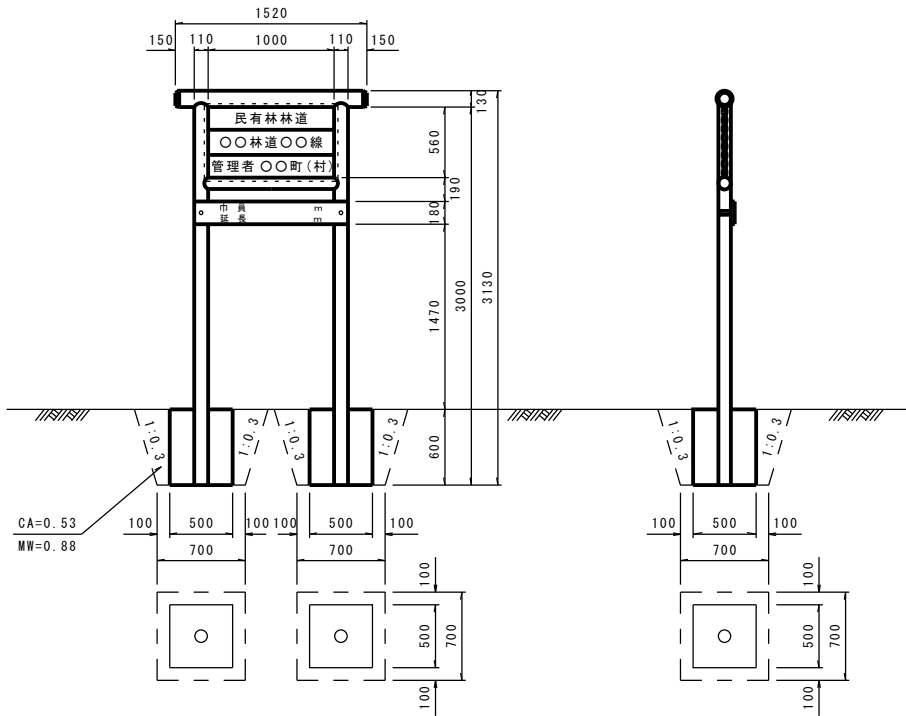
名称	種別	計算式	路盤厚 (t)								単位
			0.05	0.15	0.20	0.25	0.30	0.35	0.40		
有孔パイプ	φ 0.10		4.00								m
無孔パイプ	φ 0.10		0.7	1.0	1.1	1.1	1.2	1.3	1.3	m	
チップ材		$(0.15 \times 0.30 - 0.10^2) \times 0.785 \times 4.00$	0.15								m ³
床堀	機械	$CA \times MW$	0.04	0.08	0.10	0.13	0.16	0.19	0.23	m ³	
	人力	$0.15 \times 0.30 \times 4.00$	0.18								m ³
埋戻し		$CA \times MW - 0.10^2 \times 0.785 \times L$	0.03	0.07	0.09	0.12	0.15	0.18	0.21	m ³	
床均し		$L \times 0.30$	0.21	0.3	0.33	0.33	0.36	0.39	0.39	m ²	
床堀残土		$0.15 \times 0.30 \times 4.00 + 0.10^2 \times 0.785 \times L$	0.19	0.19	0.19	0.19	0.19	0.19	0.19	m ³	

年度	令和6年度				
路線名	大津長節線				
事業名	開設事業				
林道区分	森林管理道	級別	第2種	設計	20 km/h
		区分	2級	速度	
名称	土工等標準図 6 葉中 5 番				
施工地	北海道中川郡豊頃町大津・長節				
施工主体	北海道十勝総合振興局				
図面番号	縮尺	図示			
会社名	株式会社ホクリンコンサルタント				
概要	路床排水標準図				

標識工標準図

林道標識

木製(3)型 (文字彫込) A1 S=1:30
A3 S=1:60

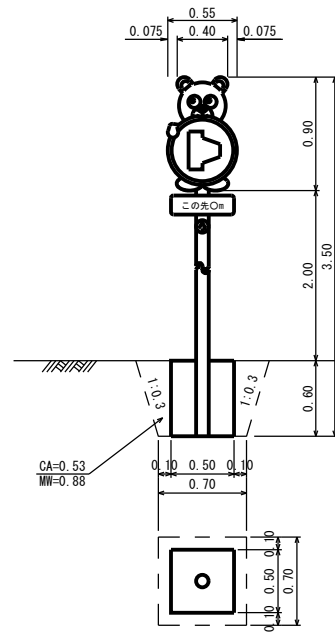


一箇所当材料表 (林道標識)

名称	規格	計算式	数量	単位
林道標識	木製(3)型		1	基
基礎ブロック	既製品	(0.50×0.50×0.60)	2	基
床掘機	機械	0.53×0.88×2	0.93	m ³
埋戻土		0.93-(0.5×0.5×0.6×2)	0.63	m ³
床均し		0.50×0.50×2	0.50	m ²

案内標識

くま(アルミ製) A1 S=1:30
A3 S=1:60

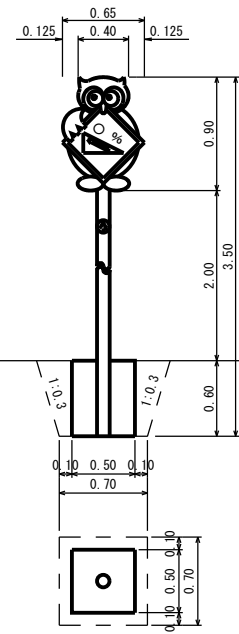


一箇所当材料表 (案内・警戒標識)

名称	規格	計算式	数量	単位
案内標識	116-3	案内標識・補助案内・支柱	1	基
警戒標識		警戒標識・補助案内・支柱	1	基
基礎ブロック	既製品	(0.50×0.50×0.60)	1	基
床掘機	機械	0.53×0.88	0.47	m ³
埋戻土		0.47-(0.5×0.5×0.6)	0.32	m ³
床均し		0.50×0.50	0.25	m ²

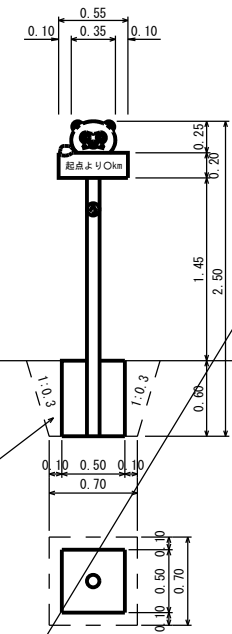
警戒標識

ふくろう(アルミ製) A1 S=1:30
A3 S=1:60



キロ程標識

たぬき(アルミ製) A1 S=1:30
A3 S=1:60

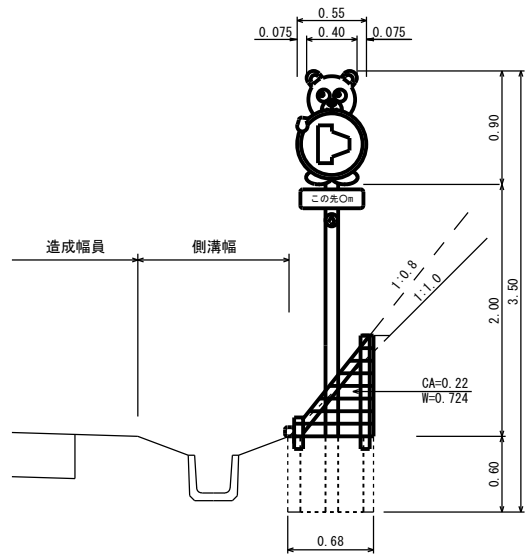


一箇所当材料表 (キロ程標識)

名称	規格	計算式	数量	単位
キロ程標識		キロ程標識・補助案内・支柱	1	基
基礎ブロック	既製品	0.50×0.50×0.60)	1	基
床掘機	機械	0.53×0.88	0.47	m ³
埋戻土		0.47-(0.5×0.5×0.6)	0.32	m ³
床均し		0.50×0.50	0.25	m ²

標識囲い

A1 S=1:30
A3 S=1:60

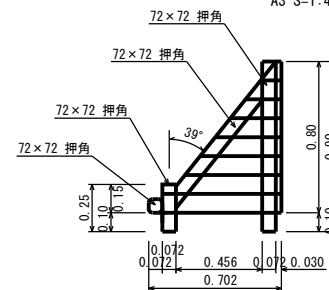


切土タイプ 一箇所当材料表 (案内・警戒・キロ程標識)

名称	規格	計算式	数量	単位
案内標識	116-3	案内標識・補助案内・支柱	1	基
警戒標識		警戒標識・補助案内・支柱	1	基
キロ程標識		キロ程標識・支柱	1	基
基礎ブロック	既製品	(0.50×0.50×0.60)	1	基
切取	機械	0.22×0.724	0.16	m ²

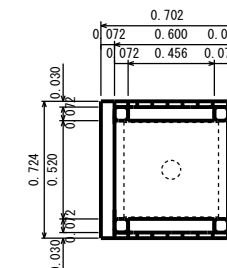
側面

A1 S=1:20
A3 S=1:40



平面

A1 S=1:20
A3 S=1:40



一箇所当材料表

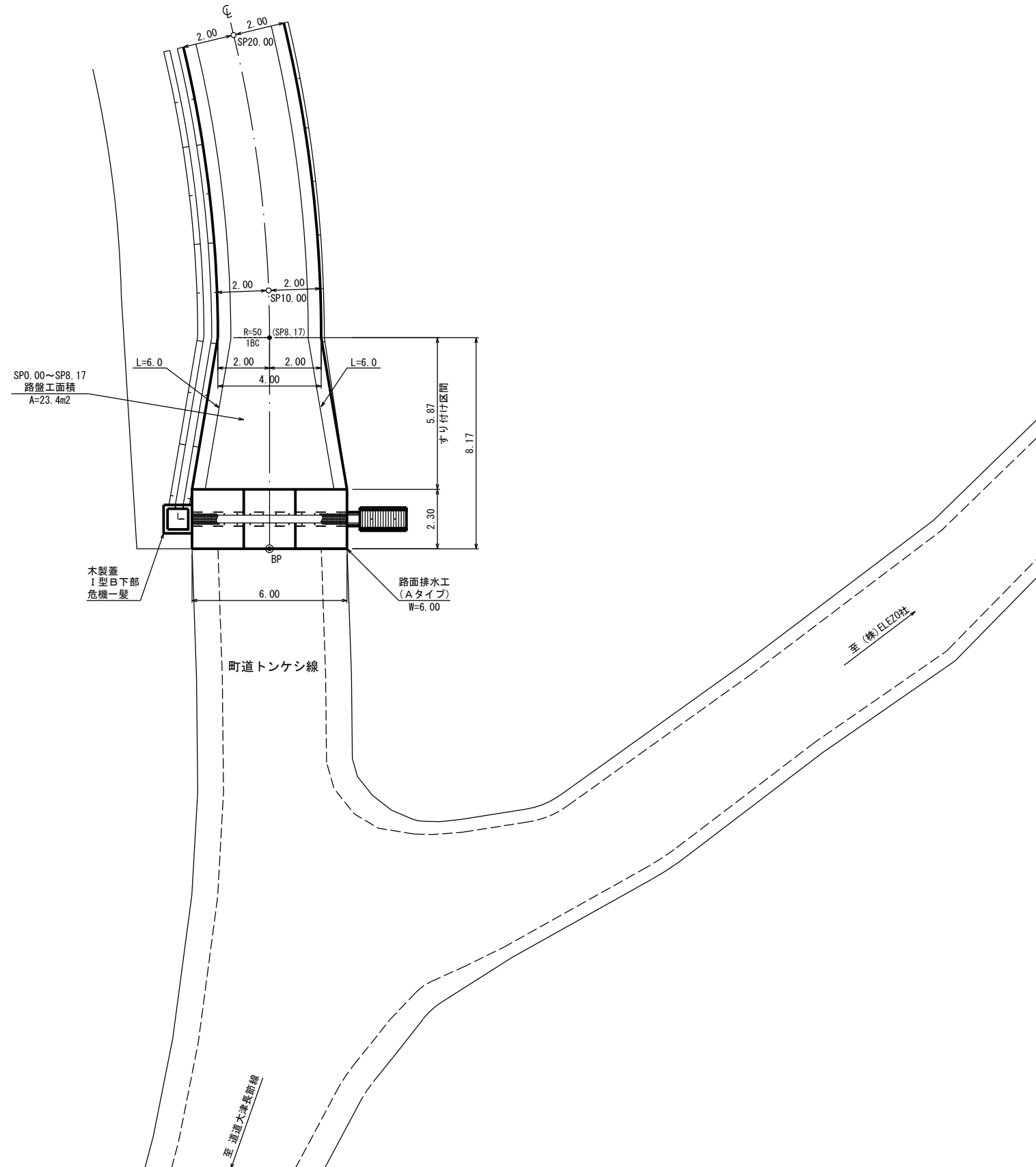
名称	規格	計算式	数量	単位
縦木	唐松(押角)	0.300×0.072×0.072×2	2本	0.0031 m ²
		0.900×0.072×0.072×2	2本	0.0093 m ²
		0.724×0.072×0.072×1	1本	0.0038 m ²
		0.730×0.072×0.072×2	2本	0.0076 m ²
青板		0.724×0.10×0.03×8	8本	0.0174 m ²
		0.600×0.10×0.03×4	4本	0.0072 m ²
		0.486×0.10×0.03×2	2本	0.0029 m ²
		0.405×0.10×0.03×2	2本	0.0024 m ²
側板		0.324×0.10×0.03×2	2本	0.0019 m ²
		0.243×0.10×0.03×2	2本	0.0015 m ²
		0.162×0.10×0.03×2	2本	0.0010 m ²
		0.081×0.10×0.03×2	2本	0.0005 m ²
釘	L65		84	本
ローテスクリュー	ユニクロメッキ	φ8×120	4	本
ローテスクリュー	ユニクロメッキ	φ8×90	2	本

年度	令和6年度				
路線名	大津長節線				
事業名	開設事業				
林道区分	森林管理道	級別区分	第2種2級	設計速度	20 km/h
名称	土工等標準図 6 葉中 6 番				
施工地	北海道中川郡豊頃町大津・長節				
施工主体	北海道十勝総合振興局				
図面番号	縮尺	図示			
会社名	株式会社ホクリンコンサルタント				
概要	林道標識・案内標識・警戒標識 キロ程標識・標識囲い・標識工設置				

起点取付詳細図
SP0.00 ~ SP8.17

平面図

A1 S=1:100
A3 S=1:200



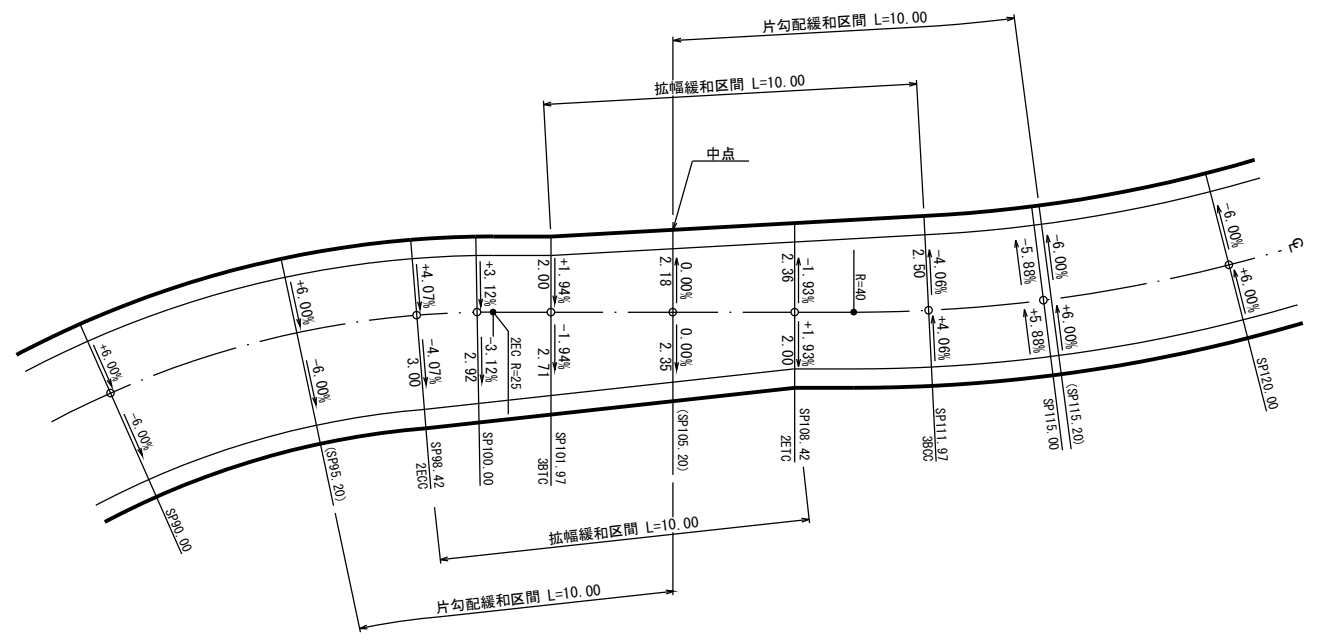
年度	令和6年度			
路線名	大津長節線			
事業名	開設事業			
林道区分	森林管理道	級別区分	第2種 2級	設計速度 20 km/h
名称	起点取付詳細図 1 葉中 1 番			
施工地	北海道中川郡豊頃町大津・長節			
施工主体	北海道十勝総合振興局			
図面番号	縮尺	A1 1:100 A3 1:200		
会社名	株式会社ホクリンコンサルタント			
概要	SP0.00 ~ SP8.17			

曲線部拡幅片勾配詳細図

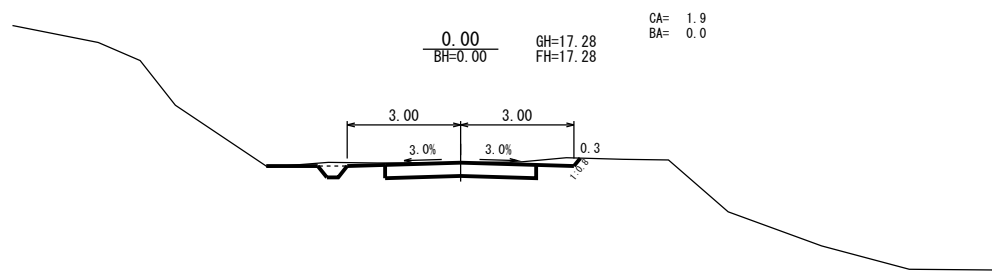
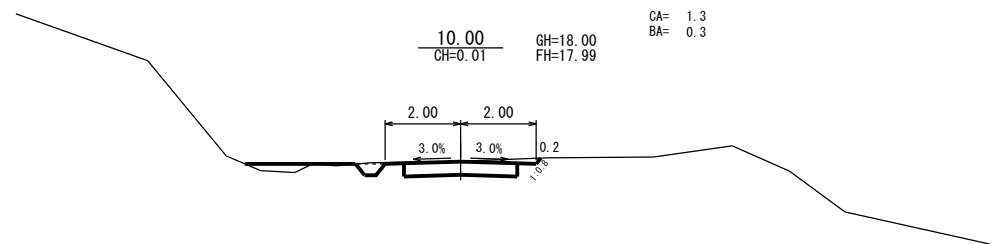
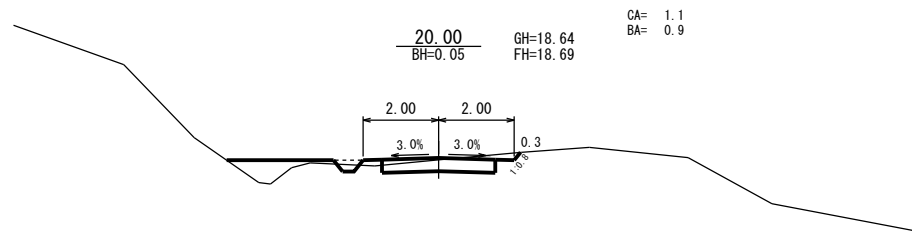
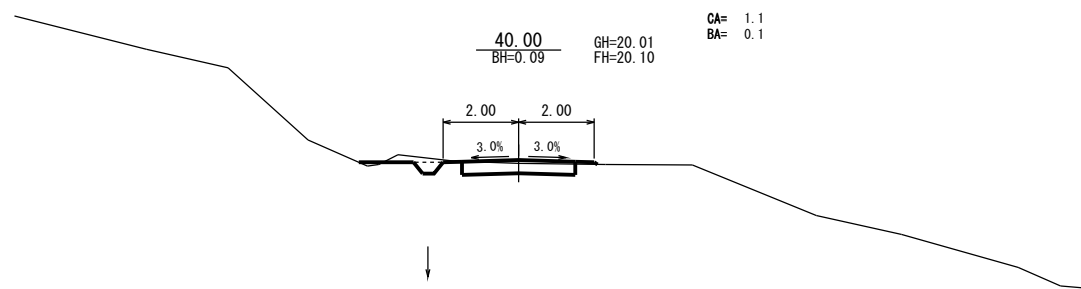
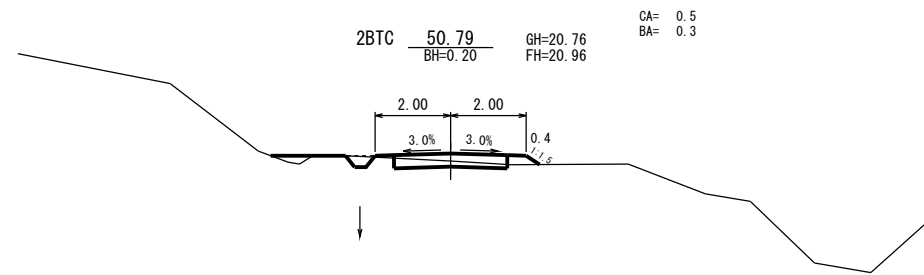
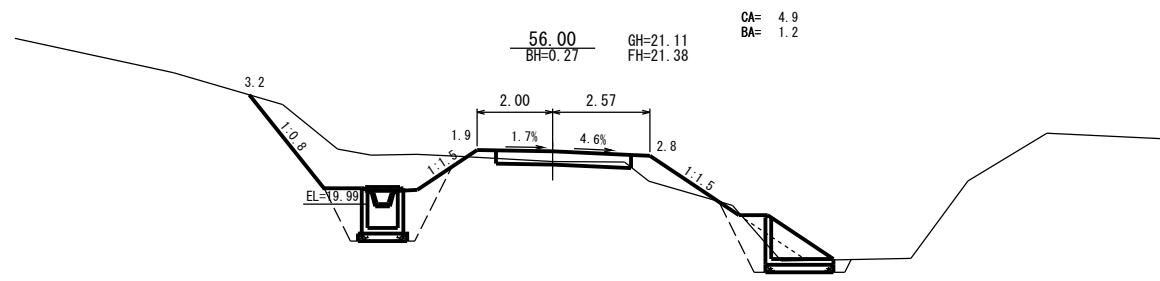
SP98.42 (2ECC) ~ SP111.97 (3BCC)
(SP95.20) ~ (SP115.20)

平面図

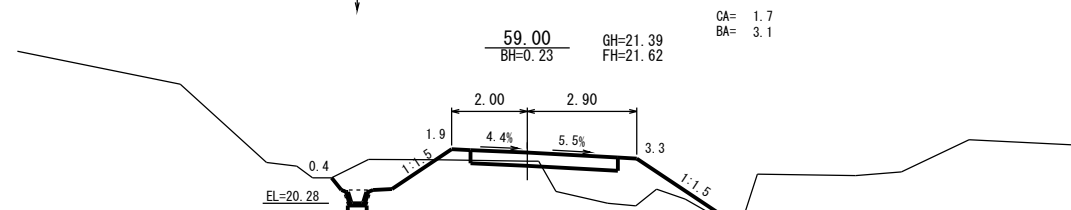
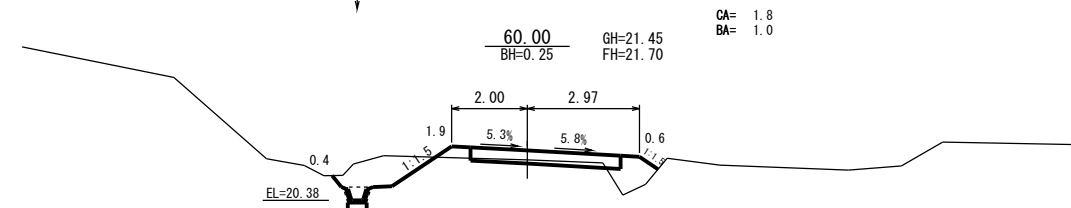
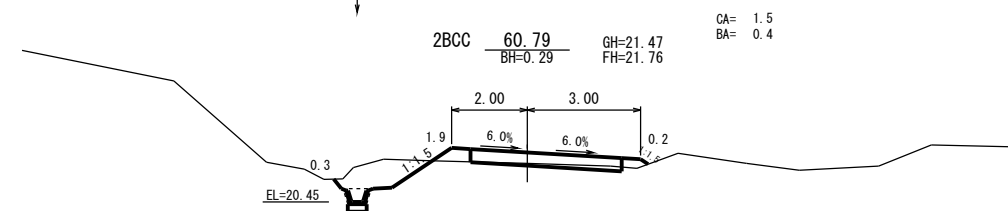
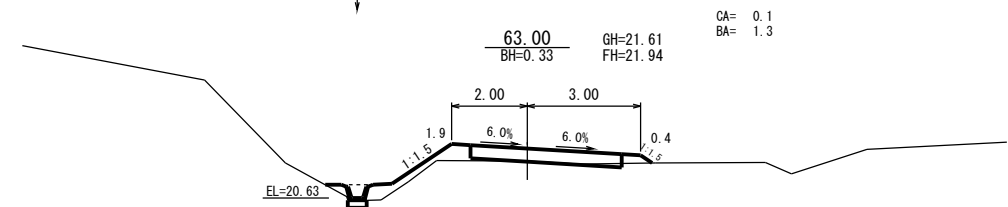
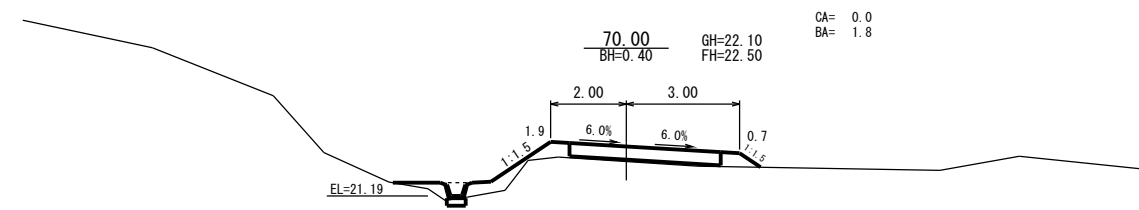
A1 S=1:100
A3 S=1:200



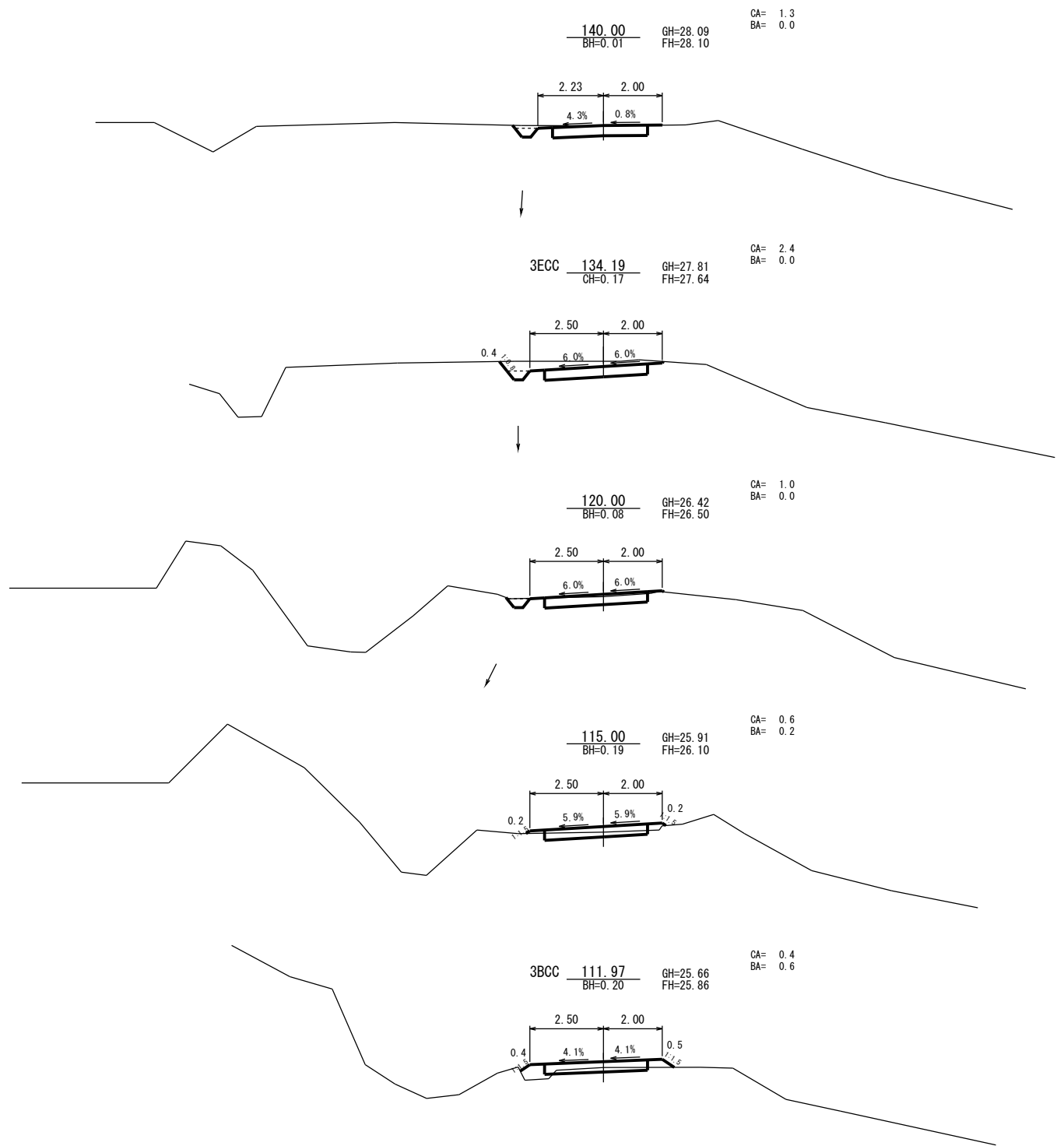
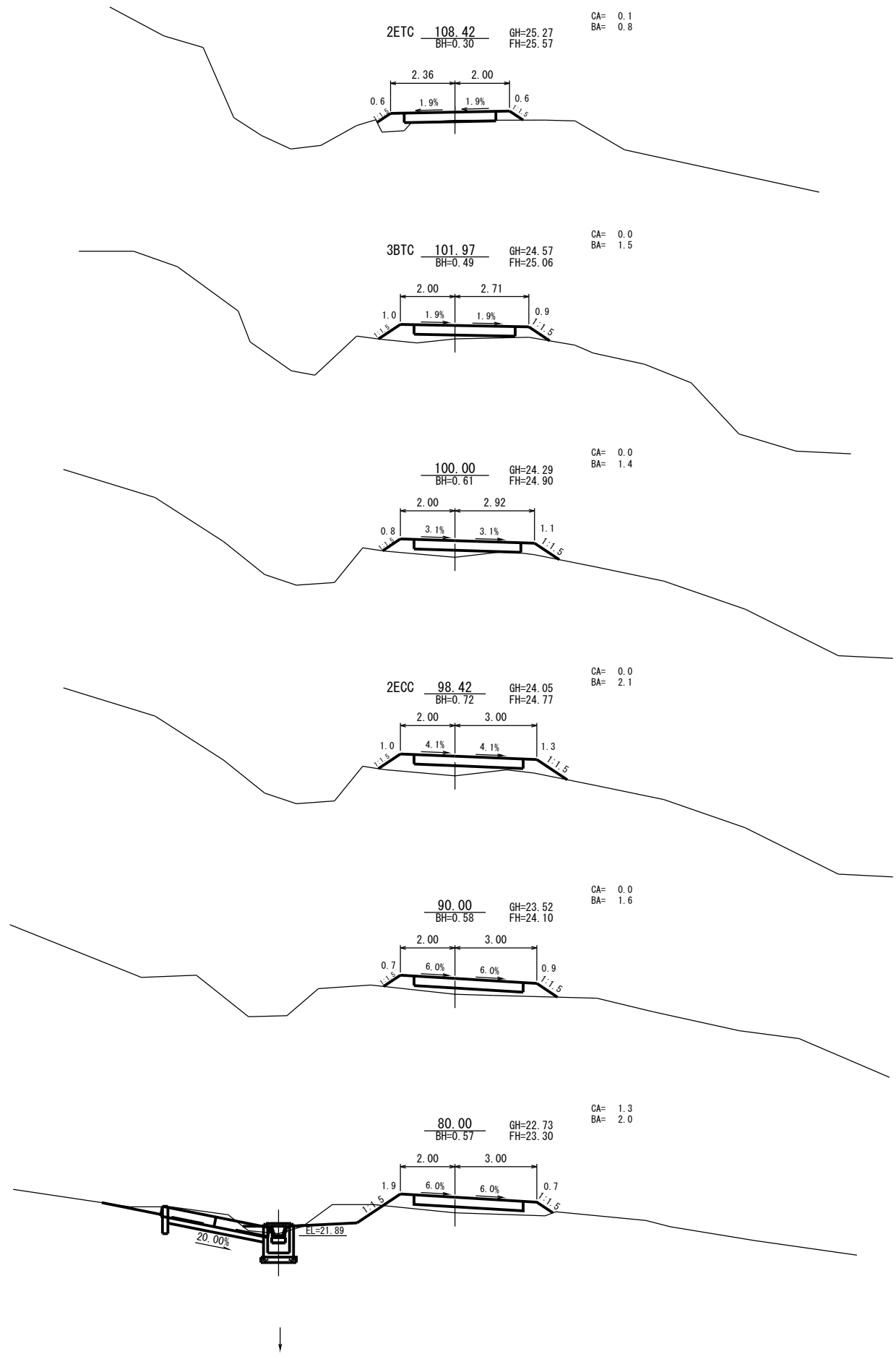
年度	令和6年度				
路線名	大津長節線				
事業名	開設事業				
林道区分	森林管理道	級別区分	第2種2級	設計速度	20 km/h
名称	曲線部拡幅片勾配詳細図 1 葉中 1 番				
施工地	北海道中川郡豊頃町大津・長節				
施工主体	北海道十勝総合振興局				
図面番号	縮尺	A1 1:100 A3 1:200			
会社名	株式会社ホクリンコンサルタント				
概要	SP98.42(2ECC) ~ SP111.97(3BCC)				



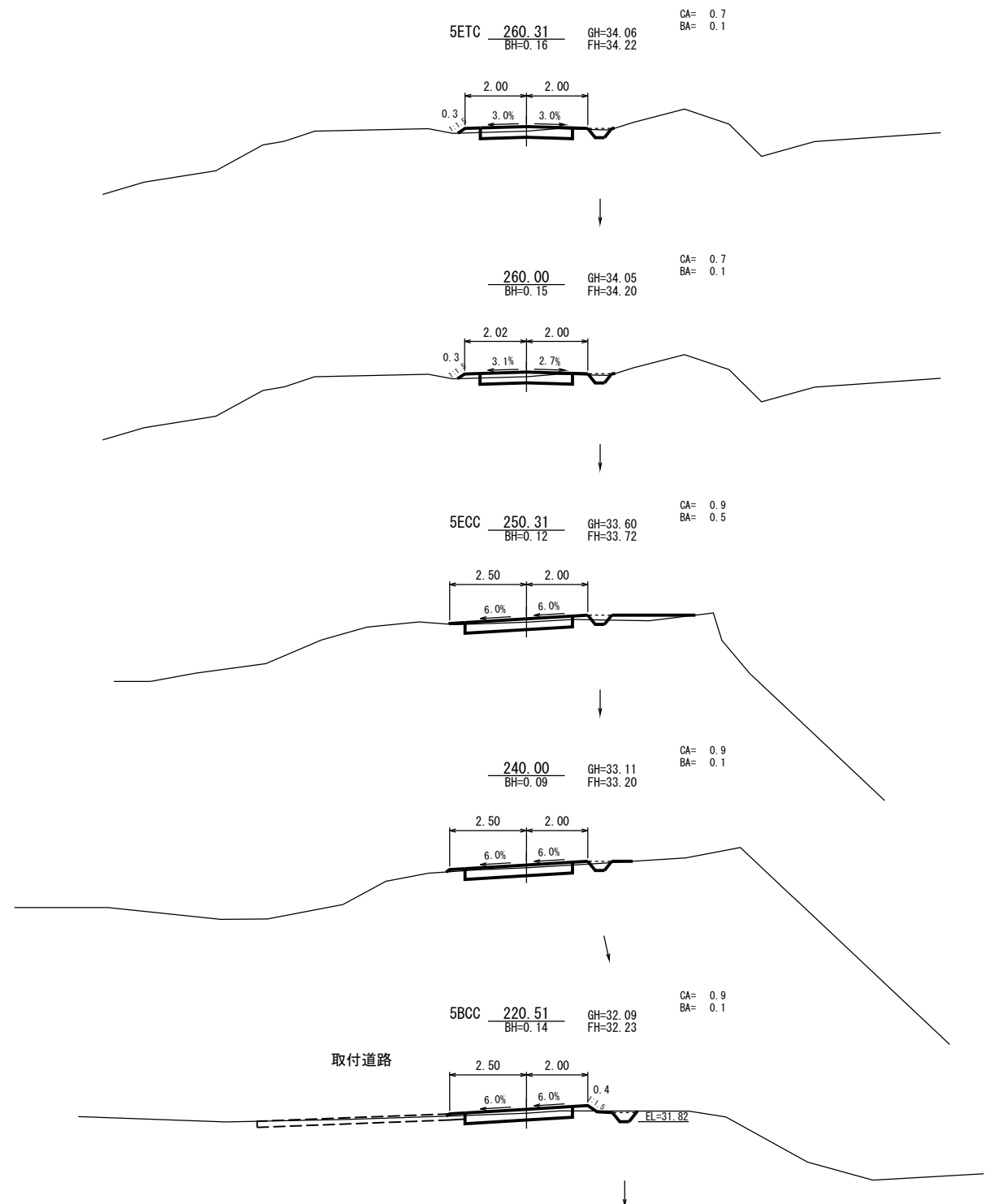
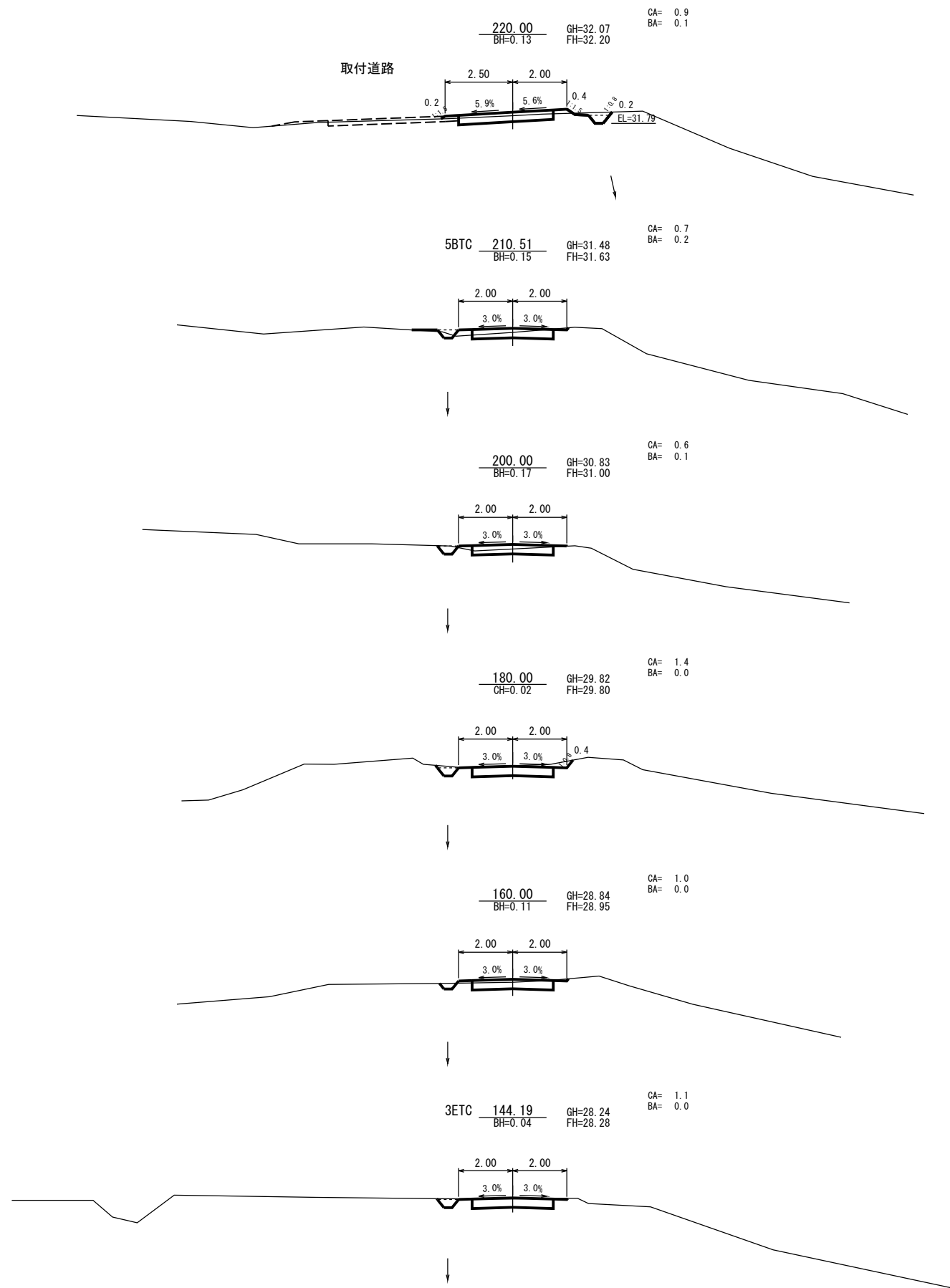
令和6年度
森林管理道大津長節線開設工事起点



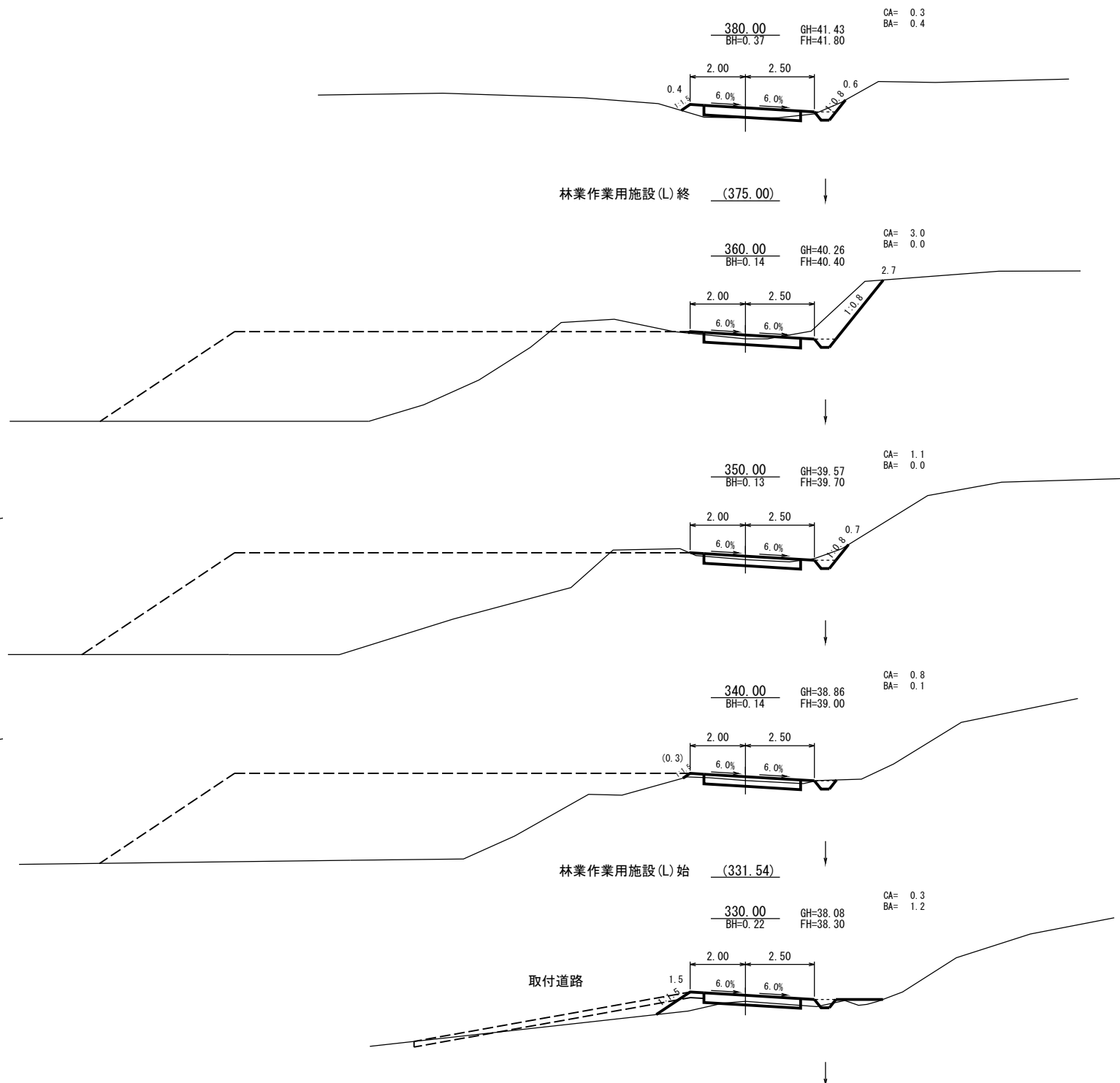
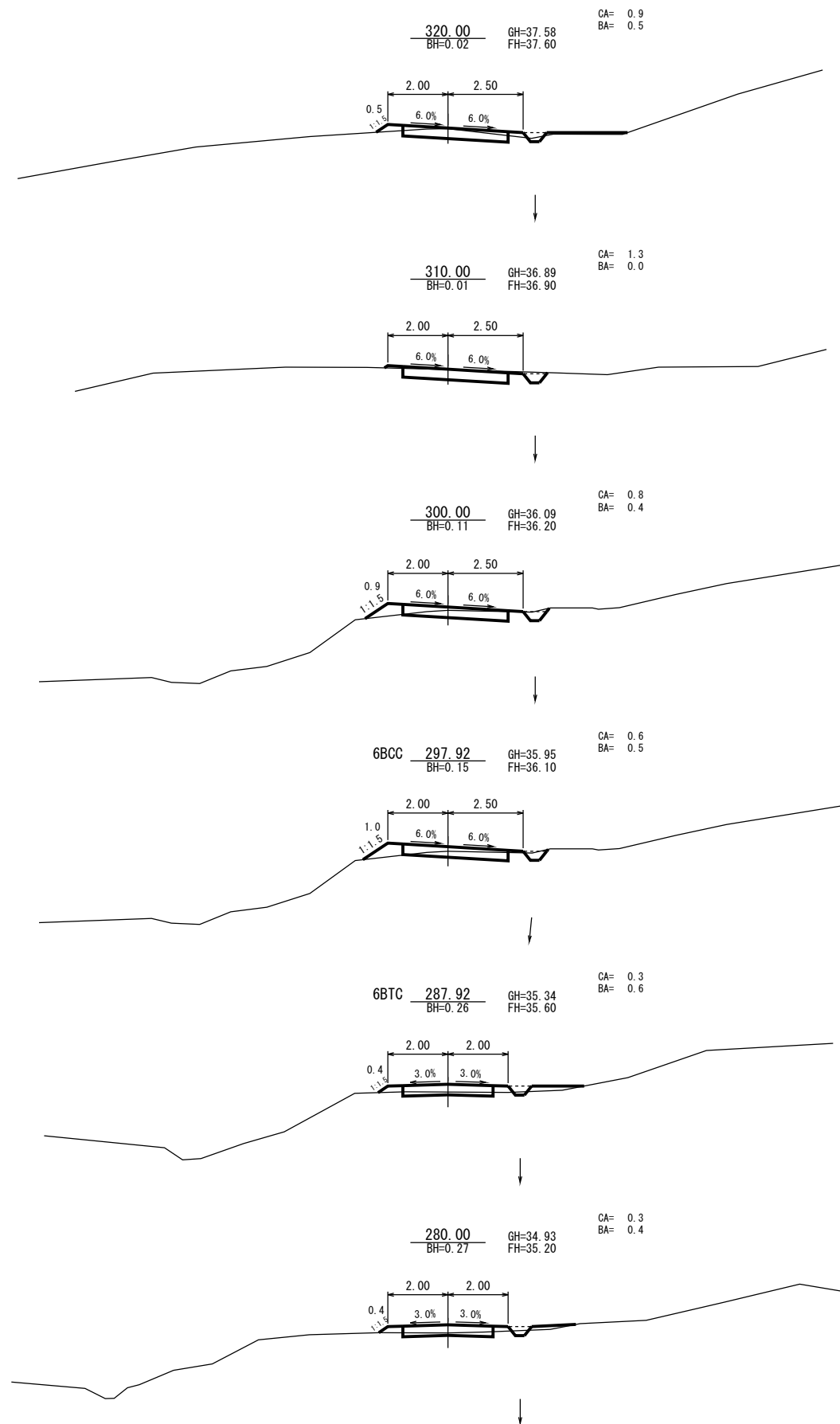
年度	令和6年度				
路線名	大津長節線				
事業名	開設事業				
林道区分	森林管理道	級別区分	第2種2級	設計速度	20 km/h
名称	横断面図 5 葉中 1 番				
施工地	北海道中川郡豊頃町大津・長節				
施工主体	北海道十勝総合振興局				
図面番号	縮尺	A1 1:100 A3 1:200			
会社名	株式会社ホクリンコンサルタン				
概要	SP0.00 ~ SP70.00				



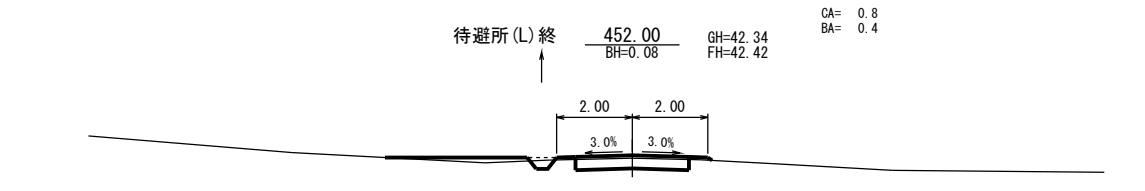
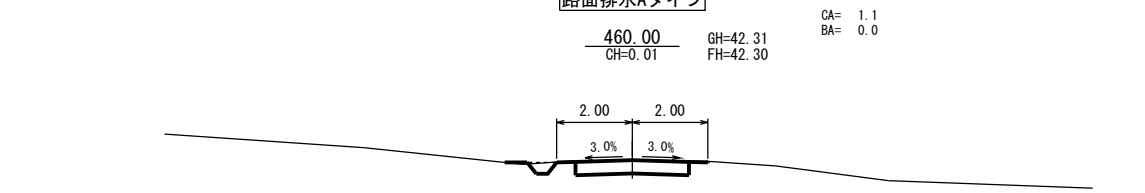
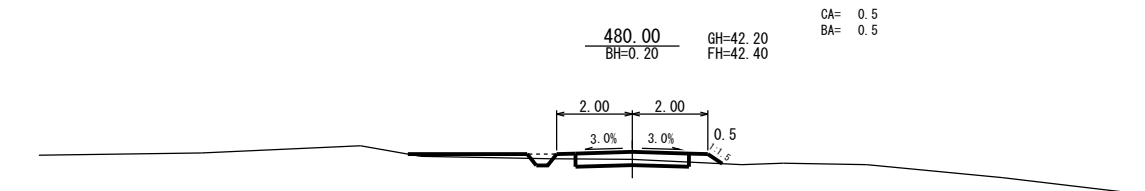
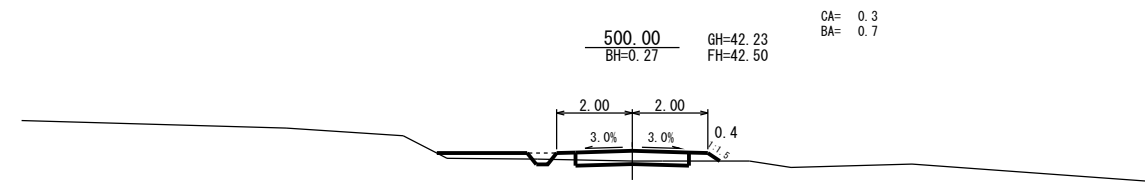
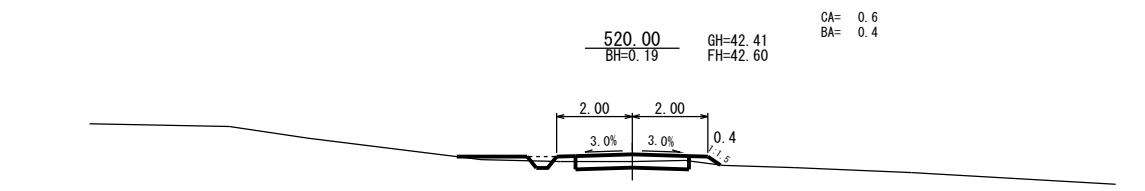
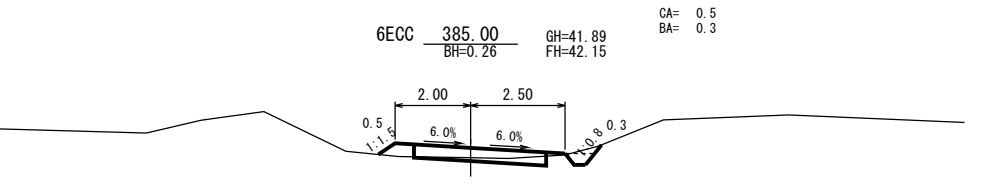
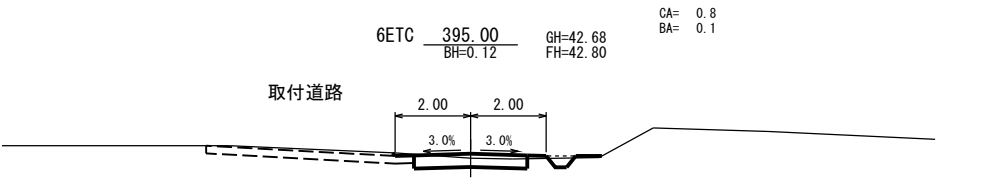
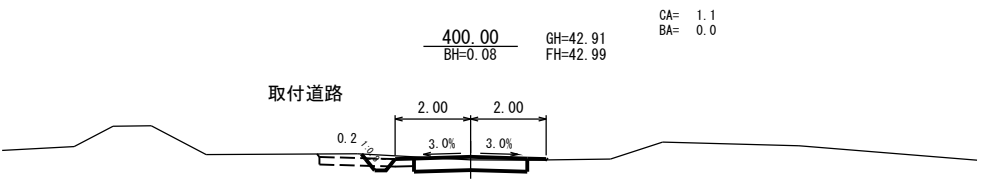
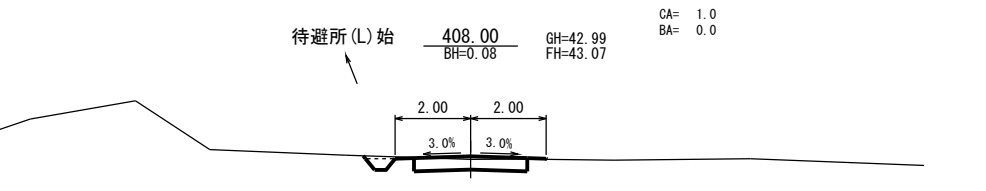
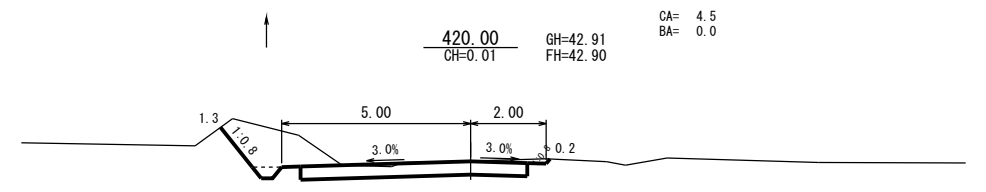
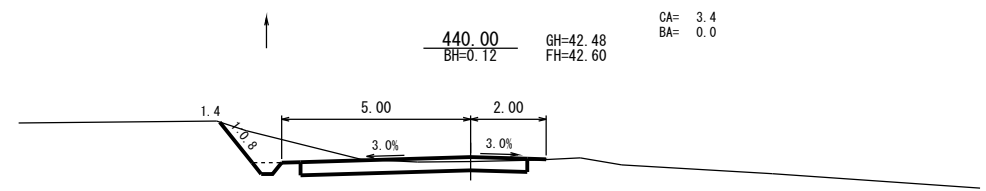
年度	令和 6 年度				
路線名	大津長節線				
事業名	開設事業				
林道区分	森林管理道	級別 区分	第2種 2級	設計 速度	20 km/h
名称	横断面図 5 葉中 2 番				
施工地	北海道中川郡豊頃町大津・長節				
施工主体	北海道十勝総合振興局				
図面番号	縮尺	A1 1:100 A3 1:200			
会社名	株式会社ホクリンコンサルタント				
概要	SP80.00 ~ SP140.00				



年度	令和 6 年度				
路線名	大津長節線				
事業名	開設事業				
林道区分	森林管理道	級別区分	第2種 2級	設計速度	20 km/h
名称	横断面図 5 葉中 3 番				
施工地	北海道中川郡豊頃町大津・長節				
施工主体	北海道十勝総合振興局				
図面番号	縮尺	A1 1:100 A3 1:200			
会社名	株式会社ホクリンコンサルタント				
概要	SP144.19 ~ SP260.31				



年度	令和6年度				
路線名	大津長節線				
事業名	開設事業				
林道区分	森林管理道	級別区分	第2種2級	設計速度	20 km/h
名称	横断面図 5 葉中 4 番				
施工地	北海道中川郡豊頃町大津・長節				
施工主体	北海道十勝総合振興局				
図面番号	縮尺	A1 1:100 A3 1:200			
会社名	株式会社ホクリンコンサルtant				
概要	SP280.00 ~ SP380.00				



令和6年度
森林管理道大津長節線開設工事終点

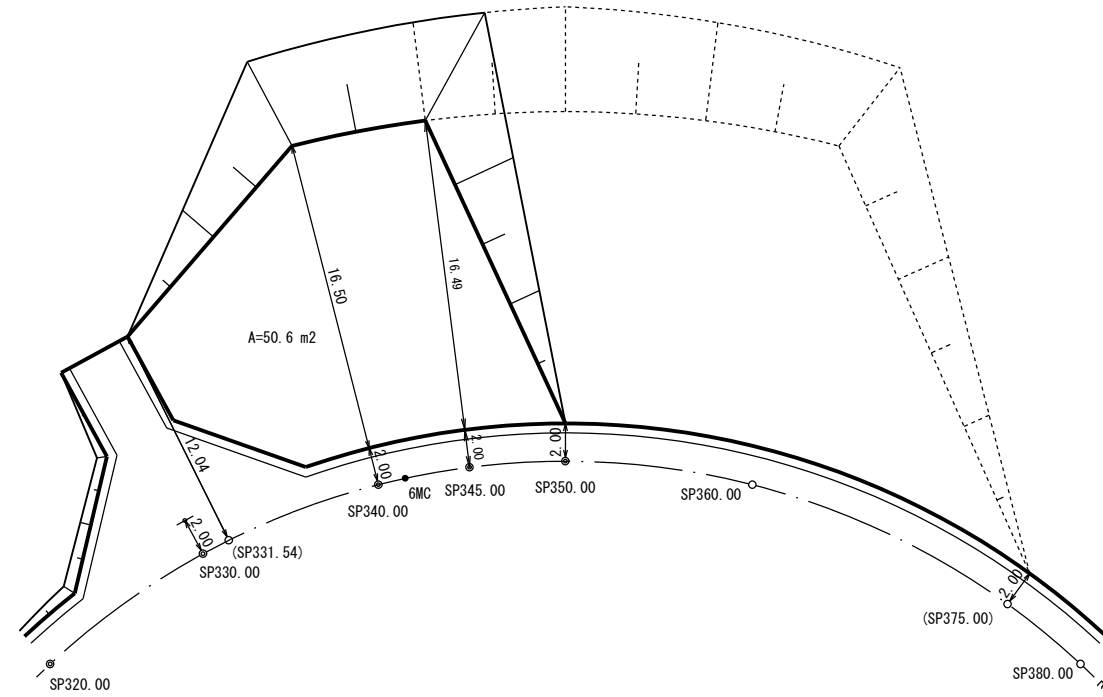
路面排水Aタイプ

年度	令和6年度				
路線名	大津長節線				
事業名	開設事業				
林道区分	森林管理道	級別区分	第2種2級	設計速度	20 km/h
名称	横断面図 5 葉中 5 番				
施工地	北海道中川郡豊頃町大津・長節				
施工主体	北海道十勝総合振興局				
図面番号	縮尺	A1 1:100 A3 1:200			
会社名	株式会社ホクリンコンサルtant				
概要	SP385.00 ~ SP520.00				

第 1 号 林業作業用施設
SP331.54 ~ SP350.00 (L)

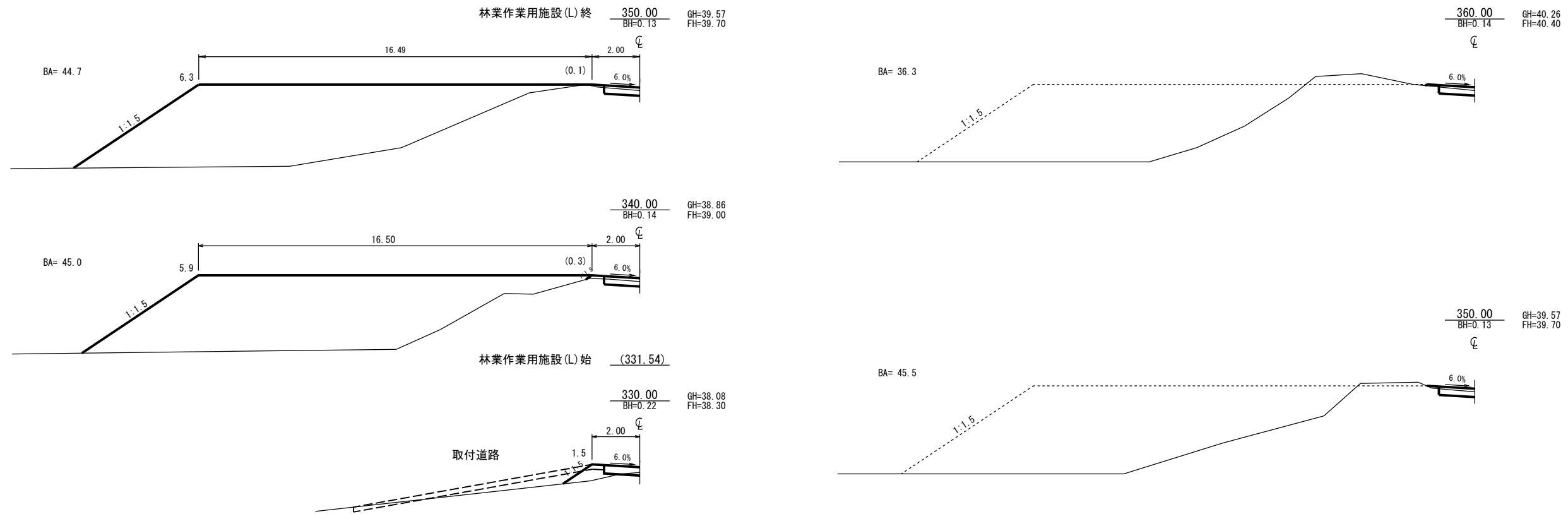
平面図

A1 S=1:200
A3 S=1:400



横断面図

A1 S=1:100
A3 S=1:200

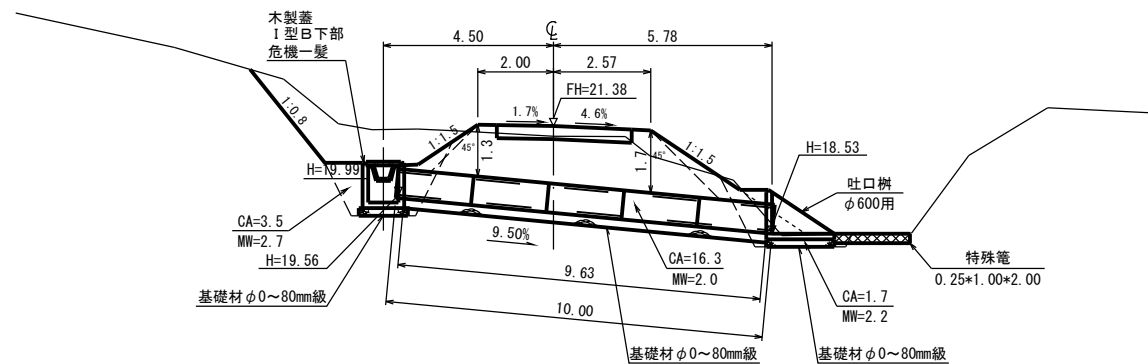


年度	令和 6 年度				
路線名	大津長節線				
事業名	開設事業				
林道区分	森林管理道	級別	第2種	設計	20 km/h
		区分	2級	速度	
名称	林業作業用施設図 1 葉中 1 番				
施工地	北海道中川郡豊頃町大津・長節				
施工主体	北海道十勝総合振興局				
図面番号	縮尺	図示			
会社名	株式会社ホクリンコンサルタント				
概要	SP331.54 ~ SP350.00 (L)				

第 1 号溝渠工 RCT-2 φ0.60 L=2.00~5本
 SP56.00 突出型 粘性(基礎ベース無し) L=10.00

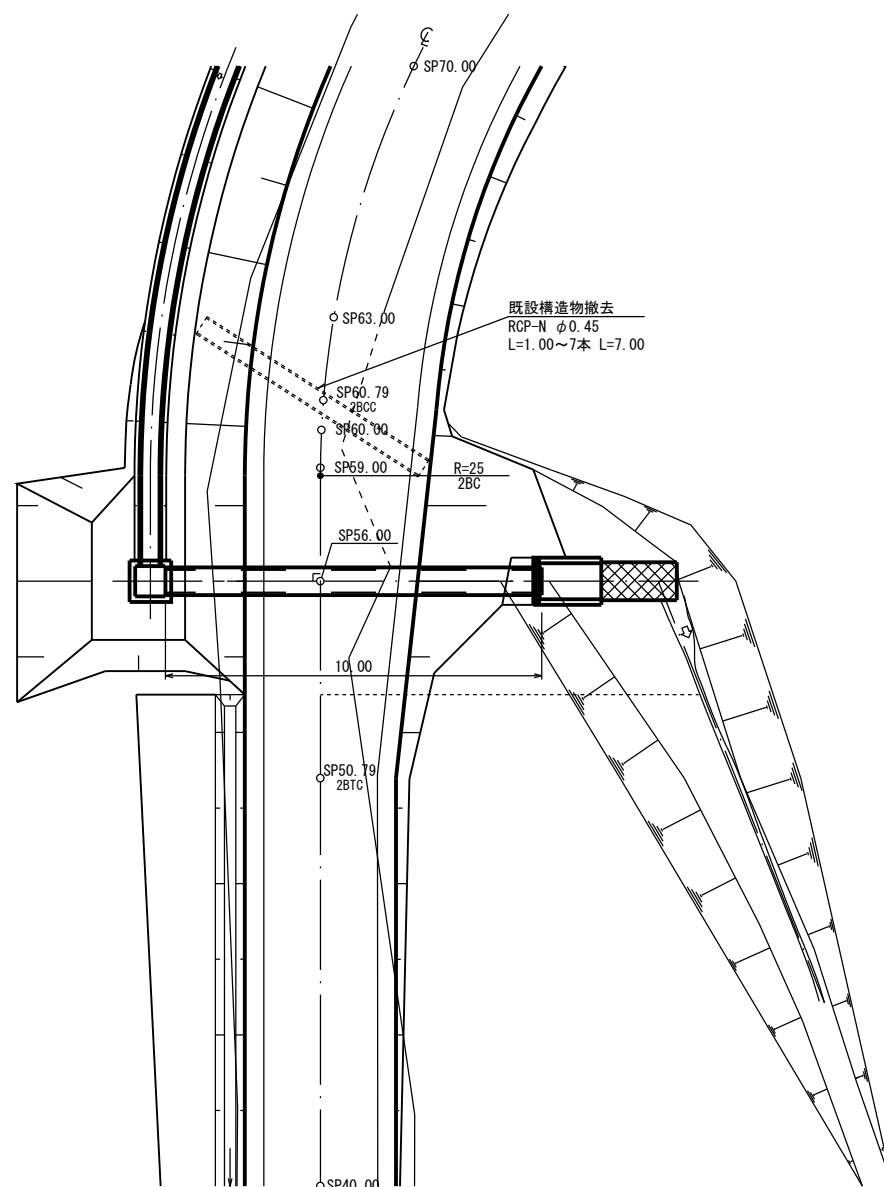
側面図

A1 S=1:100
 A3 S=1:200



平面図

A1 S=1:100
 A3 S=1:200

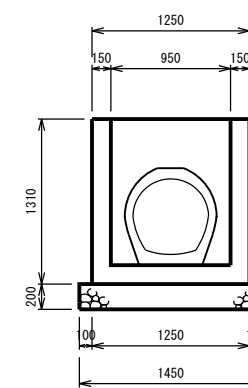


吐口柵詳細図

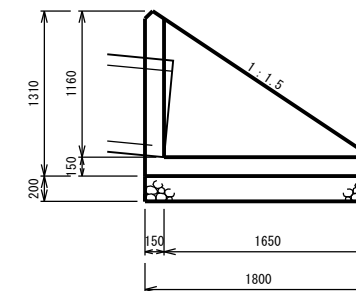
(φ600用)

A1 S=1:30
 A3 S=1:60

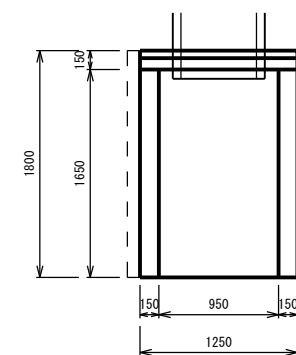
正面図



断面図



平面図

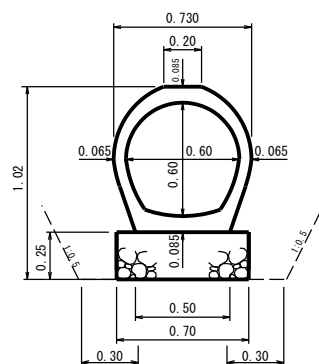


1箇所当材料表

落口柵		1基
北海道開発局型		
基礎砂利	0~80mm級	2.610m ² (t=20cm)
床均し		2.610m ²

溝渠工(暗渠工)基礎標準図
 (RCT-2 φ0.60)

A1 S=1:20
 A3 S=1:40



1m当材料表

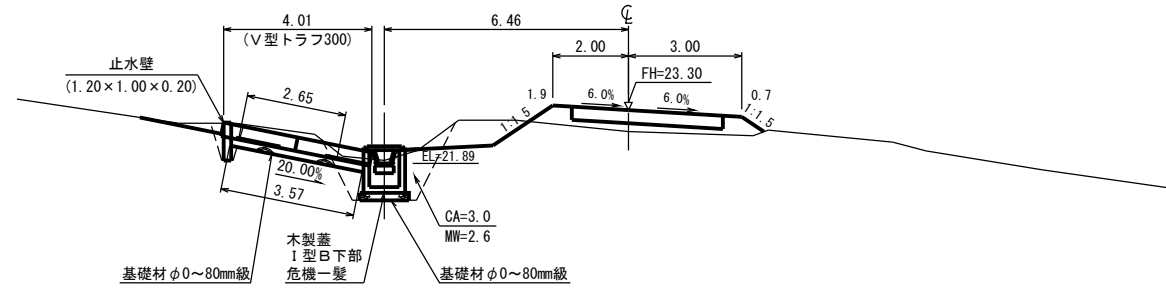
名称	数量	単位
基礎砂利	0.70	m ²
	(t=0.25)	
0~80mm級	0.175	m ³
床均し	0.70	m ²

年度	令和 6 年度				
路線名	大津長節線				
事業名	開設事業				
林道区分	森林管理道	級別区分	第2種 2級	設計速度	20 km/h
名称	排水施設図 3 葉中 1 番				
施工地	北海道中川郡豊頃町大津・長節				
施工主体	北海道十勝総合振興局				
図面番号	縮尺	図示			
会社名	株式会社ホクリンコンサルタント				
概要	SP56.00				

第 1 号 招水工 (V型トラフ300)
 SP80.00 (L) L=4.01

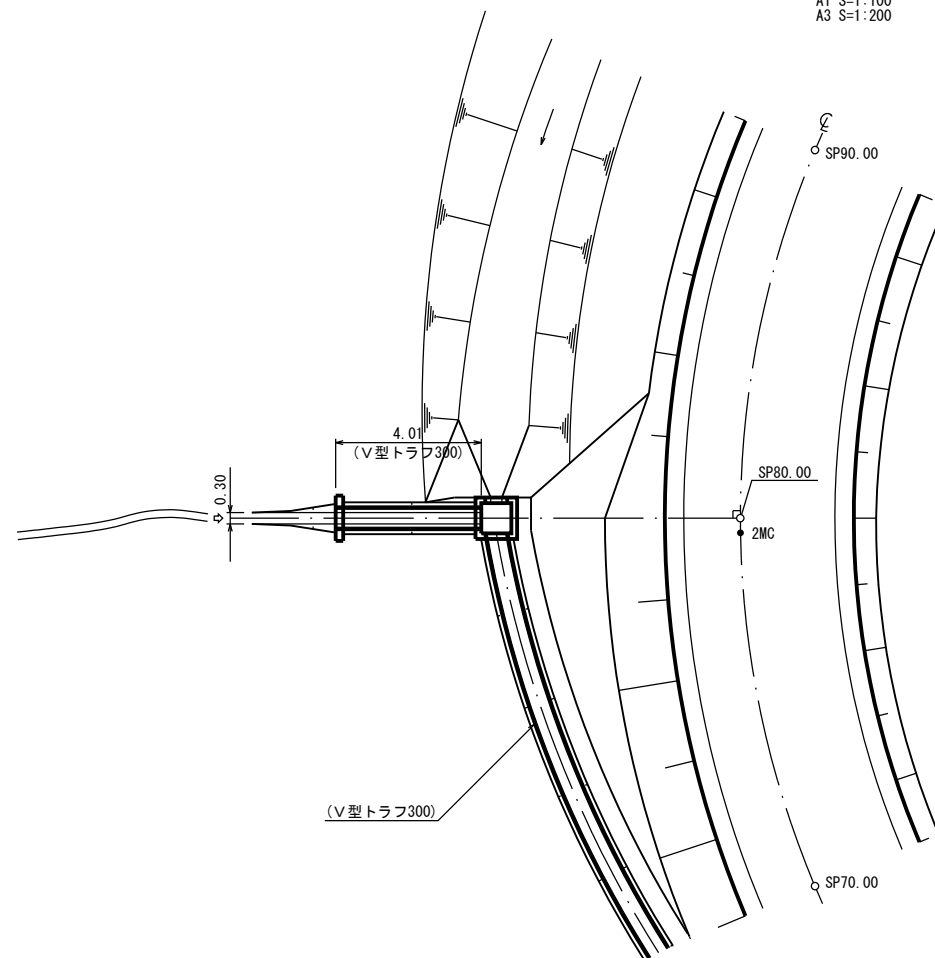
側面図

A1 S=1:100
 A3 S=1:200



平面図

A1 S=1:100
 A3 S=1:200



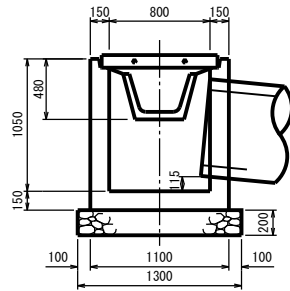
年度	令和 6 年度				
路線名	大津長節線				
事業名	開設事業				
林道区分	森林管理道	級別区分	第2種 2級	設計 速度	20 km/h
名称	排水施設 3 葉中 2 番				
施工地	北海道中川郡豊頃町大津・長節				
施工主体	北海道十勝総合振興局				
図面番号	縮尺	図示			
会社名	株式会社ホクリンコンサルタント				
概要	SP80.00				

第1号溝渠工
集水樹接続部詳細図

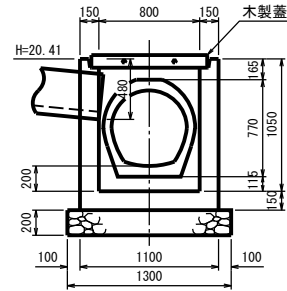
(I型B下部)

A1 S=1:30
A3 S=1:60

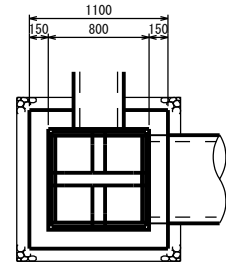
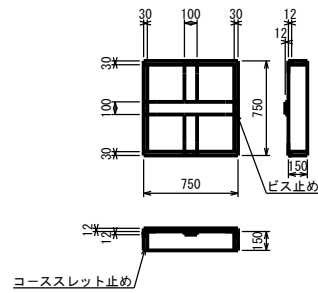
側面図
(V型トラフ300)



正面図
(RCT-2φ600)



平面図

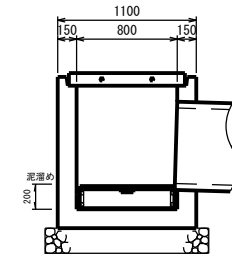


第1号溝渠工
小動物脱出保護工標準図

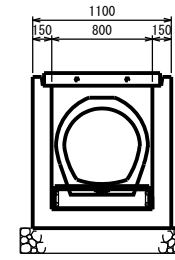
嵩上げタイプ I型B

A1 S=1:30
A3 S=1:60

断面図



正面図



一箇所当材料表 (嵩上げタイプ)

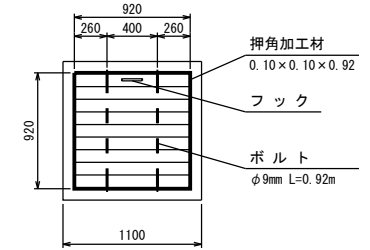
名称	種別	計算式	数量	単位
外枠		$(30 \times 150 \times 750) \times 2$	0.00675	m ³
外枠		$(30 \times 150 \times 690) \times 2$	0.00621	m ³
中材		$(12 \times 100 \times 750) \times 1$	0.0009	m ³
中材		$(12 \times 100 \times 690) \times 1$	0.0008	m ³
計			0.0147	m ³
ビス	20mm		8	本
コーススレット	57mm		8	本

集水樹用木製蓋標準図

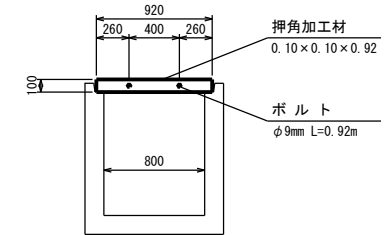
集水樹(1.10)用蓋

A1 S=1:30
A3 S=1:60

平面図



断面図



一箇所当材料表

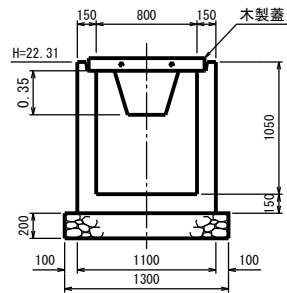
名称	規格・寸法	数量	単位
木材	押角加工材 (0.10×0.10)	0.08	m ³
ボルト	φ9mm L=0.92m 角ワッシャー2枚	2	本
フック		1	個

第1号招水工
集水樹接続部詳細図

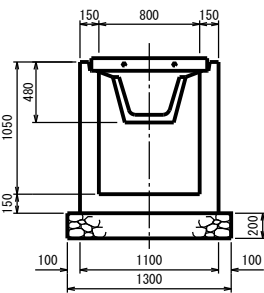
(I型B下部)

A1 S=1:30
A3 S=1:60

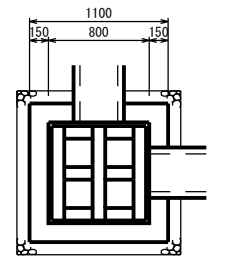
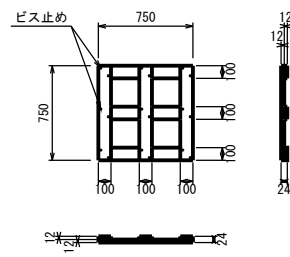
側面図
(上流素掘側溝)



正面図
側面図
(V型トラフ300)



平面図

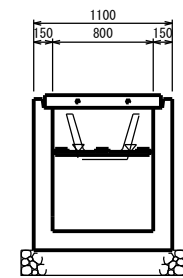


第1号招水工
小動物脱出保護工標準図

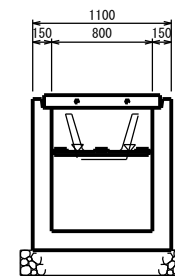
浮き島タイプ I型B

A1 S=1:30
A3 S=1:60

断面図



正面図



一箇所当材料表 (浮き島タイプ)

名称	種別	計算式	数量	単位
外枠		$(12 \times 100 \times 750) \times 4$	0.0036	m ³
中材		$(12 \times 100 \times 750) \times 2$	0.0018	m ³
計			0.0054	m ³
ビス	20mm		18	本

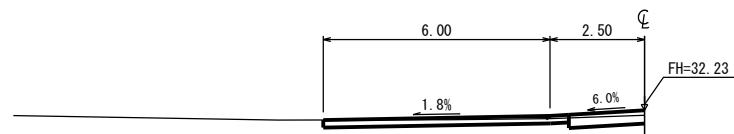
年度	令和6年度				
路線名	大津長節線				
事業名	開設事業				
林道区分	森林管理道	級別区分	第2種2級	設計速度	20 km/h
名称	排水施設 3 葉中 3 番				
施工地	北海道中川郡豊頃町大津・長節				
施工主体	北海道十勝総合振興局				
図面番号	縮尺	図示			
会社名	株式会社ホクリンコンサルタント				
概要	集水樹接続部詳細図・小動物脱出保護工標準図 集水樹用木製蓋標準図				

第 1 号 取付道路

SP220.51 (L) W=4.00 L=6.00

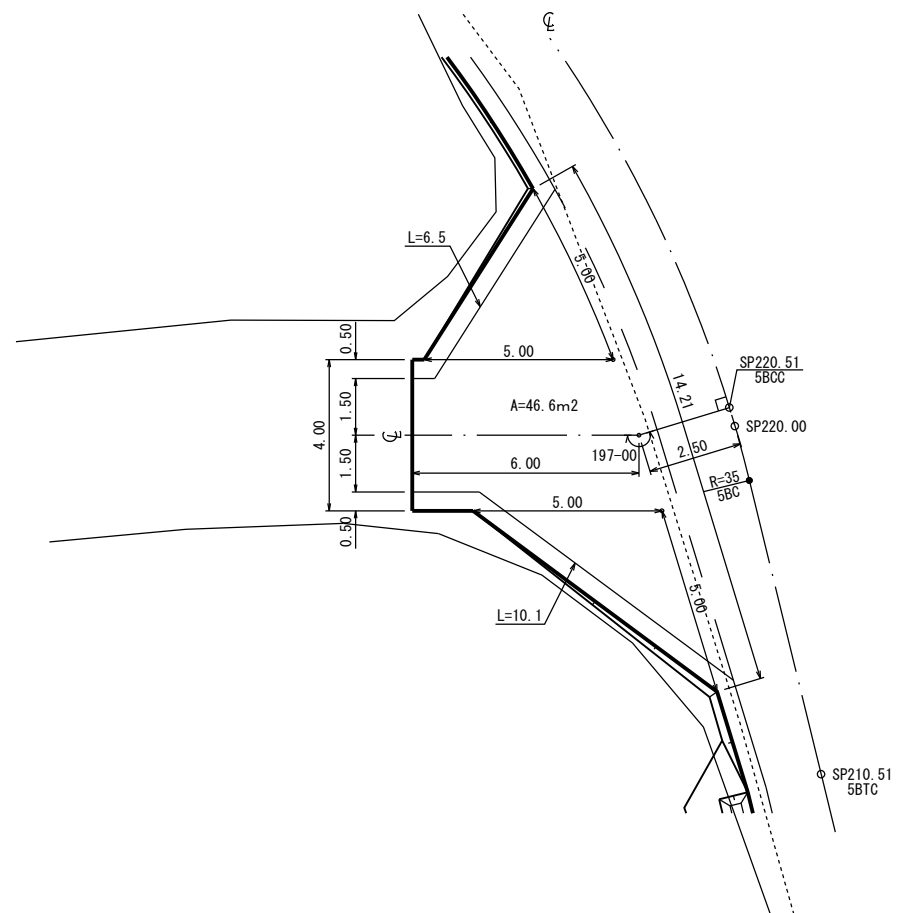
側面図

A1 S=1:100
A3 S=1:200



平面図

A1 S=1:100
A3 S=1:200

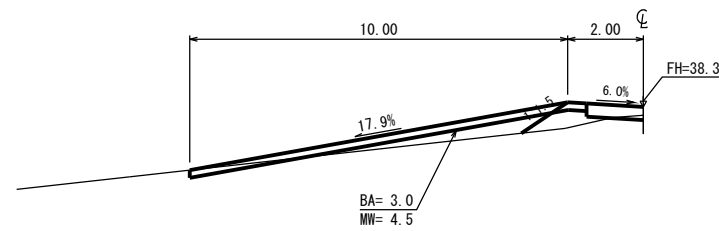


第 2 号 取付道路

SP330.00 (L) W=4.00 L=10.00

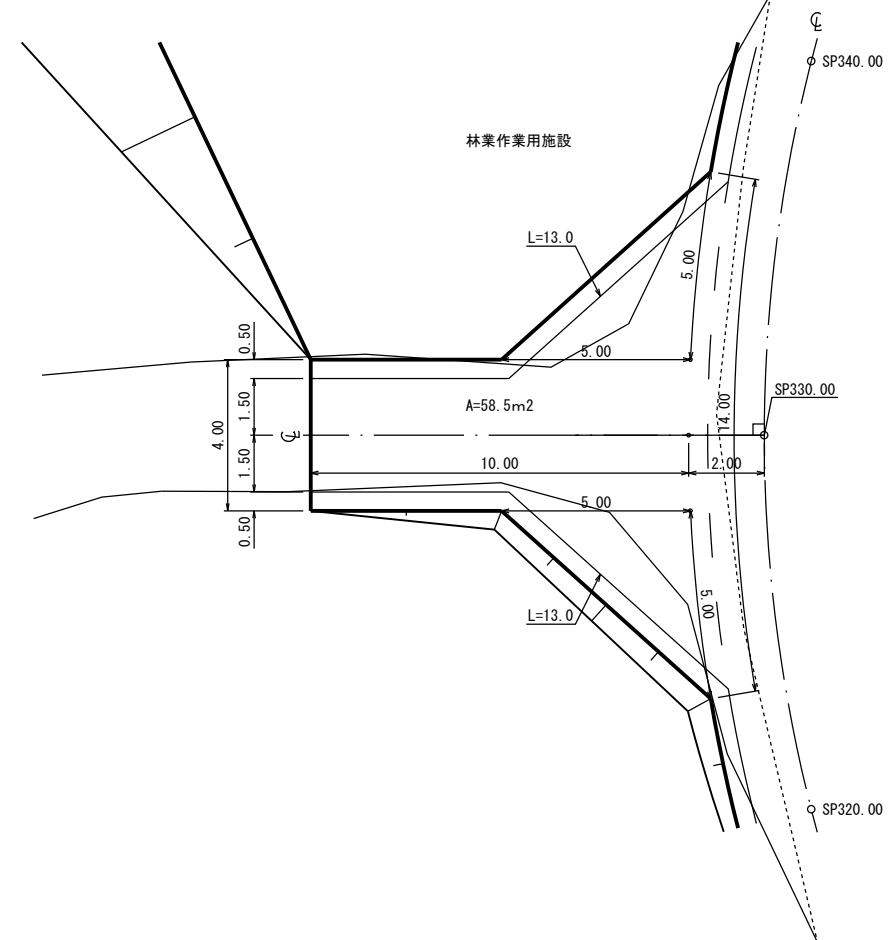
側面図

A1 S=1:100
A3 S=1:200



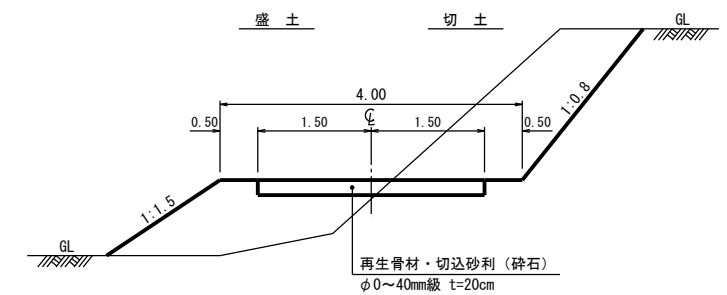
平面図

A1 S=1:100
A3 S=1:200



標準断面図

A1 S=1:50
A3 S=1:100



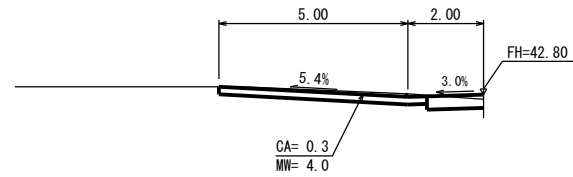
年度	令和 6 年度				
路線名	大津長節線				
事業名	開設事業				
林道区分	森林管理道	級別区分	第2種 2級	設計速度	20 km/h
名称	取付道路図 2 葉中 1 番				
施工地	北海道中川郡豊頃町大津・長節				
施工主体	北海道十勝総合振興局				
図面番号	縮尺	図示			
会社名	株式会社ホクリンコンサルタント				
概要	SP220.51(L)・SP330.00(L)				

第 3 号 取付道路

SP395.00 (L) W=4.00 L=5.00

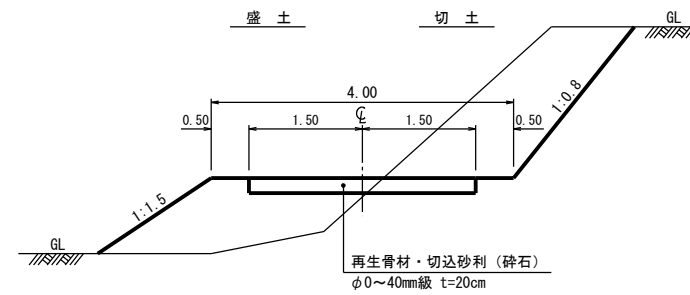
側面図

A1 S=1:100
A3 S=1:200



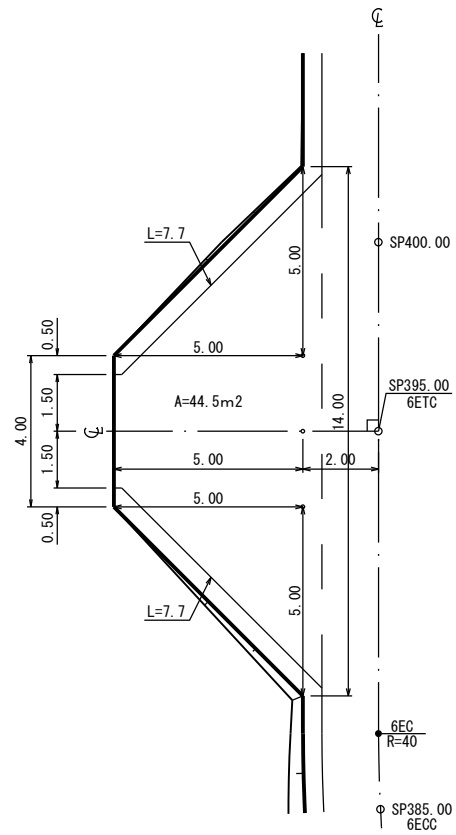
標準断面図

A1 S=1:50
A3 S=1:100



平面図

A1 S=1:100
A3 S=1:200



年度	令和 6 年度				
路線名	大津長節線				
事業名	開設事業				
林道区分	森林管理道	級別区分	第2種 2級	設計 速度	20 km/h
名称	取付道路 2 葉中 2 番				
施工地	北海道中川郡豊頃町大津・長節				
施工主体	北海道十勝総合振興局				
図面番号	縮尺	図示			
会社名	株式会社ホクリンコンサルタント				
概要	SP395.00 (L)				